

(様式第10)

東北病医 第 358 号

令和 7 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

開設者名 国立大学法人 東北大学
総長 富永 悌二

東北大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 6年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒980-8577 宮城県仙台市青葉区片平二丁目1番1号
氏名	国立大学法人 東北大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東北大学病院

3 所在の場所

〒980-8574 宮城県仙台市青葉区星陵町1番1号
電話(022)717-7000

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科		有					
内科と組み合わせた診療科名等							
<input checked="" type="radio"/>	1呼吸器内科	<input checked="" type="radio"/>	2消化器内科	<input checked="" type="radio"/>	3循環器内科	<input checked="" type="radio"/>	4腎臓内科
<input checked="" type="radio"/>	5神経内科	<input checked="" type="radio"/>	6血液内科	<input checked="" type="radio"/>	7内分泌内科	<input checked="" type="radio"/>	8代謝内科
<input checked="" type="radio"/>	9感染症内科	<input checked="" type="radio"/>	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input checked="" type="radio"/>	11リウマチ科		
診療実績				上記のほか、糖尿病・代謝・内分泌内科、漢方内科、老年内科、心療内科、腫瘍内科、脳神経内科において医療を提供している。			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科				有			
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科	○	2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
上記のほか、肝臓・胆のう・膵臓外科、胃腸外科、移植・食道・血管外科、乳腺・内分泌外科、形成外科、小児腫瘍外科、頭頸部外科において医療を提供している。							

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

- (注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科				有			
歯科と組み合わせた診療科名							
○	1小児歯科	○	2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2	病理診断科	3		4		5	
6		7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40	2	0	0	1102	1144

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数	
医師	591	13.9	604.9	看護補助者	191	診療エックス線技師	0	
歯科医師	88	28.8	116.8	理学療法士	25	臨床検査	臨床検査技師	111
薬剤師	104	0	104	作業療法士	10		衛生検査技師	1
保健師	0	0	0	視能訓練士	11		その他	0
助産師	55	0	55	義肢装具士	0	あん摩マッサージ指圧師	0	
看護師	1282	16.7	1298.7	臨床工学士	32	医療社会事業従事者	30	
准看護師	0	0	0	栄養士	0	その他の技術員	201	
歯科衛生士	15	8.7	23.7	歯科技工士	9	事務職員	404	
管理栄養士	14	0	14	診療放射線技師	76	その他の職員	215	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	98	眼科専門医	16
外科専門医	75	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	8	放射線科専門医	33
小児科専門医	30	脳神経外科専門医	11
皮膚科専門医	8	整形外科専門医	21
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	29
産婦人科専門医	25	救急科専門医	14
		合計	389

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (張替 秀郎) 任命年月日 令和 5 年 4 月 1 日

医療安全推進委員を平成29年4月1日から平成30年3月31日まで勤め、医療に係る安全管理の業務に従事した。また、現在も病院長として、医療安全推進委員会の委員を務めながら、医療に係る安全管理の業務に従事している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外		歯科等		合計	
1日当たり平均入院患者数	809	人	24.2	人	833.2	人
1日当たり平均外来患者数	2351	人	582.5	人	2933.5	人
1日当たり平均調剤数	1403.6					剤
必要医師数	219					人
必要歯科医師数	23					人
必要薬剤師数	28					人
必要(准)看護師数	520					人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	377.08 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	18 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	402	m ²	病床数	25 床
	[移動式の場合]	台数		台		
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床面積	251			m ²
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	1108 m ²	鉄骨造	(主な設備)	生化学・免疫検査装置		
細菌検査室	241 m ²	骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	クリーンベンチ		
病理検査室	492 m ²	骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	安全キャビネット		
病理解剖室	106 m ²	骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台		
研究室	7472 m ²	骨鉄筋コンクリート	(主な設備)	顕微鏡		
講義室	526 m ²	鉄筋コンクリート	室数	3 室	収容定員	478 人
図書室	4476 m ²	鉄筋コンクリート	室数	4 室	蔵書数	41万 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.5	%	逆紹介率	96.4	%
算出 根拠	A: 紹介患者の数		23704		人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		29364		人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1423		人
	D: 初診の患者の数		30471		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
武田 和憲	社会保険診療報酬支払 基金宮城審査委員会	○	医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
阿部 玲子	東北公済病院看護部		医療に係る安全管理に 関する識見を有する者	無	1
佐藤 裕一	弁護士法人 杜協同法律事務所		法律に関する識見を有 する者	無	1
原 忠篤	東北医科薬科大学病院		医療を受ける者その他 医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
東北大学及び東北大学病院のホームページへの掲載。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	大量出血を伴う手術の麻酔管理	取扱患者数	30
当該医療技術の概要 出血量5000ml以上の危機的出血に対し、麻酔科が主体となって、関連する検査部、輸血部と連携して患者を救命する。患者の生命が危機的状況にある場面においても、多数の麻酔科医を動員して緻密な麻酔管理を行うことにより、合併症を最小限に抑える。			
医療技術名	乳癌のHER2遺伝子増幅の有無に関するFISH検査	取扱患者数	202
当該医療技術の概要 乳癌組織(パラフィンブロック)を用いHER2遺伝子の増幅を調べる検査。免疫組織化学染色でHER2の発現を検索し、0、1+、2+、3+の4段階に分類。このうち、0、1+はHER2陰性と判断、3+は陽性と判断。2+のみ、FISH検査を追加し、HER2遺伝子の増幅を検索し、陽性、陰性に分類。免疫組織化学染色で2+のうち、FISHで陽性と判明するのは20%程度で、残りの80%程度はFISH陰性(HER2陰性)と判定される。FISH検査は高額なため、まず、免疫組織化学染色で選別してから、2+のみをFISHの対象にしているが、これは、日本の乳癌診療ガイドライン、ASCOガイドラインなどで推奨されている手法である。			
医療技術名	骨軟部腫瘍、脳腫瘍に対するFISHおよびPCRによる悪性遺伝子検査	取扱患者数	318
当該医療技術の概要 骨軟部腫瘍においては、滑膜肉腫やユーイング肉腫など、遺伝子学的な検査が診断に必須なものがあり、診断確定の目的で行う検査である。さらに遺伝子異常(転座)の証明が適応の有無を左右する抗がん剤も出てきており、診断のみでなく治療方針の点でも重要になってきている。また脳腫瘍に関しては、新WHO分類においてグリオーマなどの診断に遺伝子学的な情報が必須とたわわっており、遺伝子検査を行わないと診断が確定できない状況となっている。診断確定、治療方針の決定や予後予測のために必須な検査である。			
医療技術名	内視鏡的胆管結石除去術	取扱患者数	117
当該医療技術の概要 内視鏡的逆行性膵胆管造影(ERCP)に引き続き内視鏡的乳頭括約筋切開術(EST)を施行後、バスケットやバルーンで結石を除去する治療する方法で、ハイレベルな医療治療技術が必要である。			
医療技術名	体外衝撃波による膵石粉碎術	取扱患者数	22
当該医療技術の概要 ESWLを用いて膵石を破砕する治療法で、ハイレベルな医療治療技術の人的、物理的集積が必要である。			
医療技術名	内視鏡的粘膜下層剥離術	取扱患者数	222
当該医療技術の概要 早期食道癌および早期胃癌を内視鏡的に剥離、切除する治療法で、ハイレベルな医療治療技術の人的、物理的集積が必要である。			
医療技術名	肝臓に対するリアルタイムバーチャルソノグラフィ	取扱患者数	81
当該医療技術の概要 肝臓におけるCTと腹部超音波検査の画像をリアルタイムで同期可能な、当院で開発した検査法である。			
医療技術名	唇顎口蓋裂に対するチームアプローチによる集学的治療	取扱患者数	652
当該医療技術の概要 唇顎口蓋裂に対するチームアプローチによる集学的治療を行っている。			
医療技術名	自家末梢血幹細胞移植術(採取・調整・保存)	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 G-CSF投与により末梢血幹細胞を動員し、患者循環血液量の2倍の血液を一定の速度で連続的に体外循環させ、造血幹細胞分画を採取したあと、輸血部細胞プロセッシングセンターにおいて調製、凍結保存し、移植日まで超低温フリーザー内で保管管理する。			

医療技術名	前立腺癌に対する強度変調放射線療法 (IMRT)	取扱患者数	179
当該医療技術の概要			
強度変調放射線を用いることで自由度の高い放射線線量分布を達成し、直腸・尿道など前立腺周囲重要臓器の被ばく線量低減を図りながら腫瘍線量を増加することで、進行前立腺癌の治療成績を向上させる放射線療法。			
医療技術名	遠隔病理診断 (テレパソロジー)	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
テレパソロジー (遠隔病理診断) は地方の病院から遠隔操作により病理画像を伝送し、病理診断を行う遠隔医療の一つである。これにより、病理医が不在の病院における術中迅速診断を可能とし、病理医不足と偏在を補うとともに、地域病院の医療の質の向上、地域医療への貢献に寄与するものである。			
医療技術名	同種造血幹細胞移植	取扱患者数	28
当該医療技術の概要			
同種、血縁、非血縁の骨髄幹細胞、末梢血幹細胞を、前処置後に投与する。			
医療技術名	同種末梢血幹細胞移植術 (採取・調整・保存)	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
G-CSF投与により末梢血幹細胞を動員し、ドナーの末梢血を体外循環させ、血液成分分離装置にて造血幹細胞分画を採取したあと、細胞プロセッシングセンターにおいて調製、凍結保存し、移植日まで気相タンク内で保管管理する。			
医療技術名	血液型不適合骨髄移植 (赤血球除去)	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
ABO・Rh(D)血液型主不適合骨髄移植の際に、ドナー由来赤血球溶血反応を回避する目的で、遠心式血液成分分離装置を用いて、移植前の骨髄から赤血球を除去する操作である。			
医療技術名	病的肥満症に対する腹腔鏡下袖状胃切除術	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
病的肥満症は様々な併存疾患を有し、生命予後を短縮させることが分かっている。内科的治療ではリバウンドが多く欧米では外科的な減量手術 (胃の縮小を伴う手術) が一般的である。我が国では施行施設が少なくまだまだ一般的ではない。			
医療技術名	稀少遺伝子疾患の遺伝子診断と遺伝カウンセリング	取扱患者数	114
当該医療技術の概要			
稀少遺伝子疾患に対して遺伝カウンセリングを施行し、遺伝子解析を実施する。			
医療技術名	末梢血幹細胞採取における造血幹細胞の定量	取扱患者数	21
当該医療技術の概要			
自家または同種末梢血幹細胞採取の適否を判断するため、採取予定日朝に末梢血CD34陽性細胞数を定量する。さらに移植に十分な造血幹細胞が得られているかどうかを判断するために、採取産物中に含まれるCD34陽性細胞数を定量する。			
医療技術名	上咽頭癌に対する化学療法併用した強度変調放射線療法 (IMRT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
長期予後の望める上咽頭癌に強度変調放射線療法を導入することで、視神経や脳幹、耳下腺などQOLに関連する部位への照射線量を抑えつつ、病巣への線量を担保する治療法。			
医療技術名	重症急性膵炎による感染性膵壊死に対する内視鏡的壊死物質除去術	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
近年NOTESの手技を応用し、経胃的に感染性膵壊死の部位に直接内視鏡を挿入し壊死物質を取り除く方法が試みられ、良好な成績が得られている。			
医療技術名	ドップラー血流評価と蛍光血流評価を併用した先進的食道再建術	取扱患者数	69
当該医療技術の概要			
食道切除後の消化管再建術は、腹部消化管である胃、結腸を頸部まで挙上し吻合する高度な技術であるが、その成否は再建臓器の血流状態によるところが大きい。これを客観的データでとらえるために、ドップラー血流計を用いた血流絶対量の評価と、ICG蛍光カメラによるリアルタイムな視覚的血流評価を併用し、再建臓器の吻合最適部位を決定、安全で確実な消化管再建を実施している。			

医療技術名	腹臥位胸腔鏡下食道切除術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
胸腔鏡下食道切除術は従来側臥位で行われてきたが、腹臥位にすることにより、肺・心圧排操作の回避、より緻密なリンパ節郭清、副損傷の回避が可能となる。この術式はいまだ一般的ではなく、熟練食道外科医と麻酔科医の連携によって行われる高度な手術である。			
医療技術名	成人症例における歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療法	取扱患者数	274
当該医療技術の概要			
従来の矯正歯科治療と比較し、歯科矯正用アンカースクリューを歯の移動の固定源として用いることにより、患者様の協力を必要とせず、歯の移動を効率的かつ効果的に行うことが可能となる。それにより、患者様の負担軽減、治療期間の短縮を図ることができる。さらに、短期間でより多くの歯の移動は可能となる為、外科的手術を避けることも可能となる。			
医療技術名	全身麻酔下歯科治療	取扱患者数	16
当該医療技術の概要			
歯科治療恐怖症、嘔吐反射が著しい患者等、障害者等、通常の方法では歯科治療を受容できない患者に対し、全身麻酔下での歯科治療を行うものである。			
医療技術名	頭頸部がんに対するチームアプローチによる集学的治療	取扱患者数	390
当該医療技術の概要			
頭頸部がんの手術、化学療法、ならびに放射線治療前後の口腔ケア、感染原の除去(抜歯等)、開口訓練を行い、手術創部の感染や、術後の誤嚥性肺炎を予防し、さらに口腔の機能回復を図る治療			
医療技術名	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	取扱患者数	652
当該医療技術の概要			
大腸における早期癌又は腺腫を内視鏡的に剥離、切除する治療法で、ハイレベルな医療治療技術の人的、物理的集積が必要である。			
医療技術名	切除可能膵癌に対する術前化学療法	取扱患者数	19
当該医療技術の概要			
切除可能膵癌に対する標準治療戦略は手術先行であるが、手術時既に存在すると考えられる不顕性の転移病変に対して、全身状態の良い手術前に全身化学療法を行った後に切除を行う治療戦略。切除率の向上、生存期間の延長が期待できる。ハイレベルな医療技術と資源(人的・物的)の投入を必要とするもの。			
医療技術名	切除不能膵癌に対する化学療法・化学放射線療法後のサルベージ手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
切除不能と診断される膵癌に対して、一定期間治療が奏功した後に、切除を行う。化学療法・化学放射線療法のみで治療を行うよりも生存期間の延長や長期生存が得られる可能性が高まる。放射線科医と肝胆膵外科医の協同で行う、ハイレベルな医療技術と資源(人的・物的)の投入を必要とするもの。			
医療技術名	甲状腺癌に対するI-131内用療法	取扱患者数	73
当該医療技術の概要			
甲状腺分化癌にヨードが取り込まれるという性質を利用した組織内照射で、分化型甲状腺がんの転移病巣や腫瘍床の残存病変に対する治療として行われている。多発転移病変に対する腫瘍制御の治療としては数少ない手段である。			
医療技術名	持続血液透析濾過	取扱患者数	182
当該医療技術の概要			
急性腎不全の重症例や全身状態の悪い症例に対して行われる血液浄化法で、血液透析濾過を24時間持続的に行う。少量ずつ透析を持続的に行うため、全身状態に与える影響が少なく、血管外物質の除去効率が高い。			
医療技術名	血漿交換	取扱患者数	63
当該医療技術の概要			
血液を血漿分離器で血球成分と血漿成分に分離した後に、病気の原因物質を含む血漿を廃棄して、それと同じ量の健康な方の血漿(新鮮凍結血漿)、もしくはアルブミン製剤を入れて置き換える治療法。劇症肝炎、肝不全、血栓性血小板減少性紫斑病、ステロイドや免疫抑制剤の治療効果が少ない活動性の強い膠原病(全身性紅斑性エリトマトーデスなど)、神経免疫疾患などが適応となる。			

医療技術名	エンドトキシン吸着	取扱患者数	12
当該医療技術の概要			
エンドトキシン血症に伴う重症病態の改善のため、エンドトキシンを選択的に吸着除去する吸着型浄化器(トレミキシン)を用いた血液浄化療法。			
医療技術名	経皮的心肺補助(PCPS・VA-ECMO)	取扱患者数	38
当該医療技術の概要			
緊急心蘇生や重症心不全に対する循環補助が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を、膜型人工肺を用いて酸素化し動脈血として大腿動脈に送血閉鎖回路による補助循環である。			
医療技術名	体外膜型酸素化装置(VV-ECMO)	取扱患者数	27
当該医療技術の概要			
ARDSや重症肺炎(細菌性、ウイルス性)、肺外傷などの、低酸素血症や高二酸化炭素血症の重症呼吸不全が適応となる。大腿静脈から遠心ポンプにより脱血した静脈血を膜型人工肺を用いて酸素化し、中心静脈に返す補助循環である。長期体外循環による呼吸補助を行うことにより、生体肺を休ませ、肺の回復を待つ治療法である。			
医療技術名	腹部コンパートメント症候群に対するOpen Abdominal Management	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
緊急開腹手術を要する患者さんのうち、一期的な閉腹により術後管理に困難が予想される症例に対してはOpen Abdominal Managementによる段階的閉腹を心がけている。1週間以上の集中治療管理を要するためにきめの細かい管理を要する。			
医療技術名	インプラントを用いた顎義歯治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
顎骨部、顔面部に大幅な実質欠損を有する顎欠損症例において、インプラントを併用することで義歯の維持、安定の向上を図る。			
医療技術名	覚醒下脳外科手術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要			
脳に存在する機能野(言語野、運動野)を手術中に同定するために、患者を覚醒させ手術をおこなう技術。脳神経外科医の他に、神経麻酔医、脳波技師、高次脳機能学を専門とする医師の参加が必要となる。			
医療技術名	腹水濾過濃縮再静注	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
がん性腹膜炎、肝硬変、など腹水が大量に貯留し、難治性となる疾患は多岐にわたる。腹水にはがんや肝硬変に関連する細胞成分や液性因子が含まれている。この腹水を数リットル(3-7L程度)体外に抜き出し、無菌的に特殊なフィルターを通して濾過濃縮して可及的に生体に有害なサイトカインや細胞成分を除き、経静脈投与可能な質を担保し、元の患者に点滴再静注する治療法である。患者の腹満感の軽減、血漿製剤ではない自己の蛋白を再利用できる点で優れているが、濃縮工程や安全管理に高度な技術を要する治療法である。			
医療技術名	正常眼圧緑内障に対する鍼治療	取扱患者数	11
当該医療技術の概要			
正常眼圧緑内障の治療は眼圧の低下や視神経保護、眼底血流低下の改善などが行われるが、従来の点眼薬や内服薬治療を行っていても視野障害が悪化する症例もあり、鍼治療が眼底血流改善の効果を有することが示されてきており、通常治療への追加で効果を期待する治療法である。			
医療技術名	肝門部領域胆管癌手術	取扱患者数	15
当該医療技術の概要			
肝門部領域に発生した癌の切除には、局所の解剖の熟知や肝機能、残肝容積などから最適な術式を選択する必要がある。また、肝動脈、門脈などの再建が必要となる事も多く、術前、術中、術後ともに、ハイレベルな医療技術と資源(人的・物的)の投入を必要とするもの。			
医療技術名	切除境界膵癌に対する手術	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
膵臓癌は局所進行の程度により門脈や動脈に浸潤し、切除の可能性が五分五分となるような、切除境界例が多く存在する。このような症例に対して切除が可能かどうかは術前の念入な画像診断と、術中の局所の所見により判断され、安全に、かつ根治的に切除を行い、術後合併症の低減のためにはハイレベルな医療技術と資源(人的・物的)の投入を必要とする。			

医療技術名	食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)	取扱患者数	39
当該医療技術の概要			
<p>食道アカラシアは、下部食道括約筋の弛緩不全が原因であるが、この部分の筋層を切開することが治療となる。POEMは経口軟性内視鏡で、食道粘膜下層に入り、筋層切開を行う手技で、体表に創がつかず、回復も早い。高度な手技であるが、有用性は高く、今後の標準治療になるものと思われる。</p>			
医療技術名	内視鏡を用いた口内アプローチによる低侵襲手術	取扱患者数	74
当該医療技術の概要			
<p>顎口腔外科の疾患の中には、病変の位置によって皮膚切開を併用する必要があるが、顔面神経障害や顔面醜形の問題がある。特に異所性埋伏歯、良性腫瘍、唾石症、外傷において、それらの問題を改善するため、内視鏡を併用した口内アプローチを用いることにより、手術の低侵襲化が期待される治療である。</p>			
医療技術名	腹腔鏡補助下膵頭十二指腸切除術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
<p>腹部手術の中で最も侵襲の高い手術の一つである膵頭十二指腸切除を腹腔鏡補助下に行うことで手術侵襲を軽減し、術後早期回復が期待できる治療である。</p>			
医療技術名	腹腔鏡下袖状胃切除術＋十二指腸空腸バイパス術	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
<p>病的肥満症に対して我が国では腹腔鏡下袖状胃切除術が保険承認されているが、我々の研究では十二指腸空腸をバイパスし食事が通らなくすることで肥満のみならず糖尿病の改善効果があることが示されており、糖尿病を合併した病的肥満患者に対する体重減少＋糖尿病改善効果を認める有望な治療法である。</p>			
医療技術名	High Resolution Manometry (HMR) による食道運動機能評価	取扱患者数	43
当該医療技術の概要			
<p>多チャンネル圧センサーカテーテルを経鼻的に食道内に挿入留置し、全食道の詳細な運動パターンを計測し、内視鏡ならびに食道バリウム透視では検出されない食道運動異常を検出する検査である。食道アカラシア、食道運動機能異常、ジャックハンマー食道の診断および治療評価を行う。</p>			
医療技術名	慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対するカテーテル治療	取扱患者数	60
当該医療技術の概要			
<p>慢性血栓塞栓性肺高血圧症は予後不良疾患であるが、カテーテルによる肺動脈形成術を当院では行っている。また、良好な成績を収めている。</p>			
医療技術名	大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁植え込み術	取扱患者数	61
当該医療技術の概要			
<p>循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、コメディカルスタッフによるハートチームを結成し、高齢者を中心とした重症大動脈弁狭窄症に対して経カテーテル的大動脈弁植え込み術を施行しており、良好な成績を収めている。</p>			
医療技術名	3次元マッピングシステムを用いたカテーテルアブレーション	取扱患者数	254
当該医療技術の概要			
<p>心房細動や心室頻拍などの詳細な解剖の把握が必要となる不整脈治療において、CARTO, EnSite, RHYTHMIAなどの3次元マッピングシステムを用いて良好な成績を収めている。</p>			
医療技術名	胃癌のHER2遺伝子増幅の有無に関するFISH検査	取扱患者数	33
当該医療技術の概要			
<p>胃癌組織(パラフィンブロック)を用いHER2遺伝子の増幅を調べる検査。免疫組織化学染色でHER2の発現を検索し0, 1+, 2+, 3+の4段階に分類。このうち0, 1+はHER2陰性と判断、3+は陽性と判断。2+のみ、FISH検査を追加し、HER2遺伝子の増幅を検索し、陽性、陰性に分類。免疫組織化学染色で2+のうち、FISHで陽性と判明するのは30%強で、残りの70%程度はFISH陰性(HER2陰性)と判定される。FISH検査は高額なため、まず、免疫組織化学染色で選別してから、2+のみをFISHの対象にしているが、これは、日本の胃癌診療ガイドラインなどで推奨されている手法である。</p>			
医療技術名	がんクリニカルシーケンス検査	取扱患者数	485
当該医療技術の概要			
<p>次世代シーケンサーを用いてがん関連遺伝子の遺伝子変異および融合遺伝子検査を行い、治療標的となる遺伝子異常の同定とその遺伝子異常に基づいた最適な治療薬の提案を行う。</p>			

医療技術名	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) 2 低位前方切除術	取扱患者数	46
当該医療技術の概要			
直腸癌と診断され、他の臓器に浸潤がなくがんの進行度(ステージ)が0からIIIで、手術により病巣を完全に切除(根治手術)可能と判断された直腸癌治療のため、遠隔操作による手術ロボット「da Vinci Surgical System」を用いて、内視鏡下を行うもの。この装置(ロボット)を用いて、お腹の中の構造を立体的で高解像度な画像で把握して、操作ボックスの手術者の動きを術野において器具の微細な動きとして忠実に再現し、手術を行う。直腸が位置する狭い骨盤の中には性、排尿機能をつかさどる多数の神経が存在し、癌の根治性を担保しながら神経を温存することによって機能温存を図る可能が高くなる手術が可能と期待されています。			
医療技術名	腸管不全関連肝機能障害に対する ω 3系脂肪製剤投与	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
肝機能障害を来した腸管不全症例に対する治療法の1つとして、 ω 3系脂肪製剤の投与が著明な改善効果を有すると報告されている。しかし、現在、国内で認可されている静脈投与可能な脂肪製剤は ω 6系脂肪製剤のみである。入手可能な ω 3系脂肪製剤はOMEGA VENだが、これは国内では製造・販売・承認されておらず、保険診療内では行えない治療で、倫理委員会の許可を得て行っている治療法である。			
医療技術名	婦人科癌に対する組織内照射	取扱患者数	57
当該医療技術の概要			
婦人科癌において、腫瘍の大きさや形状によって、通常の腔内照射のみでは腫瘍に線量が十分カバーされない事もあるので、組織内照射を併用することで、抗腫瘍効果ならびに副作用軽減がより期待できる治療である。			
医療技術名	顎顔面領域でのCAD/CAMサージカルガイドによるコンピューター支援手術	取扱患者数	166
当該医療技術の概要			
歯科顎口腔外科、形成外科、耳鼻科、歯科技術部門による連携により、顎骨切除時の三次元的な顎位復元を目的としたガイド作製や、矯正歯科と歯科顎口腔外科で治療にあたる顎矯正手術時の上顎骨位置決めスプリントの作製において、コンピューターシミュレーションを応用して術後予測を検討し、そのシミュレーションの確実な施行のためのサージカルガイドをCAD/CAMにて作製し、手術支援を行う。この支援手術により、手術時間の短縮、咬合機能、接触嚥下機能、審美的満足度の向上がはかれる。			
医療技術名	高強度硬質レジンブリッジ治療	取扱患者数	6
当該医療技術の概要			
コンポジットレジンブリッジをグラスファイバーで補強することで、メタルフリーのブリッジを臼歯部に適応する治療であり、良好な成績を収めている。			
医療技術名	ロボット支援下食道切除術	取扱患者数	39
当該医療技術の概要			
高度な技術が求められる胸腔鏡下食道癌手術において、より繊細な操作のできるロボットを利用することにより反回神経麻痺の発生を抑制できるなどの効果が認められている。高度な技術と知識を要する手術である。			
医療技術名	食道癌放射線治療後の局所再発に対する光線力学療法	取扱患者数	14
当該医療技術の概要			
食道癌放射線治療後の局所再発に対して内視鏡下に行う治療方法。光感受性物質であるレザフィリンとレーザーを組み合わせ腫瘍細胞を壊死させる。Salvage食道切除術と比べ非侵襲的であり、かつ局所制御に優れている。			
医療技術名	胸椎後縦靭帯骨化症に対する3Dナビゲーションを用いた骨化巣前方浮上術	取扱患者数	7
当該医療技術の概要			
下肢に重篤な麻痺を生じる病態である胸椎後縦靭帯骨化症に対しては、その解剖学的な位置関係から前方の骨化巣を浮上させる極めて高度かつ難易度の高い手技が要求される。当院では3Dナビゲーションを用いた方法を導入している。			
医療技術名	ポリグリコール酸シートおよび自己フィブリン糊を用いた口腔外科手術	取扱患者数	9
当該医療技術の概要			
顎口腔領域の手術における切除創面の被覆および局所止血を目的として、ポリグリコール酸シート(PGAシート)と共に自己フィブリン糊を用いる方法である。自己血漿から自己フィブリン糊調製装置(クリオシールシステム)により自己クリオプレシベート(自己クリオ)と自己トロンピンを作製して用いる。創傷被覆・止血・接着に加え、組織修復促進や局所感染予防の効果も期待される。			

医療技術名	CAR-T細胞療法に用いる患者の末梢単核球の採取・調製・保管	取扱患者数	25
当該医療技術の概要			
難治性悪性リンパ腫や急性リンパ性白血病への治療として、患者Tリンパ球をアフェレーシスにより十分量採取し、遺伝子改変したキメラ抗原受容体を発現させ、患者体内に戻すのがCAR-T療法である。自己リンパ球採取が再生医療等製品の原材料に当たるため、品質管理体制に関して監査を受け、認可された施設のみが実施できる。			
医療技術名	画像・髄液バイオマーカーを通じたアルツハイマー病の診断	取扱患者数	29
当該医療技術の概要			
脳内の病理変化を反映する画像バイオマーカーや髄液バイオマーカーの組み合わせを通じて、早期の段階でアルツハイマー病を診断する技術。従来から用いられている認知機能検査・臨床症候・形態画像による診断よりも早期の段階の変化であるアミロイド・タウ・蓄積と神経細胞死のマーカーとの組み合わせで、認知機能低下や臨床症候が明らかとなる前の段階で判定する。			
医療技術名	心臓移植治療	取扱患者数	3
当該医療技術の概要			
重症心不全の患者さんに対し、脳死ドナーからの心臓移植（認定施設/東北地方唯一）を施行している。			
医療技術名	経皮的CTガイド下ラジオ波焼灼術による原発性アルドステロン症の治療	取扱患者数	5
当該医療技術の概要			
二次性高血圧症である原発性アルドステロン症の内、片側性のアルドステロン産生腺腫を原因とする症例に対し、CTガイド下にラジオ波焼灼針を原因副腎腺腫に穿刺、焼灼してアルドステロンを正常化する治療。当院で行なった医師主導治験により2021年6月に保険収載された低侵襲治療である。			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	取扱患者数	28
当該医療技術の概要			
高度な技術が求められる腹腔鏡下肝切除において、より繊細な操作のできるロボットを利用することにより、患者のアウトカムに寄与すると期待されている。高度な技術と知識を要する手術である。			
医療技術名	自家CBA法による脱髄性疾患の診断	取扱患者数	1232
当該医療技術の概要			
当科では自家で開発した標的蛋白を発現する生細胞を用いた立体構造を認識する免疫標識法（CBA法）により、アクアポリン4やミエリンオリゴデンドロサイト糖蛋白（MOG）に対する自己抗体検査を確立し診断法を提供している。受託事業などで提携する会社に技術移転を行うとともに、国内外から検査を受託し最新の高感度診断方法を開発している。			
医療技術名	自己抗体関連神経疾患に対するB細胞除去療法	取扱患者数	52
当該医療技術の概要			
NMDA受容体抗体脳炎をはじめとする自己抗体関連辺縁系脳炎は、劇症型の脳炎を発症し予後不良でありながら、その希少性のために治療法は確立していない。海外では近年B細胞除去療法が広く行われ有効性や安全性が確立しつつある。当院では、自己抗体関連の辺縁系脳炎など治療法のない神経疾患に対してリツキシマブを用いたB細胞除去療法を実施している。			
医療技術名	コロナ後遺症の治療介入	取扱患者数	83
当該医療技術の概要			
コロナ後遺症では慢性咳嗽・倦怠感・筋肉痛・関節痛・記憶障害・うつ状態など様々な症状が数ヶ月から2年間、遷延する。コロナ後遺症の治療方法は未知である。総合診療科では沢山の軽症～中等症のコロナ感染症の治療経験より、コロナ後遺症に対して漢方薬やステロイドを使用しながら治療に取り組んでいる。			
医療技術名	植込型補助人工心臓治療	取扱患者数	4
当該医療技術の概要			
重症心不全の患者に対して、心臓移植治療までの橋渡し治療（BTT）または永久的治療（DT）として行っている。			
医療技術名	ロボット支援鏡視下咽喉頭手術	取扱患者数	20
当該医療技術の概要			
咽喉頭癌に対する鏡視下手術において、より繊細な操作が可能なロボット支援手術により切除断端陰性や術後のQOL向上が見込まれる。高度な知識と技術を要する。			

医療技術名	頭頸部光免疫療法	取扱患者数	3
当該医療技術の概要 手術による切除不能かつ放射線治療後の頭頸部がん患者に対する腫瘍縮小を目的とした新規治療。腫瘍に特異性の高い抗体薬と光に反応する物質の複合体の投与と特定の波長のレーザー照射を組み合わせたものであり、新たな治療の選択肢である。			
医療技術名	舌下神経刺激装置植込術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 CPAP不耐の重症睡眠時無呼吸患者に対し、舌下神経を刺激して舌を前突させることにより閉鎖を解除することで無呼吸・低呼吸イベントを減じる治療。高度な手術技能と指導・管理が求められる			
医療技術名	僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術	取扱患者数	16
当該医療技術の概要 循環器内科、心臓血管外科、麻酔科、コメディカルスタッフによるハートチームを結成し、外科手術が高リスクである重症僧帽弁閉鎖不全症に対して経皮的僧帽弁クリップ術を施行しており、良好な成績を収めている。			
医療技術名	心原性ショック等の薬物療法抵抗性の急性心不全に対するIMPELLAカテーテル	取扱患者数	14
当該医療技術の概要 IMPELLAはカテーテル型の経皮的左室補助装置であり、小型軸流式ポンプがカテーテルに内包され、左室内に留置されたカテーテルの先端より血液を吸い込み、上行大動脈へ送血することで左室補助を行う。薬剤療法抵抗性の急性心不全患者のアウトカム改善に寄与することが期待される。			
医療技術名	歯根端切除術における自己血製剤注入	取扱患者数	19
当該医療技術の概要 根尖性歯周炎を放置することで生じる顎骨破壊は、標準治療による治療が奏効せず、骨内病変の外科的摘出が必要となる。摘出後に欠損した顎骨内に、自己血から得られ、高い骨再生誘導能力が報告されているCGFを填入する治療法。本法は、当院を主施設とした他施設共同臨床研究から、有用性が明らかになり実施されている。			
医療技術名	治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療	取扱患者数	20
当該医療技術の概要 クロザピンは、複数の抗精神病薬による治療に十分な効果が得られない場合や、耐用性の問題から十分量の抗精神病薬を使用できない場合に適応となる治療抵抗性統合失調症に対する薬剤である。無顆粒球症や糖尿病などの副作用が知られており、定期的なモニタリングに加え、血液内科や糖尿病内科との連携が不可欠である。			
医療技術名	難治性うつ病や統合失調症に対する修正型電気けいれん療法(mECT)	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 mECTは、難治性うつ病や統合失調症に対して有効性が示されている治療法である。脳への電気刺激により痙攣を誘発して治療効果を得るため、麻酔薬や筋弛緩薬の投与が必要であり、麻酔科医との連携のもとで実施される。			
医療技術名	神経内分泌腫瘍に対するルテチウム-177によるRI治療	取扱患者数	32
当該医療技術の概要 ソマトスタチン受容体に薬剤が結合し細胞内に取り込まれる性質を利用し、そのペプチドにルテチウム-177を結合させた薬剤を用い、腫瘍を内側から放射線照射を行い治療するものである。ソマトスタチン受容体陽性の神経内分泌腫瘍に対して行っている。多発転移病変に対する腫瘍制御的治療としては数少ない手段である。			
医療技術名	コンポジットグラフトを含む脳死肝小腸同時移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要 高度肝障害を合併した腸管不全患者では小腸移植および肝移植が必要となる。脳死ドナーの少ない本邦では異時性肝小腸移植で対応してきたが、海外では脳死肝小腸同時移植が一般的である。肝小腸を一塊として移植するコンポジットグラフト移植は血管吻合も減り、胆道再検が不要となるため、移植手技自体の技術的難易度はそれぞれの移植よりもむしろ易しく、虚血時間も短縮することが可能であり、手術成績の向上に寄与することが期待される。			

医療技術名	顆粒球輸注	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
高度な好中球減少状態の患者が重篤な感染症を併発し、薬物的治療のみでは改善が見込めず致死的になり得るが、数週間後に好中球の回復が見込める場合、ABO血液型が同一またはマイナーミスマッチの健常ドナーから、顆粒球をアフエレーシス採取し、放射線照射後に患者に投与し、感染コントロールを計る治療法である			
医療技術名	肝臓移植	取扱患者数	13
当該医療技術の概要			
肝不全に対する唯一の救命手段である治療として実施している。			
医療技術名	脳死下臍腎移植	取扱患者数	1
当該医療技術の概要			
I型糖尿病に対する唯一の外科治療として東北地方唯一の施設として実施している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	81
取扱い患者数の合計(人)	6948

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数	疾患名		患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	9	58	肥大型心筋症	32
2	筋萎縮性側索硬化症	86	59	拘束型心筋症	1
3	脊髄性筋萎縮症	1	60	再生不良性貧血	41
4	原発性側索硬化症	1	61	自己免疫性溶血性貧血	6
5	進行性核上性麻痺	13	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	3
6	パーキンソン病	73	63	特発性血小板減少性紫斑病	65
7	大脳皮質基底核変性症	7	64	血栓性血小板減少性紫斑病	4
8	ハンチントン病	1	65	原発性免疫不全症候群	46
9	神経有棘赤血球症	0	66	IgA 腎症	94
10	シャルコー・マリー・トウス病	3	67	多発性嚢胞腎	48
11	重症筋無力症	52	68	黄色靱帯骨化症	5
12	先天性筋無力症候群	0	69	後縦靱帯骨化症	71
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	310	70	広範脊柱管狭窄症	7
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	31	71	特発性大腿骨頭壊死症	76
15	封入体筋炎	17	72	下垂体性ADH分泌異常症	24
16	クドウ・深瀬症候群	1	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
17	多系統萎縮症	19	74	下垂体性PRL分泌亢進症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	68	75	クッシング病	10
19	ライソゾーム病	29	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	4	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	22
21	ミトコンドリア病	26	78	下垂体前葉機能低下症	159
22	もやもや病	22	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
23	プリオン病	1	80	甲状腺ホルモン不応症	1
24	亜急性硬化性全脳炎	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	8
25	進行性多巣性白質脳症	0	82	先天性副腎低形成症	1
26	HTLV-1関連脊髄症	9	83	アジソン病	0
27	特発性基底核石灰化症	0	84	サルコイドーシス	225
28	全身性アミロイドーシス	31	85	特発性間質性肺炎	132
29	ウルリツヒ病	0	86	肺動脈性肺高血圧症	120
30	遠位型ミオパチー	11	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
31	ベスレムミオパチー	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	115
32	自己食空胞性ミオパチー	1	89	リンパ管腫症	45
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	90	網膜色素変性症	54
34	神経線維腫症	36	91	バッド・キアリ症候群	7
35	天疱瘡	21	92	特発性門脈圧亢進症	5
36	表皮水疱症	3	93	原発性胆汁性胆管炎 旧病名(原発性胆汁性肝硬変)	64
37	膿疱性乾癬(汎発型)	12	94	原発性硬化性胆管炎	23
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	3	95	自己免疫性肝炎	20
39	中毒性表皮壊死症	1	96	クローン病	437
40	高安動脈炎	92	97	潰瘍性大腸炎	441
41	巨細胞性動脈炎	18	98	好酸球性消化管疾患	6
42	結節性多発動脈炎	32	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	6
43	顕微鏡的多発血管炎	44	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	25	101	腸管神経節細胞減少症	6
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	42	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
46	悪性関節リウマチ	5	103	CFC症候群	0
47	バージャー病	5	104	コステロ症候群	1
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	13	105	チャージ症候群	1
49	全身性エリテマトーデス	602	106	クリオピリン関連周期熱症候群	1
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	276	107	若年性特発性関節炎 旧病名(全身型若年性特発性関節炎)	1
51	全身性強皮症	160	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
52	混合性結合組織病	103	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	1
53	シェーグレン症候群	92	110	ブラウ症候群	4
54	成人スチル病	26	111	先天性ミオパチー	0
55	再発性多発軟骨炎	9	112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0
56	ベーチェット病	167	113	筋ジストロフィー	24
57	特発性拡張型心筋症	164	114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
116	アトピー性脊髄炎	0	171	ウィルソン病	6
117	脊髄空洞症	3	172	低ホスファターゼ症	1
118	脊髄髄膜瘤	1	173	VATER症候群	0
119	アイザックス症候群	1	174	那須・ハコラ病	0
120	遺伝性ジストニア	0	175	ウィーバー症候群	0
121	神経フェリチン症	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	3	177	ジュベール症候群関連疾患 旧病名(有馬症候群)	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白 質脳症	0	178	モワット・ウィルソン症候群	1
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性 脳動脈症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びま ん性白質脳症	0	180	ATR-X症候群	0
126	ペリー症候群	0	181	クルーゾン症候群	1
127	前頭側頭葉変性症	7	182	アペール症候群	0
128	ビッカースタッフ脳幹脳炎	0	183	ファイファー症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳炎	0	184	アントレー・ビクスラー症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
131	アレキサンダー病	0	186	ロスマンド・トムソン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	187	歌舞伎症候群	0
133	メビウス症候群	0	188	多脾症候群	1
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	189	無脾症候群	1
135	アイカルディ症候群	1	190	鰓耳腎症候群	0
136	片側巨脳症	0	191	ウェルナー症候群	1
137	限局性皮質異形成	0	192	コケイン症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	6
139	先天性大脳白質形成不全症	0	194	ソス症候群	1
140	ドラベ症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1	196	ヤング・シンブソン症候群	0
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	197	1p36欠失症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	198	4p欠失症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	8	199	5p欠失症候群	0
145	ウエスト症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
146	大田原症候群	0	201	アンジェルマン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	202	スミス・マギニス症候群	1
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	203	22q11.2欠失症候群	2
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	204	エマヌエル症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	205	脆弱X症候群関連疾患	0
151	ラスムッセン脳炎	1	206	脆弱X症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	207	総動脈幹遺残症	4
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	2	208	修正大血管転位症	6
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	209	完全大血管転位症	18
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	210	単心室症	10
156	レット症候群	0	211	左心低形成症候群	1
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	212	三尖弁閉鎖症	3
158	結節性硬化症	14	213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	3
159	色素性乾皮症	0	214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	13
160	先天性魚鱗癬	1	215	ファロー四徴症	22
161	家族性良性慢性天疱瘡	0	216	両大血管右室起始症	8
162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	19	217	エプスタイン病	4
163	特発性後天性全身性無汗症	11	218	アルポート症候群	7
164	眼皮膚白皮症	0	219	ギャロウェイ・モワト症候群	0
165	肥厚性皮膚骨膜炎	0	220	急速進行性糸球体腎炎	3
166	弾性線維性仮性黄色腫	1	221	抗糸球体基底膜腎炎	3
167	マルファン症候群	12	222	一次性ネフローゼ症候群	50
168	エーラス・ダンロス症候群	8	223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3
169	メンケス病	0	224	紫斑病性腎炎	5

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
225	先天性腎性尿崩症	1	276	軟骨無形成症	1
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	4
227	オスラー病	7	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
228	閉塞性細気管支炎	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病)	2
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	14	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	5
230	肺胞低換気症候群	22	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	9
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	1	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
232	カーニー複合	2	283	後天性赤芽球癆	3
233	ウォルフラム症候群	2	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	2
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	285	ファンconi貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	2	286	遺伝性鉄芽球性貧血	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	2	287	エプスタイン症候群	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1	288	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	2	289	クロンカイト・カナダ症候群	4
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
240	フェニルケトン尿症	11	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	1
241	高チロシン血症1型	0	292	総排泄腔外反症	3
242	高チロシン血症2型	0	293	総排泄腔遺残	3
243	高チロシン血症3型	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
244	メープルシロップ尿症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
245	プロピオン酸血症	2	296	胆道閉鎖症	44
246	メチルマロン酸血症	2	297	アラジール症候群	2
247	イソ吉草酸血症	0	298	遺伝性膵炎	6
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	299	嚢胞性線維症	0
249	グルタル酸血症1型	0	300	IgG4関連疾患	69
250	グルタル酸血症2型	1	301	黄斑ジストロフィー	0
251	尿素サイクル異常症	2	302	レーベル遺伝性視神経症	3
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	303	アッシャー症候群	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	304	若年発症型両側性感音難聴	1
254	ポルフィリン症	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	2	306	好酸球性副鼻腔炎	40
256	筋型糖原病	1	307	カナハン病	0
257	肝型糖原病	4	308	進行性白質脳症	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	309	進行性ミオクロームステんかん	1
259	レンチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0	310	先天異常症候群	1
260	システロール血症	0	311	先天性三尖弁狭窄症	0
261	タンジール病	0	312	先天性僧帽弁狭窄症	0
262	原発性高カイロミクロン血症	0	313	先天性肺静脈狭窄症	0
263	脳髄黄色腫症	0	314	左肺動脈右肺動脈起始症	0
264	無 β リポタンパク血症	1	315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0
265	脂肪萎縮症	1	316	カルニチン回路異常症	1
266	家族性地中海熱	11	317	三頭酵素欠損症	0
267	高IgD症候群	0	318	シトリン欠損症	4
268	中條・西村症候群	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
270	慢性再発性多発性骨髄炎	1	321	非ケト-シス型高グリシン血症	0
271	強直性脊椎炎	36	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
272	進行性骨化性線維異形成症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
274	骨形成不全症	2	325	遺伝性自己炎症疾患	1
275	タナトフォリック骨異形成症	0	326	大理石骨病	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数
327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	6
328	前眼部形成異常	0
329	無虹彩症	3
330	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症 旧病名(先天性気管狭窄症)	2
331	特発性多中心性キャスルマン病	8
332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0
334	脳クレアチン欠乏症候群	0
335	ネフロン癆	0
336	家族性低βリポタンパク血症1 (ホモ接合体)	0
337	ホモシスチン尿症	6
338	進行性家族性肝内胆汁うっ滞症	0
339	MECP2重複症候群	0
340	線毛機能不全症候群(カルタゲナー症候群を含む。)	1
341	TRPV4異常症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	204
合計患者数(人)	5,908

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・医療安全対策加算1
・歯科外来医療安全対策加算2	・感染対策向上加算1
・歯科診療特別対応連携加算	・感染対策向上加算1の注2に規定する指導強化加算
・歯科外来診療感染対策加算4	・感染対策向上加算1の注5に規定する抗菌薬適正使用体制加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟) 7対1入院基本料	・患者サポート体制充実加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟) 13対1入院基本料	・重症患者初期支援充実加算
・救急医療管理加算	・褥瘡ハイリスク患者ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・診療録管理体制加算1	・ハイリスク分娩管理加算
・医師事務作業補助体制加算1(20対1)	・術後疼痛管理チーム加算
・急性期看護補助体制加算1	・バイオ後続品使用体制加算
・看護職員夜間配置加算(12対1)	・後発医薬品使用体制加算2
・療養環境加算	・病棟薬剤業務実施加算1 注2に規定する薬剤業務向上加算
・重症者等療養環境特別加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・無菌治療室管理加算1	・データ提出加算2
・無菌治療室管理加算2	・入退院支援加算1
・放射線治療病室管理加算(治療用放射性同位元素による場合)	・入退院支援加算3
・放射線治療病室管理加算(密封小線源による場合)	・精神科入退院支援加算
・緩和ケア診療加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・小児緩和ケア診療加算	・精神疾患診療体制加算
・精神科応急入院施設管理加算	・精神科急性期医師配置加算
・精神病棟入院時医学管理加算	・排尿自立支援加算
・精神科身体合併症管理加算	・地域医療体制確保加算
・精神科リエゾンチーム加算	・救命救急入院料3
・摂食障害入院医療管理加算	・特定集中治療室管理料1
・栄養サポートチーム加算	・ハイケアユニット入院医療管理料1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の「注11」に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・歯周組織再生誘導手術
・歯科疾患在宅療養管理料の「注4」に掲げる在宅総合医療管理加算及び在宅患者歯科治療時医学管理料	・顎関節人工関節全置換術(歯科)
・有床義歯咀嚼機能検査1のイ	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・有床義歯咀嚼機能検査1のロ	・歯根端切除手術の注3
・咀嚼能力検査	・歯科麻酔管理料
・有床義歯咀嚼機能検査2のイ	・口腔病理診断管理加算2
・有床義歯咀嚼機能検査2のロ	・クラウン・ブリッジ維持管理料(補綴物維持管理料)
・咬合圧検査	・歯科矯正診断料
・精密触覚機能検査	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・睡眠時歯科筋電図検査	
・歯科画像診断管理加算1	・ウイルス疾患指導料
・歯科画像診断管理加算2	・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
・歯科口腔リハビリテーション料2	・外来栄養食事指導料の注3に規定する基準
・口腔粘膜処置	・高度難聴指導管理料
・口腔粘膜血管腫凝固術	・糖尿病合併症管理料
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法(歯科)	・がん性疼痛緩和指導管理料
・レーザー機器加算	・がん患者指導管理料イ
・手術用顕微鏡加算	・がん患者指導管理料ロ
・う蝕歯無痛の窩洞形成加算	・がん患者指導管理料ハ
・光学印象	・がん患者指導管理料ニ
・歯科技工士連携加算1及び光学印象歯科技工士連携加算	・外来緩和ケア管理料
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・移植後患者指導管理料(臓器移植後)
・手術時歯根面レーザー応用加算	・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算1及び2	・糖尿病透析予防指導管理料
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・小児運動器疾患指導管理料
・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・乳腺炎重症化予防・ケア指導料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・婦人科特定疾患治療管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・腎代替療法指導管理料	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
・一般不妊治療管理料	・皮下連続式グルコース測定
・生殖補助医療管理料1	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
・二次性骨折予防継続管理料1	・遺伝学的検査
・二次性骨折予防継続管理料3	・染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査
・下肢創傷処置管理料	・骨髄微小残存病変量測定
・慢性腎臓病透析予防指導管理料	・BRCA1/2遺伝子検査
・外来放射線照射診療料	・がんゲノムプロファイリング検査
・外来腫瘍化学療法診療料1	・先天性代謝異常症検査
・病理診断管理加算2	・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
・療養・就労両立支援指導料の「注3」に規定する相談支援加算	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)
・がん治療連携計画策定料	・抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・肝炎インターフェロン治療計画料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・外来排尿自立指導料	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出(髄液)
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・こころの連携指導料(Ⅱ)	・国際標準検査管理加算
・薬剤管理指導料	・遺伝カウンセリング加算
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・医療機器安全管理料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・医療機器安全管理料2	・胎児心エコー法
・精神科退院時共同指導料1及び2	・時間内歩行試験
・在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の「注2」に規定する遠隔モニタリング加算	・シャトルウォーキングテスト
・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・悪性腫瘍病理組織標本加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・人工臓器療法	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・長期継続頭蓋内脳波検査	・外来化学療法加算1
・長期脳波ビデオ同時記録検査1	・無菌製剤処理料
・終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)	・心大血管疾患リハビリテーション料(I)
・脳波検査判断料1	・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)
・神経学的検査	・運動器リハビリテーション料(I)
・補聴器適合検査	・呼吸器リハビリテーション料(I)
・黄斑局所網膜電図	・がん患者リハビリテーション料
・全視野精密網膜電図	・早期診療体制充実加算
・ロービジョン検査判断料	・認知療法・認知行動療法1
・内服・点滴誘発試験	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・経気管支凍結生検法	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」
・画像診断管理加算4	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・遠隔画像診断	・医療保護入院等診療料
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影(アミロイドPETイメージング剤を用いた場合に限る。) ※ロイ以外の場合	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・CT撮影	・静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
・MRI撮影	・硬膜外自家血注入
・冠動脈CT撮影加算	・エタノールの局所注入(甲状腺)
・外傷全身CT加算	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・心臓MRI撮影加算	・人工腎臓
・乳房MRI撮影加算	・導入期加算3
・小児鎮静下MRI撮影加算	・腎代替療法実績加算
・頭部MRI撮影加算	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・全身MRI撮影加算	・難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレンス療法

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法	・角結膜悪性腫瘍切除手術
・ストーマ合併症加算	・角膜移植術(内皮移植加算)
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る)	・羊膜移植術
・皮膚移植術(死体)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・自家脂肪注入	・緑内障手術(緑内障手術(流出路再建術(眼内法))
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算	・緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・毛様体光凝固術(眼内内視鏡を用いるものに限る。)
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・椎間板内酵素注入療法	・網膜再建術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・経外耳道の内視鏡下鼓室形成術
・緊急穿頭血腫除去術	・人工中耳植込術
・脳腫瘍覚醒下マッピング加算	・植込型骨導補聴器(直接振動型)植込術
・内視鏡下脳腫瘍生検術	・人工内耳植込術
・内視鏡下脳腫瘍摘出術	・植込型骨導補聴器移植術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・植込型骨導補聴器交換術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・脳刺激装置交換術	・経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
・脊髄刺激装置植込術	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)
・脊髄刺激装置交換術	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・仙骨神経刺激装置植込術(便失禁)	・内喉頭筋内注入術(ボツリヌス毒素によるもの)
・仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)	・喉頭形成手術(甲状軟骨固定用器具を用いたもの)
・仙骨神経刺激装置植込術(便過活動膀胱)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・仙骨神経刺激装置交換術(便過活動膀胱)	・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・舌下神経電気刺激装置植込術	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
	・縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・内視鏡下筋層切開術
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・胸腔鏡下弁形成術
・センチネルリンパ節生検(片側)(併用法)	・経カテーテル大動脈弁置換術(経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術)
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・胸腔鏡下弁置換術
・センチネルリンパ節生検(片側)(単独法)	・経皮的僧帽弁クリップ術
・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下によるもの)
	・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・磁気ナビゲーション加算
・乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	・ペースメーカー移植術
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ペースメーカー交換術
・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・ペースメーカー移植術(リードレスペースメーカー)
・気管支バルブ留置術	・ペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・胸腔鏡下肺切除術(区域切除及び肺葉切除術又は1肺葉を超えるものに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)
	・両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)
・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合)	・両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)
・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る)	・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの)
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)
・保険医療機関間の連携による病理診断	・植込型除細動器交換術(その他のもの)
・生体部分肺移植術	・経静脈電極抜去術
・(1)食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)等	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)
・肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・体外衝撃波胆石破砕術
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下肝切除術
・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	・腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・補助人工心臓	・移植用部分肝採取術(生体)(腹腔鏡によるもの)
・植込型補助人工心臓(非拍動流型)	・生体部分肝移植術
・同種心移植術	・同種死体肝移植術
・同種心肺移植術	・体外衝撃波膵石破砕術
・骨格筋由来細胞シート心表面移植術	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(後腹膜)	・腹腔鏡下膵中央切除術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼却療法	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・内視鏡的逆流防止粘膜切除術	・同種死体膵移植術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・同種死体膵腎移植術
・腹腔鏡下胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・生体部分小腸移植術
・腹腔鏡下胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・同種死体小腸移植術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(単純切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・腹腔鏡下噴門側胃切除術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・腹腔鏡下胃縮小術 2 スリーブ状切除によるもの(バイパス術を併施するもの)	・内視鏡的小腸ポリープ切除術
・腹腔鏡下胃全摘術(単純全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合))	・腹腔鏡下副腎摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)及び腹腔鏡下副腎髓質腫瘍摘出術(褐色細胞腫)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腹腔鏡下胃全摘術(悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの))	
・腹腔鏡下胃縮小術(スリーブ状切除によるもの)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(切除術、低位前方切除術及び切断術に限る)(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・副腎腫瘍ラジオ波焼灼療法
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除を伴うもの)	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。)
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
・腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の19に掲げる手術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術)
・同種死体腎移植術	・輸血管理料 I
・生体腎移植術	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・膀胱水圧拡張術	・コーディネート体制充実加算
・ハンナ型間質性膀胱炎手術(経尿道)	・自己生体組織接着剤作成術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・自己クリオプレシピテート作製術(用手法)
・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術	・同種クリオプレシピテート作製術
・人工尿道括約筋植込・置換術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・膀胱頸部形成術(膀胱頸部吊上術以外)、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術(鼠径部切開によるもの)	・麻酔管理料(I)
・精巣温存手術	・麻酔管理料(II)
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・周術期薬剤管理加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下仙骨腫固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合)	・1回線量増加加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る)	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る)	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下子宮癒痕部修復術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・定位放射線治療
・体外式膜型人工肺管理料	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・画像誘導密封小線源治療加算
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ARO拠点機能を活用した医療機器ベンチャー教育・人材育成	張替秀郎	病院	49,400,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
アカデミア発革新的技術を活かした先端医療開発拠点の構築	青木正志	病院(臨床研究推進センター)	77,995,953	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
東北大学病院における医療技術実用化総合促進拠点構築	青木正志	病院(臨床研究推進センター)	167,695,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
革新的技術を医療に応用する異分野融合型研究開発支援知性の構築	青木正志	病院(臨床研究推進センター)	55,850,649	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
「優れた医療機器」を海外展開可能な支援拠点の構築	張替秀郎	病院	58,994,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
慢性骨髄性白血病におけるチロシンキナーゼ阻害剤との長期併用時のTM5614の安全性・有効性を検証する第Ⅲ相試験	張替 秀郎	血液内科	61,750,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
未治療高腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するオビヌズマブ+ベンダムスチン療法後のオビヌズマブ維持療法の省略に関するランダム化第Ⅲ相試験	福原 規子	血液内科	19,500,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
リン脂質を調節する新規動脈硬化抑制系路を介した動脈防御戦略の国際共同研究	豊原 敬文	腎臓・高血圧内科	19,500,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
ミトコンドリア分子連関を介した重点感染症の治療薬開発	阿部 高明	腎臓・高血圧内科	39,000,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
免疫調節治療を要する患者の安全な妊娠・出産を実現するためのエビデンス構築	角田 洋一	消化器内科	13,000,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
社会実装1(電子問診票を用いた受診支援/知識支援/電子カルテ機能補助システム)への協力(特に感染症科コンサルテーション診療支援システムの社会実装のテスト病院として)	馬場 啓聡	総合感染症科	0	補 委 株式会社 プレジジョン
全身性強皮症に伴う間質性肺疾患(SSc-ILD)に対するPAI-1阻害薬TM5614の第Ⅱ相医師主導治験	浅野 善英	皮膚科	104,000,000	補 委 国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構

能動的精密表面温度計測を用いた熱パルスレーダーによる皮膚腫瘍の鑑別診断に関する臨床開発	藤村 卓	皮膚科	39,000,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
小児静脈栄養関連胆汁うっ滞(腸管不全関連肝障害)に対する魚油由来静注用脂肪乳剤の有用性と安全性に関する医師主導治験	和田 基	小児外科	71,500,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
高齢者切除可能膀胱癌に対する術前ゲムシタピン+S-1療法と術前ゲムシタピン+ナブパクリタキセル療法のランダム化比較第III相試験	海野 倫明	総合外科	17,940,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
2種の大規模データベース解析による、妊娠中の漢方薬使用実態の解明、およびその母子安全性の検討	有田 龍太郎	総合地域医療教育支援部	3,962,400	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
超音波検査による乳がん検診の有効性を検証する比較試験	石田 孝宣	乳腺・内分泌外科	44,200,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
医療機器開発における事業化・実用化支援	鈴木 由香	臨床研究推進センター	19,090,500	補 委	株式会社 日本総合 研究所
ヌーナン症候群とその類縁疾患の実態調査と機能的なエビデンスに基づいた診断基準・診療指針作成	青木 洋子	遺伝科	13,000,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
遺伝子治療時代のALS治験即応型レジストリ整備とサロゲートマーカーの探索	青木 正志	脳神経内科	13,000,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
次世代光技術を用いた革新的脳腫瘍制御法の創発	新妻 邦泰	脳神経外科	11,830,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
《病院》医歯薬学分野に関する学術研究動向及び学術振興方策—小児医学とその関連分野における疾患病態解析における新たな潮流と展開—	青木 洋子	遺伝科	5,200,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
任意の方向からの低侵襲な経皮的アプローチを可能にする高汎用性ナビゲーションシステムの開発	針谷 綾花	放射線診断科	26,000,000	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
高齢者総合機能評価(CGA)ガイドラインの作成研究	海老原 覚	リハビリテーション科	600,000	補 委	国立研究 開発法人 国立長寿 医療研究 センター
高品質のIRB審査の基盤となるIRBクラブの設立およびIRB運用ハンドブックの作成と普及に関する研究	高野 忠夫	臨床研究監理センター	975,000	補 委	国立大学 法人大阪 大学医学 部附属病 院
進行軟部肉腫に対する二次治療における標準治療の開発のための研究	高橋 雅信	腫瘍内科	650,000	補 委	国立大学 法人大分 大学

脊髄悪性神経膠腫を対象とした光線力学療法の開発研究	佐藤 綾耶	脳神経外科	54,600,000	補 委	学校法人 東北医科 薬科大学
臨床病期I-IVA(T4を除く)胸部上中部食道扁平上皮癌に対する予防的鎖骨上リンパ節郭清省略に関するランダム化比較試験	亀井 尚	総合外科	1,001,000	補 委	静岡県立 静岡がん センター
ガラクトース血症の臨床像のアップデートと新生児マススクリーニングの標準化に向けた調査研究	市野井 那津子	小児科	585,000	補 委	公立大学 法人大阪
中央診断とモニタリング	張替 秀郎	血液内科	195,000	補 委	国立大学 法人福井 大学
卵巣がんに対するゲノム医療の実装と新規治療戦略構築のための全ゲノムおよびオミックス解析研究	島田 宗昭	婦人科	650,000	補 委	公益財団 法人がん 研究会
卵巣扁平上皮癌に対するベムプロリズマブ療法の有効性および安全性を評価する単群非盲検第II相試験	島田 宗昭	婦人科	520,000	補 委	国立大学 法人新潟 大学
びまん性内在性橋グリオーマ(DIPG)のレジストリ構築および緩和ケアの実態解明を目的とした多施設共同前方視的観察研究	新妻 秀剛	小児科	650,000	補 委	学校法人 埼玉医科 大学
経食道運動誘発電位に用いる刺激電極の開発	齋木 佳克	心臓血管外科	390,000	補 委	独立行政 法人国立 病院機構 函館医療 センター
卵巣癌早期発見のためのAI血液診断モデルの開発ー癌関連糖蛋白と網羅的血清糖ペプチドピークデータを用いてー	島田 宗昭	婦人科	130,000	補 委	学校法人 湘南ふれ あい学園 湘南医療 大学
MAFLDにおける臓器連関とミトコンドリア機能活性化による治療戦略	片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	2,600,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
MAFLDにおける臓器連関とミトコンドリア機能活性化による治療戦略	阿部 高明	腎臓・高血圧内科	1,300,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
CAR-T細胞療法抵抗性・耐性におけるリンパ腫組織内細胞間クロストークの時空間的解明と新規治療開発	福原 規子	血液内科	650,000	補 委	国立大学 法人岡山 大学
肝胆膵がんに対する標準治療確保のための多施設共同研究	海野 倫明	総合外科	0	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
個別リスクに基づく適切な胃がん検診提供体制構築に関する研究	正宗 淳	消化器内科	130,000	補 委	公益財団 法人宮城 県対がん 協会

初発IDH野生型低悪性度神経膠腫に対するNovoTTF-100Aシステムの多施設共同第II相試験(医師主導治験)	下田 由輝	脳神経外科	260,000	補 委	国立大学 法人岡山 大学
Dysferlinopathyおよび類似疾患の遺伝子解析と結合蛋白に注目した病態・治療研究	青木 正志	脳神経内科	400,000	補 委	国立精神・ 神経セン ター
RASopathies関連疾患の病態解明と患者登録研究	青木 洋子	遺伝科	900,000	補 委	国立研究 開発法人 国立成育 医療研究 センター
口唇口蓋裂の患者報告アウトカム・QOL質問紙CLEFT-Qの計量心理学的特性の検証と臨床実装	今井 啓道	形成外科	60,000	補 委	国立研究 開発法人 国立成育 医療研究 センター
血液透析患者のAVシャント狭窄を低減する新医療機器	細山 勝寛	心臓血管外科	6,623,500	補 委	クレインバ スキュラー 株式会社
非閉塞性冠動脈疾患(INOCA)患者におけるPrecision Medicineを目指したRNF213遺伝子多型保有率の検証とINOCA発症polygenic risk scoreモデルの作成	安田 聡	循環器内科	2,730,000	補 委	国立研究 開発法人 国立循環 器病研究 センター
可及的摘出術が行われた初発膠芽腫に対するカルムスチン脳内留置用剤を用いた標準治療確立に関する研究	金森 政之	脳神経外科	260,000	補 委	学校法人 北里研究 所
つくばの英知による先端医療シーズのグローバル実用化推進事業	角谷 倫之	放射線治療科	1,100,000	補 委	国立大学 法人筑波 大学
未治療低腫瘍量濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ早期介入に関するランダム化比較第3相試験	福原 規子	血液内科	260,000	補 委	独立行政 法人国立 病院機構 名古屋医 療センター
高リスク後腹膜肉腫に対する標準治療法開発のための国際多施設共同臨床試験	吉田 新一郎	整形外科	390,000	補 委	国立大学 法人岡山 大学
日本循環器研究コンソーシアムによる難治性心血管疾患のエビデンス創出	安田 聡	循環器内科	780,000	補 委	学校法人 国際医療 福祉大学
実践研修の実施と検証による研究マネジメント人材育成及びネットワーク構築に関する研究	笠井 宏委	臨床研究推進センター	1,313,000	補 委	学校法人 藤田学園 藤田医科 大学
改良型CRISISを用いたCOVID-19患者の臨床エビデンス構築と診療・医療機器開発支援	久志本 成樹	高度救命救急センター	1,300,000	補 委	国立大学 法人広島 大学
網羅的ゲノム解析のデータ二次利用に基づく原発性免疫不全症の広域診断体制の構築に直結するエビデンス創出研究	笹原 洋二	小児科	1,300,000	補 委	国立大学 法人広島 大学

早期非小細胞肺癌に対する体幹部定位放射線治療線量増加ランダム化比較試験	神宮 啓一	放射線治療科	130,000	補 委	国立大学 法人広島 大学
造影病変全切除可能な初発膠芽腫に対する標準的手術法確立に関する研究	金森 政之	脳神経外科	260,000	補 委	国立大学 法人山形 大学
チタンブリッジ手術を用いた痙攣性発声障害に対する国際的新規治療戦略の開発	香取 幸夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科	390,000	補 委	公立大学 法人名古 屋市立大 学
参照系AI技術を応用した痙攣性発声障害診断システムとチタンブリッジ手術支援機器開発に関する研究	香取 幸夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科	312,000	補 委	公立大学 法人名古 屋市立大 学
「70歳以上の上皮性増殖因子受容体活性化変異陽性未治療進行・再発非小細胞肺癌に対するオシメルチニブの至適投与量に関する多施設共同研究」	突田 容子	呼吸器内科	0	補 委	日本赤十 字社医療 センター
オールジャパン体制による食道がん等消化器難治がんの全ゲノム配列データ及び臨床情報による先端的創薬開発・全ゲノム医療基盤構築	海野 倫明	総合外科	0	補 委	国立大学 法人東京 大学
解析・データセンターにおける情報システム基盤の研究と構築	石岡 千加史	腫瘍内科	0	補 委	国立大学 法人東京 大学
思春期女性へのHPV ワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18 陽性割合の推移に関する疫学研究	島田 宗昭	婦人科	260,000	補 委	学校法人 昭和医科 大学(旧学 校法人昭 和大学)
臓器移植データベースの悉皆性の担保と臨床応用のためのシステム開発研究	大石 久	呼吸器外科	52,000	補 委	学校法人 順天堂 順 天堂大学
アザ-アルテミシニンの全身性強皮症治療薬としての開発	浅野 善英	皮膚科	19,500,000	補 委	国立大学 法人東京 大学
切除不能な肝門部領域胆管癌に対する生体肝移植	海野 倫明	総合外科	0	補 委	国立大学 法人熊本 大学
医療高度化に資する分散管理型PHRデータ流通基盤に関する研究開発	久志本 成樹	高度救命救急センター	1,300,000	補 委	国立大学 法人京都 大学
医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究	大田 英揮	メディカルITセンター	884,000	補 委	国立大学 法人九州 大学
筋萎縮性側索硬化症における病態回避機構の解明と治療に資する層別化技術開発	青木 正志	脳神経内科	9,100,000	補 委	学校法人 慶應義塾

切除可能な高頻度マイクロテライト不安定性結腸直腸癌に対して免疫チェックポイント阻害薬を用いた根治治療の有効性・安全性を検討する研究	大沼 忍	消化器外科	3,900,000	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
前立腺癌に対するMR画像誘導即時適応定位放射線治療の臨床応用を目指す研究	神宮 啓一	放射線治療科	1,934,400	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
BRAF V600E変異型切除可能大腸癌遠隔転移に対する個別化周術期治療の医師主導治験の実施	小峰 啓吾	腫瘍内科	0	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
医療分野研究開発の推進に資する研究倫理コンサルテーションの実装配備に向けた、専門家教育の高度化プログラム開発と資格制度の骨格設計	高野 忠夫	臨床研究監理センター	3,640,000	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
悪性リンパ腫における遺伝子異常・免疫微小環境の全体像および臨床的意義の統合的解明	福原 規子	血液内科	3,510,000	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌I期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第III相比較試験	島田 宗昭	婦人科	0	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
がん患者のオピオイド不応の神経障害性疼痛への標準的薬物療法の開発:国際共同試験ならびに普及実装に向けた研究	井上 彰	緩和医療科	0	補 委	国立研究 開発法人 国立がん 研究セン ター
乳がん患者の乳がん切除後疼痛症候群に対するスマホ精神療法の開発:革新的な分散型基盤を用いた多機関共同無作為割付比較試験	石田 孝宣	乳腺・内分泌外科	260,000	補 委	公立大学 法人名古 屋市立大 学
エムボックスの治療・予防体制の整備に関する研究開発	青柳 哲史	総合感染症科	2,860,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
未診断疾患イニシアチブ (Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases(IRUD)):希少・未診断疾患に対する診断プログラム基盤の開発と患者還元を推進する研究	青木 洋子	遺伝科	10,400,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン ター
子宮内膜異型増殖症・子宮体癌妊孕性温存療法に対するメホルミンの適応拡大にむけた多施設共同医師主導治験	重田 昌吾	婦人科	1,820,000	補 委	国立大学 法人千葉 大学
社会実装1(電子問診票を用いた受診支援/知識支援/電子カルテ機能補助システム)への協力(特に感染症科コンサルテーション診療支援システムの社会実装のテスト病院として)	馬場 啓聡	総合感染症科	0	補 委	株式会社 プレジジ ョン
医療機関におけるトレーサビリティデータ収集方式の検討および関連システムの設計と導入支援	中村 直毅	臨床研究推進センター	1,100,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター

初発中枢神経原発胚細胞腫瘍に対する化学療法併用放射線治療の低侵襲化に関する研究開発	金森 政之	脳神経外科	260,000	補 委	国立大学 法人京都 大学
人工内耳装用における効果的な介入法に関する研究開発	本藏 陽平	耳鼻咽喉・頭頸部外科	325,000	補 委	学校法人 東海大学
一側性聴覚障害の評価手法の標準化と社会参加を促進する手法に関する研究開発	本藏 陽平	耳鼻咽喉・頭頸部外科	650,000	補 委	国立大学 法人東海 国立大学 機構
インドネシアでの、てんかん診療の質向上をめざしたデジタル脳波のワイドバンド成分の記録解析普及の実装研究	中里 信和	てんかん科	315,900	補 委	国立大学 法人京都 大学
血中遊離アミノ酸異常に着目した慢性肝疾患に対する新しい高たんぱく食献立の開発(23A2014)	井上 淳	消化器内科	500,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
地域、疾患領域、臨床研究者・支援専門職ネットワークを活用した、QMSの概念に関する研究者及び研究支援者への教育研修に係る研究	高田 宗典	臨床試験データセンター	1,170,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン ター
未分類の新規先天性大脳白質形成不全症の臨床遺伝疫学情報の収集によるエビデンス創出研究	植松 有里佳	小児科	390,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン ター
マイレジストリの縦断データを活用した新規治療法開発と薬事承認の実現	富田 博秋	精神科	3,900,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン ター
患者のUnmet medical needsに応えるGlobalな課題解決AIの作成～皮膚疾患のAll in one app～	志藤 光介	皮膚科	4,410,250	補 委	国立大学 法人愛媛 大学
造血器腫瘍患者の臨床検体を用いた造血器腫瘍遺伝子パネル検査システムのTAT(Turn Around Time)検証及び検査不良検体の割合の確認に関する研究	福原 規子	血液内科	286,000	補 委	大塚製薬 株式会社
中枢神経系再発高リスクの未治療びまん性大細胞型B細胞リンパ腫に対する中枢神経系再発予防を組み入れた治療法のランダム化第III相試験	福原 規子	血液内科	1,300,000	補 委	国立大学 法人三重 大学
ミトコンドリア病治療薬MA-5の第II相臨床試験	阿部 高明	腎臓・高血圧内科	109,534,360	補 委	国立研究 開発法人 日本医療 研究開発 機構
小腸カプセル内視鏡診断支援プログラムに関する研究開発	正宗 淳	消化器内科	1,300,000	補 委	京都府公 立大学法 人

電子診療録直結型情報収集システムを活用した肥満症に関する大規模包括的データベースの構築に関する研究	片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	286,000	補 委	国立大学 法人神戸 大学
可及的摘出されたIDH変異型星細胞腫に対する標準治療を確立する研究	金森 政之	脳神経外科	130,000	補 委	国立大学 法人神戸 大学
筋萎縮性側索硬化症に対する治療薬の臨床評価ガイドライン作成に関する研究	青木 正志	脳神経内科	247,000	補 委	国立大学 法人徳島 大学
ネフローゼ型膜性腎症に対するリツキンマブの検証的医師主導治験の実施	田中 哲洋	腎臓・高血圧内科	1,465,620	補 委	国立大学 法人東海 国立大学 機構
未治療末梢性T細胞リンパ腫に対する初回導入化学療法後の完全奏効例に対する自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法ランダム化第III相試験(JCOG2210)	福原 規子	血液内科	551,200	補 委	国立大学 法人鹿児 島大学
肺高血圧症患者レジストリとマルチオミクスデータベースを活用した難病デジタルツインモデルの構築	佐藤 大樹	循環器内科	2,600,000	補 委	学校法人 国際医療 福祉大学
自己抗体同定法の確立と新規自己抗体の同定	川上 尚人	腫瘍内科	650,000	補 委	国立大学 法人京都 大学
心血管領域における、植込型補助人工心臓及びECMOによる出血性合併症の要因である後天性フォンウィルブラント症候群(AVWS)の研究及び動脈硬化と凝固線溶系検査の関与の研究	片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	2,730,000	補 委	シスメックス 株式会社
尿由来幹細胞のダイレクトリプログラミングを活用した神経難病創薬プラットフォームの構築	海老原 覚	リハビリテーション科	1,300,000	補 委	国立研究 開発法人 国立精神・ 神経医療 研究セン
膵B細胞増殖を促進する脳-膵臓間神経経路の解明とその応用による膵B細胞増量治療の開発	川名 洋平	糖尿病代謝・内分泌内科	6,500,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
先進遠隔医療のための在宅デジタル高齢者総合機能評価の開発	海老原 覚	リハビリテーション科	1,300,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元および新たな創薬等の創出を通じた高度化がんプレジジョン医療の実践	石岡 千加史	腫瘍内科	60,020,000	補 委	公益財団 法人がん 研究会
造血器腫瘍臨床における臨床的WGSのfeasibilityと有用性の検討	福原 規子	血液内科	520,000	補 委	国立大学 法人九州 大学

医師主導治験の実施、観察研究の実施	齋木 佳克	心臓血管外科	3,250,000	補 委	国立大学 法人東海 国立大学 機構
社会実装1(電子問診票を用いた受診支援/知識支援/電子カルテ機能補助システム)への協力(特に感染症科コンサルテーション診療支援システムの社会実装のテスト病院として)	馬場 啓聡	総合感染症科	0	補 委	株式会社 プレシジョン
医療機関におけるトレーサビリティデータ収集方式の検討および関連システムの設計と導入支援	中村 直毅	臨床研究推進センター	1,100,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
難病のゲノム医療実現に向けた全ゲノム解析の実施基盤の構築と実践	角田 洋一	消化器内科	6,500,000	補 委	国立研究 開発法人 国立国際 医療研究 センター
心停止肝に対する、酸素化灌流とMuse細胞移植を融合した臓器修復再生法の開発	宮城重人	移植・再建・内視鏡外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
大規模出生コホートから月経関連症状の長期的変化を捉える	渡邊善	婦人科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
オルガノイドとオミックス解析による頭頸部非扁平上皮癌の個別化医療モデルの開発	佐藤亜矢子 (中目)	耳鼻咽喉・頭頸部外科	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
$\alpha 1$ 受容体拮抗薬の抗アレルギー作用の検討	阿部望	手術部	520,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
嘔吐するモデル動物スunksを用いた手術後悪心嘔吐の脳内機序の解明	杉野繁一	手術部	4,030,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ePRO連携による高齢者在宅医療へのデジタルトランスフォーメーションの実装と検証	高田宗典	臨床試験データセンター	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
マイクロビオーム・メタボローム統合解析による、新規がん治療法の開発	今井源	腫瘍内科	260,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
網膜解析を中心とした早期治療抵抗性統合失調症の生物学的指標探索と脳神経基盤の解明	小松浩	精神科	780,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
低侵襲MR導電率マッピングによる乳癌の電気生理学的特徴の解明	前川由依	放射線診断科	650,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

人工子宮システムに胎盤の排泄機能として付与する持続血液透析の有効性の検討	渡邊真平	周産母子センター	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
人工子宮・人工胎盤システム管理下胎児治療(カテーテル手術)の安全性の検討	星合哲郎	産科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
大規模コホートによる新規予後予測システムの開発	八田和久	消化器内科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
炎症性腸疾患患者のチオプリンに暴露された胎児の遺伝的選択・変異に関する検討	志賀永嗣	消化器内科	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
皮膚筋炎はなぜ感染症で増悪するのか?: 抗菌ペプチドカゼリサイデインの炎症惹起機構	高橋隼也	皮膚科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腎糖新生の全身代謝における役割の解明	金子慶三	糖尿病代謝科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
羊膜由来幹細胞が肝内膵島生着環境に与える影響の解明	戸子台和哲	移植・再建・内視鏡外科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ヒト羊膜の創傷治癒促進作用に着目した新しい胆汁漏・膵液瘻治療法の開発	宮澤恒持	移植・再建・内視鏡外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
人工腸を用いた発症早期モデルによる潰瘍性大腸炎の発症メカニズムの解明	神山篤史	胃腸外科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
食道癌術後反回神経麻痺の改善を目的とした羊膜細胞による神経損傷修復材の開発	谷山裕亮	移植・再建・内視鏡外科	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
IL-36 β の免疫チェックポイント阻害作用による新規肺がん治療法の開発	野津田泰嗣	呼吸器外科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
1次体性感覚野の脳波ガンマ振動に基づく疼痛モニターの開発と精密術後鎮痛への展開	鎌田ことえ	手術部	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
難治性脈管奇形症候群の遺伝子解析による病態解明と新たな治療法開発	長尾宗朝	形成外科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
定量的活動依存性マンガン造影MRIによる三叉神経障害性疼痛の慢性化機構の解明	安田真	歯科麻酔疼痛管理科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

うま味感受性を利用したフレイルとサルコペニア肥満の攻略法の開発ー骨格筋量の改善ー	佐藤しづ子	総合歯科診療部	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
自動音声認識と機械学習による新たな医学教育システムの創出	小林正和	高度救命救急センター	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
日常生活の実環境下における脳卒中片麻痺患者の歩行障害のメカニズム解明	関口雄介	リハビリテーション部門	520,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
クエン酸塩による腎臓病の予防	阿部倫明	総合地域医療教育支援部	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
医療情報システムにおける相互運用性を向上するためのデータ連携基盤の研究開発	中村直毅	メディカルITセンター	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
メタボローム解析による腎薬物トランスポーター相互作用バイオマーカーの同定と評価	佐藤紀宏	薬剤部	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
尿エクソソーム中トランスポータータンパク質の定量による急性腎障害早期診断法の確立	臼井拓也	薬剤部	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
卵巣癌の新規治療標的TIE-1に対するPROTACを用いた阻害剤の開発	石橋ますみ	婦人科	520,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
羊水中血液暴露による胎児肺障害モデル-妊娠羊を用いた遺伝子解析と治療法の模索-	熊谷祐作	産科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
遺伝性血小板減少症の新規原因遺伝子を介した巨核球・血小板造血メカニズムの解明	片山紗乙莉	小児科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
既喫煙喘息におけるレドックスバランスと炎症基盤の観点から見た新規治療戦略の検討	京極自彦	呼吸器内科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
閉塞性肺疾患におけるPannexin channelを介した炎症制御機序の解明	相澤洋之	呼吸器内科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
肥満減量手術後の腸肝循環短絡化による肝発癌抑制効果の検討	土屋堯裕	肝・胆・膵外科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
脳卒中後中枢性疼痛に対するオキシトシンを用いた治療戦略	齋藤秀悠	集中治療部	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

酸化ストレス応答転写因子 NRF2に着目した新規 Exercise pillの開発	大野木孝嘉	整形外科	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
高い骨形成能と生体吸収性を有する生体活性因子を担持した人工骨の開発	馬場一慈	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
抗スクレロシン抗体とリン酸オクタカルシウムを応用した骨再生医療の開発	岩間亮介	歯科顎口腔外科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
超音波顕微鏡による音響特性を利用した歯の内部構造の三次元画像化デバイスの開発	長沼由泰	障がい者歯科治療部	910,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エフェロサイトーシスを基軸とした歯周組織恒常性維持機構の解明と治療への応用	梶川哲宏	歯周病科	3,120,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
再生指向型エピゲノムに基づく歯周組織再生術前診断法と精密化療法の樹立	鈴木茂樹	歯周病科	4,550,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
福島第一原発事故後の環境における歯を用いた包括的線量評価	高橋温	障がい者歯科治療部	3,510,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
高校生の自己肯定感を育む心理支援に向けて一自殺予防に活かすモニタリング	荒田悠太郎	卒後研修センター	3,770,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
食道癌におけるヒトパピローマウイルス感染と化学放射線療法の感受性に関する研究	石田裕嵩	移植・再建・内視鏡外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
画像解析による福島第一原発事故後の環境試料中のストロンチウム90濃度測定法の開発	高橋温	障がい者歯科治療部	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
唾液腺腫瘍オルガノイドを實現化に近づける生検・細胞診由来培養法の確立	石川 智彦	耳鼻咽喉・頭頸部外科	650,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
An idea of regulatory science-based bone regeneration product for critical bone defect healing	Venkataiah VenkataSuresh	歯内療法科	260,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
X連鎖性鉄芽球性貧血における鉄依存性細胞死および鉄代謝制御の解明	小野 浩弥	輸血・細胞治療部	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腸管・腸間膜のレオロジーと消化器疾患	鈴木 秀幸	胃腸外科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

細胞外小胞受容体による乳癌微小環境モデリング機構の解明	田中美桜(山口美桜)	個別化医療センター	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
菌状息肉症腫瘍形成におけるLL-37/matrix metalloproteinasesシグナルの役割の解明	天貝 諒	皮膚科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
新規線維化 α シヌクレイン受容体sortilinに着目したシヌクレインパッチー創薬	石山 駿	脳神経内科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
深層学習による掌蹠膿疱症の重症度自動診断および治療効果予測システムの開発	志藤 光介	皮膚科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
早産羊胎仔を用いた低用量出生前ステロイド治療による肺成熟効果の検討	高橋 司	産科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
高齢者ウェルビーイングに向けた味覚加齢変化の脳機能学的研究	北山 ちひろ	顎口腔機能治療部	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
Sema4Dによる矯正学的歯の移動の制御およびメカニズムの解明	金城 里阿	矯正歯科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
エクサゲーミングとデュアルタスクを応用した認知・口腔機能トレーニングの開発	阿部 真澄	咬合回復科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
リン酸オクタカルシウムとHMG-CoA還元酵素阻害剤を用いた新骨再生材料の開発	高山 慎騎	歯科顎口腔外科	520,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
集中治療室入室の意思決定に影響を与える要因の検討	大邊 寛幸	高度救命救急センター	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
メタゲノム解析による人体の全消化管細菌叢の同定と臨床応用へのアプローチ	石沢 興太	総合地域医療教育支援部(漢方内科)	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
生活習慣病・脳の老化の遺伝的背景に関する、大規模データベースを用いた国際共同研究	鈴木秀明	循環器内科	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
脱髄性疾患MOG抗体関連疾患の中枢神経内免疫病態の解明	三須建郎	脳神経内科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
深層学習技術による照射中の動きを考慮した本当の線量分布の作成	田中祥平	放射線部	650,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

深層強化学習による真の“人工知能型”自動放射線照射計画法の開発	角谷倫之	放射線治療科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新生児脳MRIを用いた早期 発症型胎児発育不全児の神 経発達予後予測指標の開 発.	秋山志津子	周産母子センター	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
慢性閉塞性肺疾患における 新規病原性肺胞マクロファ ージの同定と機能解析	藤野直也	呼吸器内科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
難治性サルコイドーシスの病 態解明と新規治療法の開発	村上康司	呼吸器内科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
T細胞受容体シグナルとT細 胞老化における活性イオウ 分子種の役割解明	沼倉忠久	呼吸器内科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
尿中落下細胞に含まれる多 能性幹細胞 ~腎機能回復と 非侵襲的な病態診断に向け て~	内田奈生	小児科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
臨床応用に向けた新しい皮 下膵島移植法の樹立	三頭啓明	移植・再建・内視鏡外 科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新たな膵再生医療の構築に 向けたeR1活性細胞の幹細 胞機能の解析	山村明寛	肝・胆・膵外科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
十二指腸空腸バイパス術後 の糖代謝改善メカニズムにお ける腸管循環変容の意義	井本博文	胃腸外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
膵癌肺転移及び腹膜播種の 免疫微小環境をターゲットと した新規治療開発	青木修一	総合外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
酸素化灌流による肝細胞の Energy statusの改善に基づ く新規肝不全治療の開発	藤尾淳	移植・再建・内視鏡外 科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
膵臓手術後NAFLDの原因解 明および新規治療法の開発	石田晶玄	肝・胆・膵外科(保健 管理センター)	650,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
呼気凝集液を用いた硫黄代 謝物解析による非侵襲な新 規食道癌診断法の確立	小澤洋平	移植・再建・内視鏡外 科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
超常磁性鉄酸化製剤を用い たMRI撮像によるヒト大動脈 瘤壁の強度予測モデルの確 立	芹澤玄	移植・再建・内視鏡外 科	390,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

Magnetic nano particleを用いた新しい血管吻合法の考案	細山勝寛	心臓血管外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
組織適合性からみる肺移植術後成績の検討	平間崇	呼吸器外科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
胸椎後縦靭帯骨化症による脊髄圧迫障害を脊髄内応力マッピングで可視化・定量化する	高橋康平	整形外科	520,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
難治性視神経疾患に対するiPS細胞由来正常ミトコンドリア移植法の開発	小林航	眼科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
STING経路に着目した滲出型加齢黄斑変性の網膜下線維化の病態解明	安田正幸	眼科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
iPS細胞由来歯原性上皮系細胞を応用した歯胚再生への挑戦	新部邦透	咬合修復科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腓骨皮弁による下顎再建後の2次的骨造成部におけるインプラント咬合荷重条件の検索	佐藤奈央子	顎顔面口腔再建治療部	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
セルロースナノファイバーをバイオナート材料として臨床応用するための基礎的検討	畠山高徳	顎顔面口腔再建治療部	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
拡散テンソル画像を応用した内側・外側翼突筋等の咀嚼筋筋線維動態の解析	庄原健太	咬合回復科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
化学療法誘発性末梢神経障害の実態解明およびリスク・増悪因子の検索	石河理紗	顎顔面口腔再建治療部	780,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
各年代の野球選手における肘外反ストレス増強メカニズムの解明	石川博明	リハビリテーション部門	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
流体固体相互作用解析によるCVポートの高効率かつ高ロバストな洗浄法の確立	鎌田裕基	放射線診断科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Thromboelastographyを用いた植込み型補助人工心臓装着患者の抗血栓療法の最適化	高橋悟朗	心臓血管外科	780,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
組織透明化およびマイクロCTを用いたヒト副腎の三次元的解析	丹内啓允	放射線診断科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

放射線科医の知覚エラー改善を目指す:視覚訓練と感情誘導によるアプローチ	前田千秋	放射線診断科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ポンペ病における交差反応性免疫物質の迅速検査法の開発	和田陽一	小児科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
高脂血症の網羅的遺伝子解析による遺伝学的多因子発症機序の解明	島彦仁	小児科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
精神運動発達遅滞を有する先天性心疾患患者の遺伝子解析	岩澤伸哉	小児科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
DNAポリメラーゼεの異常によるIMAGE-I症候群の病態解明	中野智太	小児科	2,470,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
日本人炎症性腸疾患の発症・予後に関する網羅的rare variant解析	内藤健夫	消化器内科	2,340,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
クローン病の腸管線維化プロセスにおけるCD163の機能	下山雄丞	消化器内科	2,860,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ヒト羊膜由来幹細胞を用いた食道内視鏡的粘膜下層剥離術後の癒痕狭窄予防に関する研究	小関健	移植・再建・内視鏡外科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Keap1-Nrf2経路を標的とした膵癌新規治療バイオマーカーの探索	松本諒太郎	消化器内科	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
光センサー誘導による副腎静脈採血カテーテルの基礎研究	尾股慧	糖尿病代謝・内分泌内科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
進行期非小細胞肺癌の免疫併用療法におけるNK細胞の役割の解明	突田容子	呼吸器内科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
糖尿病性腎臓病の新規バイオマーカーの確立と腸腎関連メカニズムの解明	菊地晃一	腎臓・高血圧内科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
プラスミノゲン活性化阻害因子(PAI-1)の皮膚血管肉腫における役割の検証	大森遼子	皮膚科	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
小腸移植後腸管内での自然リンパ球による免疫制御機構の解明	櫻井毅	小児外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

肺癌特異的T細胞受容体の探索と血中T細胞受容体を用いた肺癌スクリーニング検査の開発	小野寺賢	呼吸器外科	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
人工呼吸関連肺傷害におけるBiotraumaの抑制に向けたNRF2の活用の試み	武井祐介	麻酔科	1,690,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
血管内皮グリコカリックス断片による、炎症促進および収束の2面性に関する検討	三瓶想	高度救命救急センター	1,430,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
関節窩軟骨欠損が肩関節の可動時の上腕骨頭の安定性に与える影響	川上純	整形外科	2,210,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
腎尿管領域における包括的新PET薬剤の超低コスト導入	外山由貴	放射線診断科	910,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
母親の月経関連疾患と児の発達障害に関する研究	横山絵美	産科	780,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
リポクオリティ依存的な気管支喘息病態形成機構の解明	前川翠	歯科麻酔疼痛管理科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
関節荷重が関節円板の細胞外マトリックスおよび機械的特性に及ぼす影響	伊藤新	矯正歯科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
医療経済学的視点からみた虚血性心疾患の最適な診断フローの探索	益田淳朗	放射線診断科	910,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
多発性嚢胞腎モデルにおける運動療法とアドレナリン受容体作動薬の併用効果	三浦平寛	内部障害リハビリテーション科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
アプリケーションによる精神病性障害のトラウマ心理教育プログラムの有効性の検討	富本和歩	精神科	650,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
皮膚および全身性自己免疫疾患の病態におけるLINE-1の役割の包括的解明	高橋岳浩	皮膚科	19,500,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
チタン製インプラント周囲炎に対する包括的組織再建治療の開発	天雲太一	咬合回復科	6,110,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
爆風損傷の初期診療におけるトリアージ法に関する基礎研究	中川敦寛	脳神経外科(臨床研究推進センター)	5,460,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

自律性ステロイド過剰産生細胞に特異的な細胞内コレステロール代謝表現型の解明	山崎 有人	病理部	780,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
転写因子Nrf2と細胞死フェロトーンシスを標的とした新たな加齢性難聴予防機構の解明	本藏 陽平	耳鼻咽喉・頭頸部外科	520,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
過敏性腸症候群における腸内細菌代謝物の同定とその解析	有田 龍太郎	総合地域医療教育支援部(漢方内科)	780,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
PAI-1・免疫チェックポイント相互阻害による新規免疫療法の開発	神林 由美	皮膚科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
嘔吐するモデル動物スニクスを用いた手術後悪心嘔吐の脳内機序の解明	杉野 繁一	集中治療部	4,030,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エフェロサイトーシスを基軸とした歯周組織恒常性維持機構の解明と治療への応用	梶川 哲宏	歯周病科	3,120,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
福島第一原発事故後の環境における歯を用いた包括的線量評価	高橋 温	障がい者歯科治療部	3,510,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
医療従事者のレジリエンス能力を獲得するための次世代型患者安全教育システムの開発	荒田 悠太郎	卒後研修センター	3,770,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
爆風損傷の初期診療におけるトリアージ法に関する基礎研究	中川 敦寛	産学連携室	5,460,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
遺伝子編集/時空間分子解析によるニーマンピック病C型の脂質挙動と病態の連関解明	前川 正充	薬剤部	6,370,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ヘム合成に着目した免疫細胞分化制御機構の解明とその破綻に伴う疾患の克服	張替 秀郎	血液内科	5,720,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
非アルコール性脂肪肝炎の精密予後予測マーカー探索を指向した機能性脂質の網羅的解析	眞野 成康	薬剤部	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
癌代謝制御を用いたTKI耐性化克服による進行腎癌患者の新規治療戦略	川崎 芳英	泌尿器科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
マクロファージ免疫チェックポイントを標的とした膵癌治療への応用	三浦 孝之	肝・胆・膵外科	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

腫瘍様炎症性脱髄病変の分子病理学的分類と新規病態の解明	高井 良樹	病理部	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
小型肺癌に対するMR画像誘導即時適応放射線治療による定位手術的照射の第2相臨床試験	山本 貴也	放射線治療科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
CTEPHを対象とした呼吸・循環の包括的評価を行う非造影one-stop shop MRIの開発	大田 英揮	メディカルITセンター	2,470,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
膝くびれ所見の膝癌早期診断能の検証と発癌・癌進展に関連する因子の網羅的解析	三浦 晋	消化器内科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
炎症性腸疾患発症前コホートとメソデルランダム化を併用したプロテオーム解析	諸井 林太郎	消化器内科	3,640,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
食道上皮幹細胞老化を介したバレット食道腺癌発生機序の解明	小池 智幸	消化器内科	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
心眼脳連関に着目したマルチモーダル解析での循環器病・認知症個別化リスク層別法開発	中野 誠	循環器内科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
重症喘息における非2型気道炎症の治療標的の探索とバイオ製剤使用の適正化への挑戦	市川 朋宏	呼吸器内科	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
iPS細胞を用いた腎硬化症の病態解明と臨床マーカーの開発	豊原 敬文	腎臓・高血圧内科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
DNAメチル化状態に基づいた頭頸部癌薬物療法のバイオマーカー開発	西條 憲	腫瘍内科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
高安動脈炎と潰瘍性大腸炎に共通する抗EPCR抗体を軸とした病態解明と臨床応用の検討	白井 剛志	リウマチ膠原病内科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腸内環境制御による高メチル化型大腸癌の新規予防・治療戦略の開発	唐澤 秀明	胃腸外科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
潰瘍性大腸炎術後における経時的な腸内環境形成と慢性回腸囊炎発症の検討	渡辺 和宏	胃腸外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

次世代放射光と質量分析イメージングで明らかにする腹部大動脈壁構造と瘤径拡大の関連	梅津 道久	卒後研修センター	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
BAFFに注目したB細胞分化が慢性移植肺機能不全に与える影響の検討	渡邊 龍秋	呼吸器外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
電気生理学的情報を用いた膠芽腫浸潤病領域識別法の開発	下田 由輝	脳神経外科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
生体親和性と抗菌性能を両立する低弾性率チタン合金材料の開発	上村 雅之	整形外科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
低骨代謝状態における低弾性率チタン合金プレートの骨癒合促進効果の検証	田中 秀達	整形外科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
低活動膀胱における下部尿路リモデリング機構の解明とSGLT阻害薬の効果についての研究	佐竹 洋平	泌尿器科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
上皮性卵巣癌におけるネクロプトーシスの臨床的意義と治療標的としての可能性	橋本 千明	婦人科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
超音波による胎児心機能計測と胎児B型ナトリウム利尿ペプチドの関連性解明	只川 真理	産科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
GWASによる緑内障感受性遺伝子CDKN2B-AS1のメカニズム解明	面高 宗子	眼科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
hexokinase 2を標的とした緑内障創薬	横山 悠	眼科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
難治性脈管奇形症候群の遺伝子解析による病態解明と新たな治療法開発	鈴木 綾乃	形成外科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

舌下免疫療法における腸内細菌叢の役割の解明	田中 志典	歯科麻酔疼痛管理科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
歯周組織再生におけるRANK発現EVsの機能解析とその治療応用への基盤構築	向阪 幸彦	歯周病科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
骨格幹細胞による軟骨内骨化を用いた新規骨再生技術の開発	鎌野 優弥	歯内療法科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
形状記憶ゲルと4Dプリンティングによる新規顎顔面補綴治療の開発	小山 重人	顎顔面口腔再建治療部	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新たな細胞死「フェロトーシス」の制御に着目した新規顎骨増生技術の開発	渡辺 隼	歯科医療管理部	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
レジンの免疫増強効果に着目したレジニアレルギーの解明	坂東 加南	矯正歯科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
老化に伴うCXCR4陽性細胞による骨破壊メカニズムの解明と新規治療薬の開発	西村 壽晃	顎口腔機能治療部	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
福島第一原発事故後の被災動物における歯を基準とした放射線量の臓器分布	秋山 なつみ	障がい者歯科治療部	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
臨床・画像・細菌叢の統合解析に基づく歯性病巣感染の理解と口腔機能管理の新展開	新垣 理宣	周術期口腔健康管理部	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
自治体データを活用したパンデミック療養管理ツールの開発、後遺症発症との関連性検証	高山 真	総合地域医療教育支援部(漢方内科)	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

転写因子GATA2に着目した造血と肺血管内皮の連関解析	張替 秀郎	血液内科	3,120,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
CHEF作製技術を応用した超効率死細胞除去による口腔疾患治療法の革命	梶川 哲宏	歯周病科	3,250,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
薬剤性肝障害早期発見バイオマーカーの探索と有用性評価	公文代 将希	薬剤部	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
抗MOG抗体関連疾患の脳内自己抗体の産生機序と意義の解明	松本 勇貴	脳神経内科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
軸索に着目した筋萎縮性側索硬化症の運動ニューロン変性に抵抗する分子機構の解明	光澤 志緒	脳神経内科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
精神病早期段階におけるADHD症状の神経基盤:MRSを用いた研究	佐藤 祐太郎	精神科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
双極性障害死後脳を用いた自殺行動チェックポイント制御因子の同定	長岡 敦子	精神科	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
近年の放射線システム性能を考慮した小児胸部X線撮影における至適撮影条件の決定	小野寺 崇	放射線部門	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
超高速DCE-MRI,拡散モデルによる微小環境評価に着目した乳癌術前化学療法後評価の検討	加藤 恵里奈	放射線診断科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
大規模言語モデルを使用した生成系AIによるAI搭載型治療方針決定支援ツールの開発	新井 一弘	放射線部	2,860,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

放射線肺炎を誘発する肺組織を可視化する技術の開発	勝田 義之	放射線部	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
冠動脈疾患一次予防の早期介入に資する遺伝子・臨床因子による統合リスクスコアの開発	大山 宗馬	循環器内科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
運動誘発性肺高血圧症における肺動脈機能異常の病態解明と予後への影響	佐藤 大樹	循環器内科	2,340,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
慢性閉塞性肺疾患における単球-マクロファージ系細胞の網羅的表現型・機能解析	齋藤 拓矢	呼吸器内科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Sアデノシルメチオニンのリンパ球初期分化での役割の解明	加藤 浩貴	検査部	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
膵β細胞増量治療開発に向けたスクリーニングシステムの構築と新規増殖誘導因子の探索	菅原 裕人	糖尿病代謝・内分泌内科	2,730,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
肝臓-膵β細胞間神経ネットワークにおける脳内・膵内情報伝達機構の解明	川名 洋平	糖尿病代謝・内分泌内科	2,990,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
全身のインスリン需要に応じたβ細胞量減少のメカニズム解明	遠藤 彰	糖尿病代謝・内分泌内科	2,860,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ホルモン受容体陽性治療抵抗性乳癌に対するLAT1阻害剤の有効性の検討	佐藤 未来	乳腺・内分泌外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
自発運動療法による鎮痛効果の機序解明:脊髄ミクログリアのトランスクリプトーム解析	鈴木 潤	手術部	2,600,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

オレキシン-アセチルコリン性神経経路がICUせん妄を発症させる機序の解明	紺野 大輔	集中治療部	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
独自開発アプリにより取得した大規模情報を用いたてんかん発作予報アルゴリズムの開発	浮城 一司	てんかん科	2,860,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
好中球細胞外トラップの評価による骨軟部肉腫のバイオマーカーと新規治療開発	吉田 新一郎	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腎癌における腸内細菌叢の役割と分子機構の解明	方山 博路	泌尿器科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腎癌及び尿路上皮癌の免疫療法による副作用を予測するオミックス統合モデルの構築	佐藤 友紀	泌尿器科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
子宮内膜症関連卵巣癌に対するアポトーシス導入療法の確立	渋谷 祐介	婦人科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
余暇騒音による音響暴露が若年者の聴覚機能に及ぼす影響の検討	佐藤 剛史	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,080,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
生体内レドックス(酸化還元)恒常性からみた嗅神経性嗅覚障害の病態解明	小林 祐太	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
小児の閉塞性睡眠時無呼吸の重症度評価:心身発達を考慮した基準の基盤確立	安達 美佳	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,820,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
頭頸部癌化学放射線療法における細菌叢変化およびシンバイオティクス製剤の有用性	石井 亮	耳鼻咽喉・頭頸部外科	2,340,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エナメル上皮腫における幹細胞的性格が腫瘍の発症・再発に及ぼす影響	後藤 弓里子	周術期口腔健康管理部	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
歯周病関連細菌由来の酪酸による歯周病進行メカニズム解明と新規治療法開発	大谷 栄毅	歯周病科	1,040,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

顎矯正手術での磁気式ナビゲーションを応用した次世代型手術支援システムの開発	齊藤 志都	歯科顎口腔外科(形態機能グループ)	3,120,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
可視光応答性光触媒を用いた抗菌性スマートコンポジットレジン材料の開発	尾崎 茜	咬合修復科	2,080,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
補綴装置への細菌付着を代謝で制御するー食品を使った新規口腔ケア戦略ー	互野 亮	咬合修復科	2,340,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
骨シアロタンパク質の骨免疫機構に着目した骨再生・インプラント骨結合促進技術の開発	長崎 敦洋	咬合修復科	2,210,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
接着性レジンセメントのレオロジー特性に着目した重合収縮応力抑制方法の探索	河阪 幸宏	咬合修復科	1,560,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
機械的刺激下の骨改造におけるTRPV2による破骨細胞性骨吸収誘導機構の解明	茂見 翔平	矯正歯科	2,600,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
口腔機能トレーニングの長期持続と予測モデルの脳科学的検証	阿部 真澄	咬合回復科	2,080,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
人工知能を用いた集中治療患者の疼痛可視化システムの開発	小林 直也	集中治療部	1,820,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
植込型補助人工心臓装着患者のHRQOL質問票QOLVADの日本語版開発とその検証	宮武 ミドリ	心臓血管外科	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
Destination Therapy患者の精神心理的フレイルにおける、脳血流量の意義に関する研究	竹内 雅史	リハビリテーション部門	1,170,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会
家族性ALSで見出した新規遺伝子変異の病原性解明パイプラインの確立	西山 亜由美	脳神経内科	826,885	補 委	独立行政法人日本学術振興会
子宮内における慢性低酸素ストレスが胎児の副腎皮質に与える影響の解析	池田 秀之	周産母子センター	1,465,605	補 委	独立行政法人日本学術振興会
酸化ストレス応答転写因子NRF2に着目した新規Exercise pillの開発	大野木 孝嘉	整形外科	1,324,300	補 委	独立行政法人日本学術振興会
「学び」を支える脳内機構の解明と効果的な教示法の探索	柿沼 一雄	リハビリテーション部	910,000	補 委	独立行政法人日本学術振興会

胃癌におけるDesmoplastic reactionの意義とその成因の解明	相澤 卓	胃腸外科	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
IQGAP3はKRAS-TGF β signalingを介して膀胱組織の腫瘍内不均一性を制御する	志村 充広	胃腸外科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
転移特異的マイクロRNAを用いたリンパ行性薬物投与システムによる抗転移療法の開発	東 友太郎	歯科顎口腔外科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新規シミュレータ開発による内視鏡的静脈瘤止血術の学習方法の確立	畑山 裕	消化器内科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ビッグデータ解析によるICU患者の病床移動アルゴリズムの開発とAIシミュレーション	井汲 沙織	麻酔科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新規呼気補助装置を用いた人工呼吸の換気効率測定と規定因子の解明	高橋 和博	麻酔科	2,210,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
卵巣癌細胞の鉄硫黄メタボリズムを標的とする新規治療の開発	宮原 周子	婦人科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
緑内障患者及び地域住民コホートにおける酸化ストレス関連遺伝子の網羅的解析	橋本 和軌	眼科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
次世代プロテオミクス技術を用いた酸化ストレス感受性緑内障集団の層別化	二宮 高洋	眼科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
LRPAP1ノックアウトマウスを用いた緑内障病態解明	高橋 直樹	眼科	1,690,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
マルチオミクス解析を用いた高齢マウスにおける炎症性破骨細胞形成のメカニズムの解明	加納 佳与子	矯正歯科	1,430,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エナメル芽細胞におけるカルシウム結合タンパクの機能解析	大竹 慎司	小児歯科	1,170,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エストロゲンが関節円板の機械的特性および細胞外基質に及ぼす影響に関する基礎研究	安野 梢	矯正歯科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
医薬品副作用症例の質評価に基づく医薬品副作用因果推論スキル習得のための教材開発	森下 啓	薬剤部	470,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

cell-free DNAを用いたMYD88変異検索有用性の検討	吉岡 翔	検査部	470,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
低線量・低線量率放射線の持続被ばくが肝臓の酸化ストレス状態に及ぼす影響の解析	石川 諒椰	放射線部門	470,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新規3Dプリント材を用いて光造形したOSA用OAの適合性と維持力に関する検討	廣嶋 なみき	診療技術部	460,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
耳鼻咽喉科におけるMRSAの分子疫学的解析による伝播様式の解明と感染対策基盤構築	角田 梨紗子	耳鼻咽喉・頭頸部外科	1,280,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
腸内細菌によるDNAメチル化を介した散発性MSI-H大腸癌誘導機序の解明	小野 智之	胃腸外科	1,920,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新規MAT2A阻害剤の開発ーメチル化異常をターゲットにしたがん治療に向けてー	杉沢 徳彦	胃腸外科	1,920,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
ミエロイド系免疫チェックポイント機構LILRB3の解明と、肺癌における意義の検討	熊田 早希子	呼吸器外科	2,240,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
感染チタン表面の殺菌・再感染予防・組織再生を有するインプラント周囲炎治療法の開発	小川 徹	総合歯科診療部	4,550,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
東北メディカル・メガバンクを活用した心不全に対する超早期疾患予測モデルの開発	高濱 博幸	循環器内科	1,950,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新生児脳MRIを用いた早期発症型胎児発育不全児の神経発達予後予測指標の開発	秋山 志津子	周産母子センター	1,300,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
α -シヌクレインのヒストンリモデリング因子WDR5を介したエピゲノム制御の解明	菅野 直人	脳神経内科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
急性期脳梗塞における免疫血栓を標的とした新規治療法の開発	坂田 洋之	脳神経外科	1,560,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
非小細胞肺癌に対するT細胞の抗腫瘍免疫応答におけるIL-36の役割の解明	野津田 泰嗣	呼吸器外科	104,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
小児麻酔の気道確保時における危機的合併症と関連するリスク因子に関する研究	海法 悠	麻酔科	13,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

免疫逃避機構を応用した新たな肺移植の戦略	大石 久	呼吸器外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
慢性心不全の病態と予後規定因子探索のための多変量経時データ解析モデルの開発	後岡 広太郎	循環器内科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
血糖変動と家庭高血圧および認知症関連脳所見との関連:機械学習による検討	浅井 洋一郎	糖尿病代謝・内分泌 内科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
肺移植後の在宅呼吸機能モニタリング・解析と予測モデル開発:多施設共同研究	平間 崇	呼吸器外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Samd9lを標的とした炎症再生制御による根尖性歯周炎治療法開発に向けた基盤研究	鈴木 茂樹	歯周病科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
応力分布を実時間計測可能な脳模型を用いた手術トレーニングシステムの開発	中川 敦寛	脳神経外科	260,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
集中治療後患者の機能回復を目指した継続的多職種フォローアップモデルの有効性の検証	松井 憲子	(教研高度救命救急セ ンター	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
集中治療後患者の機能回復を目指した継続的多職種フォローアップモデルの有効性の検証	井上 昌子	(教研高度救命救急セ ンター	65,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
リアルワールドデータによる重症救急疾患のクオリティ・インディケータの開発と検証	大邊 寛幸	救急科	52,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
放射線治療技術の標準化と災害時の施設間連携を支援する医療ICTシステム開発と実践	角谷 倫之	放射線治療科	65,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
市中施術所および医療機関におけるCOVID-19後遺症の特徴の抽出と鍼灸治療の効果の検討	有田 龍太郎	総合地域医療教育支 援部	13,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
Ti-Ag-x系抗菌性強化型インプラント合金の開発	山口 洋史	咬合回復科	65,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
慢性期脊髄損傷に対するMuse細胞を用いた新規治療法の開発	富永 悌二	脳神経外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
慢性期脊髄損傷に対するMuse細胞を用いた新規治療法の開発	下田 由輝	脳神経外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
エビデンスと至適運動の確立をめざした腎臓リハビリテーションの有効性の機序解明	三浦 平寛	リハビリテーション科	2,600,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会

ヒト嚙下筋の組織学的検討 —多施設共同研究によるサルコペニアの嚙下障害の病態解明	平野 愛	耳鼻咽喉・頭頸部外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
新しいラットモデルを用いた 術後痛遷延化の分子遺伝メ カニズムの解明と治療戦略 の開発	杉野 繫一	集中治療部	65,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
少数学習データ深層学習に よる肝細胞癌に対する陽子 線治療計画自動生成システ ムの開発	角谷 倫之	放射線治療科	65,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
神経性過食症に対する認知 行動療法改良版(CBT-E)の 多施設共同無作為比較試験	佐藤 康弘	心療内科	400,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
脊髄悪性腫瘍に対する光刺 激インプラントデバイスを用 いた新規治療法の開発	中川 敦寛	脳神経外科	390,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
脊髄悪性腫瘍に対する光刺 激インプラントデバイスを用 いた新規治療法の開発	大沢 伸一郎	脳神経外科	130,000	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
合併症を再現できる内視鏡 手技シミュレータを展開し、 有効な学習プログラムを構築 する	荒田 悠太郎	卒後研修センター	0	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
医療行為の結果を質向上す る多施設共同カイゼン研究 デザインの確立に関する研究	田畑 雅央	医療安全推進室	0	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
医療行為の結果を質向上す る多施設共同カイゼン研究 デザインの確立に関する研究	西條 文人	医療安全推進室	0	補 委	独立行政 法人日本 学術振興 会
臨床研究総合促進事業	張替秀郎	病院	25,631,000	補 委	厚生労働 省
小児期発症の希少難治性肝 胆膵疾患における医療水準 並びに患者QOLの向上のた めの調査研究	仁尾正記	小児外科	16,900,000	補 委	厚生労働 省
強皮症・皮膚線維化疾患の 診断基準・重症度分類・診療 ガイドライン・ 疾患レジストリに関する研究	浅野善英	皮膚科	8,000,000	補 委	厚生労働 省
環境中における薬剤耐性微 生物及び抗微生物剤の調査 法等の確立のための研究	金森肇	総合感染症科	1,950,000	補 委	厚生労働 省
希少難治性筋疾患に関する 調査研究	青木正志	脳神経内科	27,950,000	補 委	厚生労働 省
認知症の病態の進行に影響 する重症化因子の特定と進 行予防への効果的な介入方 法の確立のための研究	鈴木匡子	高次脳機能障害科	1,015,000	補 委	厚生労働 省

障害福祉サービス等事業者における高次脳機能障害者への支援の実態把握及び推進のための研究	鈴木匡子	高次脳機能障害科	1,000,000	補委	厚生労働省
認知症の病態の進行に影響する重症化因子の特定と進行予防への効果的な介入方法の確立のための研究	伊関千書	高次脳機能障害科	1,015,000	補委	厚生労働省
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究	富田博秋	精神科	1,170,000	補委	厚生労働省
医療機器の適正使用指針作成及び見直しの最適化に関する研究	池田浩治	臨床研究・開発推進	4,500,000	補委	厚生労働省
希少がん診療・相談支援におけるネットワーク構築に資する研究	高橋雅信	腫瘍内科	1,494,000	補委	厚生労働省
子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究	八重樫伸生	婦人科	200,000	補委	厚生労働省
ミトコンドリア病の診療水準やQOL向上を目指した調査研究	立花眞仁	産科	500,000	補委	厚生労働省
糖尿病の実態把握と発症予防・重症化予防のための研究	田中哲洋	腎・高・内	300,000	補委	厚生労働省
遺伝性白質疾患・知的障害をきたす疾患の医療水準の向上と療養に資する研究システムの構築	植松有里佳	小児科	600,000	補委	厚生労働省
小児がん拠点病院・連携病院のQI(Quality Indicators)を評価指標としてがん対策推進基本計画の進捗管理を行う小児がん医療体制整備のための研究	笹原洋二	小児科	200,000	補委	厚生労働省
新生児スクリーニング対象疾患等の先天代謝異常症の成人期にいたる診療体制構築と提供に関する研究	和田陽一	小児科	600,000	補委	厚生労働省
認知症診療医のための「特発性正常圧水頭症の鑑別診断とアルツハイマー病併存診断、および診療連携構築のための実践的引き書きと検査解説ビデオ」作成研究	伊関千書	高次脳機能障害科	700,000	補委	厚生労働省
希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築	和田基	小児外科	200,000	補委	厚生労働省
臓器・組織移植医療における医療者の負担軽減、環境改善に資する研究	久志本成樹	救急科	250,000	補委	厚生労働省

がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究	平塚裕介	緩和医療科	500,000	補委	厚生労働省
肝炎ウイルス検査受検率の向上及び受診へ円滑につなげる方策の確立に資する研究	井上淳	消化器内科	600,000	補委	厚生労働省
原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究	笹原洋二	小児科	1,000,000	補委	厚生労働省
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	青木正志	脳神経内科	1,000,000	補委	厚生労働省
神経変性疾患領域における難病の医療水準の向上や患者のQOL向上に資する研究	青木正志	脳神経内科	800,000	補委	厚生労働省
筋ジストロフィーの標準的医療普及のための調査研究	青木正志	脳神経内科	300,000	補委	厚生労働省
慢性閉塞性肺疾患患者における加熱式たばこの経年的な肺機能への影響に関する前向き観察研究	杉浦久敏	呼吸器内科	150,000	補委	厚生労働省
自己炎症性疾患とその類縁疾患における、移行期医療を含めた診療体制整備、患者登録推進、全国疫学調査に基づく診療ガイドライン構築に関する研究	笹原洋二	小児科	600,000	補委	厚生労働省
成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの強化のための研究	大島謙吾	総合感染症科	450,000	補委	厚生労働省
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる診療連携体制および相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	青木正志	脳神経内科	200,000	補委	厚生労働省
スモンに関する調査研究	青木正志	脳神経内科	500,000	補委	厚生労働省

成長障害・性分化疾患を伴う 内分泌症候群(プラダーウイ リ症候群・ヌーナン症候群を 含む)の診療水準向上を目 指す調査研究	青木洋子	遺伝科	300,000	補 委	厚生労働 省
運動失調症の医療水準、患 者QOLの向上に資する研究 班	青木正志	脳神経内科	700,000	補 委	厚生労働 省
難治性の肝・胆道疾患に関 する調査研究	仁尾正記	小児外科	300,000	補 委	厚生労働 省
オールジャパン体制による IgG4関連疾患の診断基準並 びに診療指針の確立を目指 す研究	正宗淳	消化器内科	800,000	補 委	厚生労働 省
特発性心筋症の診断・ゲノム 情報利活用に関する調査研 究	安田聡	循環器内科	300,000	補 委	厚生労働 省
特発性造血障害に関する調 査研究	張替秀郎	血液・免疫科	500,000	補 委	厚生労働 省
がん患者に発症する心血管 疾患・脳卒中の早期発見・早 期介入に資する研究	高橋雅信	腫瘍内科	300,000	補 委	厚生労働 省
もやもや病(ウイリス動脈輪閉 塞症)における難病医療体制 の整備や患者のQOL向上に 資する研究	遠藤英徳	脳神経外科	500,000	補 委	厚生労働 省

就労定着支援の質の向上に向けたマニュアルの開発のための研究	藤川真由	てんかん科	300,000	補 委	厚生労働省
遺伝性骨髄不全症の登録システムの構築と診断基準・重症度分類・診断ガイドラインの確立に関する研究	張替秀郎	血液・免疫科	700,000	補 委	厚生労働省
副腎ホルモン産生異常に関する調査研究	高瀬圭	放射線診断学分野	200,000	補 委	厚生労働省
慢性活動性EBウイルス病と類縁疾患のレジストリ・バイオバンク運用体制の拡充と診療連携基盤の確立	笹原洋二	小児科	150,000	補 委	厚生労働省
放射線療法の提供体制構築に資する研究	神宮啓一	放射線治療科	300,000	補 委	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究	石岡千加史	腫瘍内科	300,000	補 委	厚生労働省
がん患者に発症する心血管疾患・脳卒中の早期発見・早期介入に資する研究	神宮啓一	放射線治療科	300,000	補 委	厚生労働省
患者との双方向的協調に基づく先天異常症候群の自然歴の収集とrecontact可能なシステムの構築	青木洋子	遺伝科	650,000	補 委	厚生労働省

回復期以降の循環器病に対する多職種連携による患者支援体制の充実・普及に資する研究	安田聡	循環器内科	1,000,000	補 委	厚生労働省
先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する医療と支援に関する研究	香取幸夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科	150,000	補 委	厚生労働省
育成医療対象疾患の実態把握に関する研究	今井啓道	形成外科	200,000	補 委	厚生労働省
リアルワールドデータを利用した痙攣性発声障害重症度分類の改訂と治療指針作成研究	香取幸夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科	100,000	補 委	厚生労働省
稀少てんかんの診療指針と包括医療の研究	神一敬	てんかん科	550,000	補 委	厚生労働省
種々の症状を呈する難治性疾患における中枢神経感作の役割解明と QOL 向上、社会啓発を旨とした領域統合多施設共同疫学研究	小川徹	総合歯科診療部	300,000	補 委	厚生労働省
認定臨床研究審査委員会の審査の質の定期評価のための評価手法およびその実施方法に関するマニュアル策定に向けた研究	高野忠夫	臨床研究監理センター	250,000	補 委	厚生労働省
新規疾患の新生児マスキリーニングに求められる実施体制の構築に関する研究	和田陽一	小児科	100,000	補 委	厚生労働省

社会状況等を踏まえた、適切な妊産婦健康診査の検討に資する研究	菊地紗耶	精神科	200,000	補 委	厚生労働省
妊産婦へのメンタルヘルス支援の体制整備に向けた研究	菊地紗耶	精神科	1,500,000	補 委	厚生労働省
電子カルテ情報活用型多施設症例データベースを利用した糖尿病に関する臨床研究情報収集に関する研究(J-DREAMS)	片桐秀樹	糖尿病代謝科	300,000	補 委	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
ガン放射線治療(IMRT)計画の業務品質向上及び作成時間軽減を支援するAIシステムの開発	神宮 啓一	放射線治療科	1,559,350	補 委	公益財団法人みやぎ産業振興機構
①恒常性の理解と制御による糖尿病および併発疾患の克服②末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発③中枢における情動-自律神経連関の神経回路解明とその制御法の開発④糖尿病における肝の変容解明とその制御⑤糖尿病超早期段階の予測法の開発と予後予測⑥糖尿病未病・超早期状態におけるデータセットの構築と解析	片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	218,309,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
先進遠隔医療のための在宅デジタル高齢者総合機能評価の開発	海老原 覚	リハビリテーション科	1,300,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
成体幹細胞の神経提形質を増強した歯胚再生技術の開発	新部 邦透	咬合修復科	8,840,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構
①遠心性神経による臓器機能調節の実態解明とニューロン制御法の開発②糖尿病における脳血管の変容解明と制御	新妻 邦泰	脳神経外科	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 科学技術振興機構

①恒常性の理解と制御による糖尿病および併発疾患の克服②末梢臓器情報を中枢に伝達する分子機序解明とその制御法の開発③中枢における情動-自律神経連関の神経回路解明とその制御法の開発④糖尿病における肝の変容解明とその制御⑤糖尿病超早期段階の予測法の開発と予後予測⑥糖尿病未病・超早期状態におけるデータセットの構築と解析	片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	218,309,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
次世代光技術を用いた革新的脳腫瘍制御法の創発	新妻 邦泰	脳神経外科	11,830,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
次世代光技術を用いた革新的脳腫瘍制御法の創発	新妻 邦泰	脳神経外科	8,580,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
胎児治療介入技術の研究開発におけるELSI/IRRI及び技術的課題に関する検討	高野 忠夫	臨床研究監理センター	2,080,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構
膵B細胞増殖を促進する脳-膵臓間神経経路の解明とその応用による膵B細胞増量治療の開発	川名 洋平	糖尿病代謝・内分泌内科	6,500,000	補 委	国立研究 開発法人 科学技術 振興機構

計 446件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種 別
1	Kodama EN, Taira M, Kiyomoto H, et al		Urgent Notification Intervention of Home Blood Pressure in Cohort Studies of the Tohoku Medical Megabank Project.	JMA J. 2024 Jul 16 ; 7(3):342-352.	Original Article
2	Katakura T, Shirai T, Fujii H, et al		Clinical Images: Multiple blisters on the upper and lower extremities in granulomatosis with polyangiitis.	ACR Open Rheumatol. 2025 Mar ; 7(3):e70031.	Case Report
3	Nochioka K, Nakayama M, Akashi N, et al	循環器内科	Change in pulse pressure and cardiovascular outcomes after percutaneous coronary intervention: The CLIDAS study.	Int J Cardiol Heart Vasc. 2024 May 24 ; 53:101430. (オンライ ン)	Original Article
4	Shimokawa H	循環器内科	Therapeutic potentials of sound waves in cardiovascular medicine: further important evidence.	Eur Heart J. 2024 Aug 3 ; 45(29):2644- 2646.	Original Article
5	Takeuchi S, Honda S, Nishihira K, et al	循環器内科	Prognostic impact of heart failure admission in survivors of acute myocardial infarction.	ESC Heart Fail. 2024 Aug ; 11(4):2344- 2353.	Original Article
6	Hayashi H, Nochioka K, Nakano M, et al	循環器内科	Sex Differences in Sudden Cardiac Death During Long- Term Follow-up in Patients With Chronic Heart Failure- A Report From the CHART-2 Study.	Circ J. 2025 Jan 18.	Original Article
7	Hayashi H, Saijo E, Hirata K, et al	総合感染症科	SHIN-2 exerts potent activity against VanA-type vancomycin- resistant Enterococcus faecium in vitro by stabilizing the active site loop of serine hydroxymethyltransferase.	Arch Biochem Biophys. 2024 Nov ; 761:110160.	Original Article
8	Hayashi H, Hasegawa K, Saijo E, et al	総合感染症科	Binding of a potential antibacterial drug, mangiferin, to serine hydroxymethyltransferase from Enterococcus faecium.	Biochem Biophys Res Commun. 2025 Jan ; 743:151177.	Original Article
9	Ichikawa S, Abe H, Komatsu H, et al	血液内科	Successful Cord Blood Transplantation for Myeloid/Natural Killer Precursor Acute Leukemia: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2025 Apr 15 ; 64(8):1235-1239.	Case Report

10	Ichikawa S, Hatta S, Harigae H	血液内科	Peritoneal lymphomatosis with CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma.	Int J Hematol. 2025 Apr ; 121(4):429-431.	Letter
11	Ichikawa S, Kato H, Morota N, et al	血液内科	Angioimmunoblastic T-cell lymphoma harboring a t(8;14)(q24;q11.2)/TCR::MYC translocation that presented with intestinal infiltration.	Ann Hematol. 2025 Jan ; 104(1):835-840.	Case Report
12	Ichikawa S, Abe H, Morota N, et al	血液内科	Successful Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Nodal Epstein-Barr Virus-positive T/NK-cell Lymphoma.	Intern Med. 2024 Nov 21.	Original Article
13	Okazaki S, Shirai T, Sato H, et al	リウマチ膠原病内科	Development of anti-MDA5 autoantibody-positive dermatomyositis following the use of etanercept biosimilar in rheumatoid arthritis.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Jul 8 ; 8(2):296-301.	Case Report
14	Katakura T, Shirai T, Ishii Y, et al	リウマチ膠原病内科	Refractory skin ulcers and afebrile bacteremia with Staphylococcus aureus in anti-melanoma differentiation-associated gene 5 antibody-positive dermatomyositis: a case report.	Mod Rheumatol Case Rep. 2024 Dec 12:rxae082.	Original Article
15	Moroi R, Nochioka K, Miyata S, et al	消化器内科	Safety and effectiveness of additional triamcinolone acetonide with endoscopic radial incision and cutting for benign stenosis of the lower gastrointestinal tract: A pilot study.	DEN Open. 2024 Sep 3 ; 5(1):e70002. (オンライン)	Original Article
16	Moroi R, Tarasawa K, Nagai H, et al	消化器内科	Clinical Practice and Safety of Endoscopic Balloon Dilation for Crohn's Disease-Related Strictures: A Nationwide Claim Database Analysis in Japan.	Gastroenterol Res Pract. 2024 Nov 14 ; 2024:1291965. (オンライン)	Original Article
17	Moroi R, Nochioka K, Miyata S, et al	消化器内科	Endoscopic radial incision and cutting using balloonassisted enteroscopy for small intestinal stenosis related to Crohn's disease: a pilot study.	Intest Res. 2025 Jan 21.	Original Article
18	Ono R, Takayama S, Abe M, et al	漢方内科	Growth Differentiation Factor-15 Is Considered a Predictive Biomarker of Long COVID in Non-hospitalized Patients.	Cureus. 2024 May 1 ; 16(5):e59433. (オンライン)	Original Article

19	Takayama S, Yamanaka T	総合地域医療教育支援部	Intractable cough and hiccups after resuscitation and acute coronary syndrome treatment successfully treated using the Kampo medicine bukuyoingohangekobokuto: A case report.	Explore (NY). 2024 Sep-Oct ; 20(5):103001.	Case Report
20	Iwasaki T, Shirota H, Sasaki K, et al	腫瘍内科	Specific cancer types and prognosis in patients with variations in the KEAP1-NRF2 system: A retrospective cohort study.	Cancer Sci. 2024 Dec ; 115(12):4034-4044.	Original Article
21	Kasahara Y, Saijo K, Ueta R, et al	腫瘍内科	Pretreatment neutrophil-lymphocyte ratio as a prognostic factor in recurrent/metastatic head and neck cancer treated with pembrolizumab.	Sci Rep. 2024 Nov 16 ; 14(1):28255. (オンライン)	Original Article
22	Taniguchi SH, Takahashi M, Chiu SW, et al	腫瘍内科	Impact of genetic mutations on prognosis and chemotherapy efficacy in advanced appendiceal carcinoma: insights from the nationwide Japanese comprehensive genomic profiling test database.	Int J Clin Oncol. 2025 May ; 30(5):914-925.	Original Article
23	Ouchi K, Takahashi S, Sasaki K, et al	がんセンター	Genome-wide DNA methylation status is a predictor of the efficacy of anti-EGFR antibodies in the second-line treatment of metastatic colorectal cancer: Translational research of the EPIC trial.	Int J Colorectal Dis. 2024 Jun 11 ; 39(1):89. (オンライン)	Original Article
24	Takahashi S, Sato N, Kaneko K, et al	腫瘍内科	TP53 signature predicts pathological complete response after neoadjuvant chemotherapy for breast cancer: Observational and confirmational study using prospective study cohorts.	Transl Oncol. 2024 Oct ; 48:102060.	Original Article
25	Umetsu M, Hirokawa M, Fukaya E, et al	総合外科	Safety assessment of cyanoacrylate closure for treatment of varicose veins in a large-scale national survey in Japan.	J Vasc Surg Venous Lymphat Disord. 2025 Mar ; 13(2):102160.	Original Article
26	Itagaki K, Katahira S, Sasaki K, et al	心臓血管外科	Study Protocol and Mission for the Tohoku Registry of Acute Aortic Dissection (TRAD).	Circ Rep. 2024 Sep 13 ; 6(10):465-468. (オンライン)	Original Article

27	Itagaki K, Katahira S, Hosoyama K, et al	心臓血管外科	Utility of transmanubrial osteomuscular sparing approach and its modification in vascular surgery: a case series study of surgeries related to subclavian artery.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2024 Jun 20 ; 3(1):32. (オンライン)	Original Article
28	Kurata H, Hakozaiki M, Yoshida S, et al	整形外科	Trigger Finger Caused by a Solitary Osteochondroma of the Proximal Phalanx in an Adolescent: A Case Report.	Cureus. 2025 Feb 26 ; 17(2):e79691. (オンライン)	Case Report
29	Nagamoto H, Takahashi S, Okunuki T, et al	整形外科	Prevalence of impaired foot function in baseball players with and without disabled throwing shoulder/elbow: a case-control study.	Sci Rep. 2024 May 2 ; 14(1):10051. (オンライン)	Original Article
30	Nagamoto H, Kimura R, Hata E, et al	整形外科	Do floating toes relate with the ability to perform the deep squat test among baseball players with throwing injury?	Res Sports Med. 2025 Mar-Apr ; 33(2):212-223.	Original Article
31	Watanabe Y, Watanabe T, Hirama T, et al	呼吸器外科	Lobar graft evaluation in cadaveric lobar lung redo transplantation after living-donor lobar lung transplantation: a case report.	Surg Case Rep. 2024 Oct 23 ; 10(1):238. (オンライン)	Original Article
32	Mukai S, Hirama T, Onodera K, et al	呼吸器外科	Key predictors of long-term survival after lung transplantation in Japan.	Respir Investig. 2025 May ; 63(3):265-272.	Original Article
33	Onodera K, Notsuda H, Watanabe T, et al	呼吸器外科	The CONUT score is associated with the pathologic grade in non-small cell lung cancer.	Surg Today. 2024 Dec ; 54(12):1437-1444.	Original Article
34	Watanabe T, Hirama T, Onodera K, et al	呼吸器外科	Native-lung complications following single-lung transplantation for interstitial lung disease: an in-depth analysis.	BMC Pulm Med. 2024 Apr 24 ; 24(1):202. (オンライン)	Original Article
35	Watanabe T, Hirama T, Akiba M, et al	呼吸器外科	COVID-19 pneumonia in lung transplant recipients: understanding risk factors and treatment outcomes in Japan.	Clin Exp Med. 2024 Jun 10 ; 24(1):123. (オンライン)	Original Article
36	Ueda K, Watanabe T, Watanabe Y, et al	呼吸器外科	Single Lung Transplantation After Open Window Thoracotomy for Empyema: A Case Report.	Transplant Proc. 2024 Jun ; 56(5):1179-1182.	Case Report
37	Hirama T, Shundo Y, Watanabe T, et al	呼吸器外科	Letemovir prophylaxis for cytomegalovirus in lung-transplant recipients: a comprehensive study with literature review of off-label use and real-world experiences.	Clin Exp Med. 2024 Apr 5 ; 24(1):68. (オンライン)	Original Article

38	Abe N, Toyama H, Ejima Y, et al	麻酔科	Prazosin Potentiates Mast Cell-Stabilizing Property of Adrenaline.	Cell Physiol Biochem. 2024 May 9 ; 58(3):212-225.	Original Article
39	Akai T, Kawamorita N, Shiraiwa T, et al	泌尿器科	A severe case of the bladder inversion treated by total cystectomy and hysterectomy with ileal conduit.	IJU Case Rep. 2024 Dec 16 ; 8(2):85-88. (オンライン)	Original Article
40	Akaishi T, Mitsu T	脳神経内科	Anti-aquaporin-4 antibody (AQP4-IgG) and anti-myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody (MOG-IgG) in the cerebrospinal fluid.	Neural Regen Res. 2024 May ; 19(5):949-950.	Original Article
41	Nagaoka A, Hino M, Izumi R, et al	精神科	Availability of individual proteins for quantitative analysis in postmortem brains preserved in two different brain banks.	Neuropsychopharmacol Rep. 2024 Jun ; 44(2):399-409.	Original Article
42	Kunii Y, Hamaie Y, Hino M, et al	精神科	Mental health needs in the acute and subacute phases of the 2024 Noto Peninsula earthquake: Emergency Medical Information System data analysis in Disaster Psychiatric Assistance Team activities.	PCN Rep. 2025 Mar 17 ; 4(1):e70085. (オンライン)	Original Article
43	Komatsu H, Sato Y, Tomimoto K, et al	精神科	Autistic symptoms and clinical features of individuals at clinical high risk for psychosis and first-episode psychosis.	Asian J Psychiatr. 2025 Jan ; 103:104345.	Original Article
44	Kikuchi Y, Onodera B, Komatsu H, et al	精神科	High frequency of clozapine-associated myocarditis and troponin elevation: Need for slower titration prospective studies.	Ment Health Clin. 2024 Oct 1 ; 14(5):302-303. (オンライン)	Original Article
45	Miura A, Nakagawa T, Sogi C, et al	小児科	Hearing loss with two pathogenic SLC26A4 variants and positive thyroid autoantibody: A case report.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024 Oct ; 33(4):219-223.	Case Report
46	Sakurai T, Hashimoto M, Kudo H, et al	小児外科	Usefulness of central venous catheter replacement with a guidewire in patients with intestinal failure: a single-center study.	Pediatr Surg Int. 2024 Aug 15 ; 40(1):226. (オンライン)	Original Article
47	Oguro S, Tannai H, Ota H, et al	放射線診断科	Role of radiologists in the diagnosis and management of adrenal disorders.	Endocr J. 2025 Feb 3 ; 72(2):131-148.	Original Article

48	Kiso K, Nakajima K, Nimura Y, et al	放射線診断科	A novel algorithm developed using machine learning and a J-ACCESS database can estimate defect scores from myocardial perfusion single-photon emission tomography images.	Ann Nucl Med. 2024 Dec ; 38(12):980-988.	Original Article
49	Usuzaki T, Ishikuro M, Kikuya M, et al	放射線診断科	Child-parent associations of hematocrit in trios of Japanese adulthood confirmed by the random family method: The TMM BirThree Cohort Study.	Sci Rep. 2024 Aug 16 ; 14(1):19047. (オンライン)	Original Article
50	Higuchi S, Horinouchi H, Nakayama S, et al	放射線診断科	Feasibility of revascularization after gelatin sponge embolization for hemoptysis during balloon pulmonary angioplasty.	Int J Cardiol. 2024 Oct 15 ; 413:132343.	Original Article
51	Ito K, Kamada H, Oguro S, et al	放射線診断科	Embolization of splenic artery aneurysms using coils and n-butyl 2-cyanoacrylate (NBCA) with a newly developed polytetrafluoroethylene (PTFE)-coated microcatheter: A case series of 3 patients.	Radiol Case Rep. 2025 Mar 21 ; 20(6):2908-2915. (オンライン)	Case Report
52	Odagiri H, Watabe H, Takanami K, et al	放射線診断科	Verification of the effect of data-driven brain motion correction on PET imaging.	PLoS One. 2024 Jul 5 ; 19(7):e0301919. (オンライン)	Original Article
53	Ota H, Morita Y, Vucevic D, et al	放射線診断科	Motion robust coronary MR angiography using zigzag centric ky-kz trajectory and high-resolution deep learning reconstruction.	MAGMA. 2024 Dec ; 37(6):1105-1117.	Original Article
54	Usuzaki T, Inamori R, Shizukuishi T, et al	放射線診断科	Predicting isocitrate dehydrogenase status among adult patients with diffuse glioma using patient characteristics, radiomic features, and magnetic resonance imaging: Multi-modal analysis by variable vision	Magn Reson Imaging. 2024 Sep ; 111:266-276.	Original Article
55	Kamada H, Oguro S, Fukushi T, et al	放射線診断科	Prophylactic splenic artery embolization using n-butyl-2-cyanoacrylate and coils prior to endoscopic necrosectomy in a patient with necrotizing pancreatitis: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Jun 1 ; 19(8):3483-3487. (オンライン)	Case Report
56	Higuchi S, Sato Y, Ota H, et al	放射線診断科	Identification of Adamkiewicz artery by 4D flow MRI and intra-arterial ultra-high-resolution CT angiography in preoperative assessment of patients with chronic aortic dissection: A case report.	Radiol Case Rep. 2024 Dec 28 ; 20(3):1581-1585. (オンライン)	Case Report

57	Usuzaki T, Kato T, Morishita Y, et al	放射線診断科	Meningitis Retention Syndrome With Mild Encephalopathy With a Reversible Splenic Lesion in a 30-Year-Old Woman: A Case Report.	Case Rep Radiol. 2025 Mar 13 ; 2025:7331226. (オンライン)	Case Report
58	Usuzaki T, Inamori R, Ishikuro M, et al	放射線診断科	Predicting EGFR Status After Radical Nephrectomy or Partial Nephrectomy for Renal Cell Carcinoma on CT Using a Self-attention-based Model: Variable Vision Transformer (vViT).	J Imaging Inform Med. 2024 Dec ; 37(6):3057-3069.	Original Article
59	Harigai A, Toyama Y, Nagano M, et al	放射線診断科	Response accuracy of GPT-4 across languages: insights from an expert-level diagnostic radiology examination in Japan.	Jpn J Radiol. 2025 Feb ; 43(2):319-329.	Original Article
60	Ohbe H, Yoshida M, Okada K, et al	救急科	Effects of high-fat, low-carbohydrate enteral nutrition in critically ill patients: A systematic review with meta-analysis.	Clin Nutr. 2024 Oct ; 43(10):2399-2406.	Original Article
61	Ohbe H, Satoh K, Totoki T, et al	救急科	Definitions, epidemiology, and outcomes of persistent/chronic critical illness: a scoping review for translation to clinical practice.	Crit Care. 2024 Dec 28 ; 28(1):435. (オンライン)	Original Article
62	Ohbe H, Yokokawa Y, Sato T, et al	救急科	Development and validation of early prediction models for new-onset functional impairment of patients with trauma at hospital discharge.	J Trauma Acute Care Surg. 2025 Jan 1 ; 98(1):167-178.	Original Article
63	Ohbe H, Shime N, Yamana H, et al	救急科	Hospital and regional variations in intensive care unit admission for patients with invasive mechanical ventilation.	J Intensive Care. 2024 Jun 5 ; 12(1):21. (オンライン)	Original Article
64	Ohbe H, Matsui H, Yasunaga H	救急科	Regional Critical Care Bed Capacity and Incidence and Mortality of Mechanical Ventilation in Japan.	Am J Respir Crit Care Med. 2024 Aug 1 ; 210(3):358-361.	Original Article
65	Ohbe H, Shime N, Yamana H, et al	救急科	Reply to the comment by Sakamoto et al. on "The method to identify invasive mechanical ventilation with Japanese claim data".	J Intensive Care. 2024 Dec 23 ; 12(1):54. (オンライン)	Letter
66	Ohbe H, Kudo D, Kimura Y, et al	救急科	In-hospital mortality of patients admitted to the intermediate care unit in hospitals with and without an intensive care unit: a nationwide inpatient database study.	Crit Care. 2025 Jan 20 ; 29(1):34. (オンライン)	Original Article

67	Ishiko R, Sena K, Koseki I, et al	口腔支持療法科	Elucidation of Factors Affecting Anterior Occlusion in Primary Dentition Based on the Japan Environment and Children's Study.	Children (Basel). 2025 Feb 19 ; 12(2):254. (オンライン)	Original Article
68	Dendo Y, Abe K, Onodera S, et al	臨床研究実施部門	Introduction and evaluation of size-specific DLP for radiation dose estimation in CT examinations.	J Radiol Prot. 2024 Oct 23 ; 44(4). (オンライン)	Original Article
69	Suzuki M, Isobe R, Sato T, et al	放射線部	Establishment of acquired radioresistant cells to fractionated radiation from hTERT-immortalized normal human epithelial cell.	Radiat Prot Dosimetry. 2024 Nov 13 ; 200(16-18):1636-1640.	Original Article
70	Takagi H, Takeda K, Kadoya N, et al	放射線部	Development of deep learning-based novel auto-segmentation for the prostatic urethra on planning CT images for prostate cancer radiotherapy.	Radiol Phys Technol. 2024 Dec ; 17(4):819-826.	Original Article
71	Ishii H, Chida K, Inaba Y, et al	放射線部	Comparison of radiation-shielding curtains for endoscopic retrograde cholangiopancreatography staff.	J Radiol Prot. 2024 Sep 25 ; 44(3). (オンライン)	Original Article
72	Funamizu Y, Goto H, Oda A, et al	生理検査センター	Opportunistic Ultrasound Screening for Abdominal Aortic Aneurysm.	Ann Vasc Dis. 2024 Jun 25 ; 17(2):157-163.	Original Article
73	Muroyama Y, Miura C, Imai Y, et al	病理部	Ossification of neurofibroma in neurofibromatosis type 1, a case report of a rare presentation.	Int J Surg Case Rep. 2024 Sep ; 122:110151.	Case Report
74	Muroyama Y, Yanagaki M, Ebata A, et al	病理部	Anemia and a giant breast mass.	J Am Coll Emerg Physicians Open. 2024 Sep 26 ; 5(5):e13298. (オンラ	Original Article
75	Watanabe H, Enda K, Fujishima F, et al	病理部	Primary hepatic alpha-fetoprotein-producing neuroendocrine neoplasm harboring FGFR2 and TP53 mutations: a case report and literature review.	Med Mol Morphol. 2025 Mar ; 58(1):83-86.	Case Report
76	Iwama N, Yokoyama M, Yamashita H, et al	周産母子センター	Impact of maternal overweight/obesity and high fasting plasma glucose on adverse perinatal outcomes in early gestational diabetes mellitus.	J Diabetes Investig. 2025 Apr ; 16(4):744-754.	Original Article
77	Takahashi Y, Fee EL, Takahashi T, et al	周産母子センター	Interleukin-1 Receptor Antagonists Partially Inhibited Histological Injury but Not Tissue Inflammation in a Sheep Model of Pregnancy.	Reprod Sci. 2025 Apr ; 32(4):1213-1227.	Original Article

78	Nikkuni E, Hirama T, Ui M, et al	リハビリテーション部	Thoracic and vertebral deformities in lung transplantation: perioperative complications and long-term prognoses.	BMC Pulm Med. 2024 Jul 18 ; 24(1):347. (オンライン)	Original Article
79	Akaishi T, Asari M, Sekiguchi S, et al	総合地域医療教育支援部	A Case With Bilateral Hippocampal Infarction Resembling Transient Global Amnesia.	J Med Cases. 2024 Aug ; 15(8):159-166.	Case Report
80	Akaishi T	総合地域医療教育支援部	Association Between Gastrointestinal and Sleep Problems in the General Population of Japan: A Cross-Sectional Community-Based Observational Study.	Cureus. 2024 Jul 24 ; 16(7):e65311. (オンライン)	Original Article
81	Ishizawa K, Tamahara T, Suzuki S, et al	総合地域医療教育支援部	Sequential Sampling of the Gastrointestinal Tract to Characterize the Entire Digestive Microbiome in Japanese Subjects.	Microorganisms. 2024 Jun 28 ; 12(7):1324. (オンライン)	Original Article
82	Akaishi T	総合地域医療教育支援部	Post-Toilet Wiping Style Is Associated With the Risk of Urinary Tract Infection in Women.	Cureus. 2024 Apr 12 ; 16(4):e58107. (オンライン)	Original Article
83	Akaishi T, Suzuki Y, Kawabata Y, et al	総合地域医療教育支援部	Temporary Global Amnesia With Insular Infarction in a Young Female: A Case Report.	Cureus. 2024 Dec 28 ; 16(12):e76534. (オンライン)	Case Report
84	Akaishi T	総合地域医療教育支援部	Uncommon Systemic Manifestation of Group A Beta-Hemolytic Streptococcus in a Middle-Aged Woman: A Case Report.	Cureus. 2025 Feb 11 ; 17(2):e78863. (オンライン)	Case Report
85	Takayama S, Kaji T, Furuta A, et al	総合地域医療教育支援部	Intractable Recurrent Abscess Around the Nipple Caused by Mastitis Remitted by Kampo Medicine Treatment: A Case Report.	Cureus. 2025 Jan 27 ; 17(1):e78105. (オンライン)	Case Report
86	Abe M, Yamaguchi T, Koshiba S, et al	総合地域医療教育支援部	Oral alkalinizing supplementation suppressed intrarenal reactive oxidative stress in mild-stage chronic kidney disease: a randomized cohort study.	Clin Exp Nephrol. 2024 Nov ; 28(11):1134-1154.	Original Article
87	Akaishi T	総合地域医療教育支援部	Difficulty Falling Asleep, Nocturnal Awakening, Sleep Dissatisfaction, and Irritability in the General Population.	Tohoku J Exp Med. 2024 Oct 17 ; 263(4):261-269.	Original Article

88	Satoh-Kuriwada S, Gotoh S, Shoji N, et al	総合歯科診療部	Contribution of kelp dashi liquid to sustainable maintenance of taste sensation and promotion of healthy eating in older adults throughout the umami-taste salivary reflex.	Front Nutr. 2024 Aug 27 ; 11:1406633. (オンライン)	Original Article
89	Tsuchiya S, Tsuchiya M, Momma H, et al	顎口腔機能治療部	Risk of self-harm ideation in mothers of children with orofacial cleft defects: the Japan environment and children's study.	Front Glob Womens Health. 2024 Sep 17 ; 5:1302808. (オンライン)	Original Article
90	Yamaguchi-Tanaka M, Takagi K, Sato A, et al	個別化医療センター	Regulation of Stromal Cells by Sex Steroid Hormones in the Breast Cancer Microenvironment.	Cancers (Basel). 2024 Dec 2 ; 16(23):4043. (オンライン)	Original Article
91	Ishii T, Kunishige H, Kobayashi T, et al	臨床研究推進センター	Real-world safety and effectiveness of mepolizumab for patients with eosinophilic granulomatosis with polyangiitis in Japan: A 48-week interim analysis of the MARS study.	Mod Rheumatol. 2024 Aug 20 ; 34(5):978-987.	Original Article
92	Noda A, Arita R, Obara T, et al	薬剤部	The Use of Japanese Traditional (Kampo) Medicines Before and During Pregnancy in Japan: The Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study.	Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2024 Oct ; 33(10):e70033.	Original Article
93	Maekawa M, Iwahori A, Kumondai M, et al	薬剤部	Determination of Choline-Containing Compounds in Rice Bran Fermented with Aspergillus oryzae Using Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry.	Mass Spectrom (Tokyo). 2024 (August) ; 13(1):A0151.	Original Article
94	Sato T, Kawabata T, Kumondai M, et al	薬剤部	Effect of Organic Anion Transporting Polypeptide 1B1 on Plasma Concentration Dynamics of Clozapine in Patients with Treatment-Resistant Schizophrenia.	Int J Mol Sci. 2024 Dec 9 ; 25(23):13228. (オンライン)	Original Article
95	Sato Y, Kondo H, Sato Y, et al	薬剤部	Development of Simultaneous Drug Concentration Measurement Method Using an Automated Pretreatment Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry System for Therapeutic Drug Monitoring.	Pharmaceutics. 2024 Aug 28 ; 16(9):1138. (オンライン)	Original Article
96	Noda A, Obara T, Shirota M, et al	薬剤部	Medication use before and during pregnancy in Japan: the Tohoku Medical Megabank Project Birth and Three-Generation Cohort Study.	Eur J Clin Pharmacol. 2024 Aug ; 80(8):1171-1180.	Original Article

97	Maekawa M, Sato T, Kanno C, et al	薬剤部	Wide-Targeted Semi-Quantitative Analysis of Acidic Glycosphingolipids in Cell Lines and Urine to Develop Potential Screening Biomarkers for Renal Cell Carcinoma.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 7 ; 25(7):4098. (オンライン)	Original Article
98	Maekawa M	薬剤部	Analysis of Metabolic Changes in Endogenous Metabolites and Diagnostic Biomarkers for Various Diseases Using Liquid Chromatography and Mass Spectrometry.	Biol Pharm Bull. 2024 (June) ; 47(6):1087-1105.	Original Article
99	Maekawa M, Yokota M, Sato T, et al	薬剤部	Development of a simultaneous LC-MS/MS analytical method for plasma: 16 antipsychotics approved in Japan and 4 drug metabolites.	Anal Sci. 2024 Sep ; 40(9):1749-1763.	Original Article
100	Otsuki A, Kumondai M, Kobayashi D, et al	薬剤部	Plasma Venetoclax Concentrations in Patients with Acute Myeloid Leukemia Treated with CYP3A4 Inhibitors.	Yakugaku Zasshi. 2024 (July); 144(7):775-779.	Case Report
101	Kumondai M, Ogawa R, Hayashi N, et al	薬剤部	Relevance of plasma lenvatinib concentrations and endogenous urinary cytochrome P450 3A activity biomarkers in clinical practice.	Pharmacol Res Perspect. 2024 Aug ; 12(4):e1241.	Original Article
102	Ishizuka Y, Oe Y, Kinomura S, et al	腎臓・高血圧内科	Waldenstrom's Macroglobulinemia/Lymphoplasmacytic Lymphoma Developing Renal AA Amyloidosis: A Case Report and Literature Review.	Intern Med. 2025 Apr 15 ; 64(8):1199-1204.	Case Report
103	Takahashi K, Sato E, Yamakoshi S, et al	腎臓・高血圧内科	Nicotinamide ameliorates podocyte injury and albuminuria in adriamycin-induced nephropathy.	Am J Physiol Renal Physiol. 2025 Apr 1 ; 328(4):F501-F516.	Original Article
104	Mishima E	腎臓・高血圧内科	Targeting ferroptosis for treating kidney disease.	Clin Exp Nephrol. 2024 Sep ; 28(9):866-873.	Original Article
105	Shirai T, Ishii T, Okazaki S, et al	リウマチ膠原病内科	Active withdrawal of corticosteroids using tocilizumab and its association with autoantibody profiles in relapsed Takayasu arteritis: a multicentre, single-arm, prospective study (the Ab-TAK study)	Front Immunol. 2025 Jan 7 ; 15:1473100. (オンライン)	Original Article
106	Oe Y, Tanaka T, Takahashi N	腎臓・高血圧内科	The Many Faces of Protease-Activated Receptor 2 in Kidney Injury.	Biomedicines. 2025 Feb 8 ; 13(2):414. (オンライン)	Original Article

107	Chiba Y, Takahashi R, Makino R, et al	腎臓・高血圧内科	Influence of infection control for COVID-19 on nutrition in relatively healthy Japanese HD patients: a retrospective observational study.	Clin Exp Nephrol. 2025 Feb 28.	Original Article
108	Kawajiri A, Li J, Koinuma K, et al	血液内科	Naturally arising memory-phenotype CD4(+) T lymphocytes contain an undifferentiated population that can generate T(H)1, T(H)17, and T(reg) cells.	Sci Adv. 2024 Dec 6 ; 10(49):eadq6618.	Original Article
109	Abe M, Toyama Y, Sano A, et al	放射線部	Post-TACE FDG Accumulation in HCC Surrounding the Liver Parenchyma: Distinguishing Between Inflammatory Pseudotumors and HCC.	Clin Nucl Med. 2024 Dec 1 ; 49(12):1109-1111.	Case Report
110	Yanagaki S, Omata K, Oguro S, et al	放射線診断科	Cost-effectiveness analysis of segmental adrenal venous sampling with radiofrequency ablation for primary aldosteronism in Japan.	Jpn J Radiol. 2025 Feb ; 43(2):290-300.	Original Article
111	Sato T, Morishita Y, Suzuki J, et al	放射線診断科	Imaging of cerebrospinal fluid leakage from the cribriform plate.	Radiol Case Rep. 2025 Jan 20 ; 20(4):1920-1924. (オンライン)	Case Report
112	Kadoya N, Arai K, Tanaka S, et al	放射線治療科	Assessing knowledge about medical physics in language-generative AI with large language model: using the medical physicist exam.	Radiol Phys Technol. 2024 Dec ; 17(4):929-937.	Original Article
113	Sato Y, Umezawa R, Yamamoto T, et al	放射線治療科	Recent radiotherapy could reduce heart-related death in patients with esophageal cancer: SEER database analysis.	Cardiooncology. 2024 Oct 18 ; 10(1):73. (オンライン)	Original Article
114	Yamamoto T, Tanaka S, Takahashi N, et al	放射線治療科	Investigation of intrafractional spinal cord and spinal canal movement during stereotactic MR-guided online adaptive radiotherapy for kidney cancer.	PLoS One. 2024 Oct 30 ; 19(10):e0312032. (オンライン)	Original Article
115	Kishida K, Jingu K, Ito K, et al	放射線治療科	Impact of dose distribution by a 3D planning system for brachytherapy with (198)Au grains for head and neck cancer.	Head Neck. 2024 Dec ; 46(12):3022-3029.	Original Article
116	Takeda K, Umezawa R, Yamamoto T, et al	放射線治療科	Craniospinal irradiation for leptomeningeal metastasis of solid tumors: survival analysis and prognostic factors.	J Radiat Res. 2024 Sep 24 ; 65(5):667-675.	Original Article

117	Yamamoto T, Tanaka S, Takahashi N, et al	放射線治療科	Planning evaluation of stereotactic magnetic resonance-guided online adaptive radiosurgery for kidney tumors close to the organ at risk: is it valuable to wait for good timing to perform stereotactic radiosurgery?	Radiat Oncol J. 2025 Mar ; 43(1):40-48.	Original Article
118	Tozuka R, Kadoya N, Arai K, et al	放射線治療科	Assessment of the deep learning-based gamma passing rate prediction system for 1.5 T magnetic resonance-guided linear accelerator.	Radiol Phys Technol. 2024 Jun ; 17(2):451-457.	Original Article
119	Takeda K, Umezawa R, Yamamoto T, et al	放射線治療科	Lymphopenia after palliative radiotherapy for vertebral metastases.	J Radiat Res. 2024 Jul 22 ; 65(4):523-531.	Original Article
120	Tozuka R, Johno H, Amakawa A, et al	放射線治療科	Application of NotebookLM, a large language model with retrieval-augmented generation, for lung cancer staging.	Jpn J Radiol. 2025 Apr ; 43(4):706-712.	Original Article
121	Takeda K, Umezawa R, Yamamoto T, et al	放射線治療科	Utilization and regional disparities of radiotherapy in cancer treatment in Japan: a longitudinal study using NDB open data.	J Radiat Res. 2025 Jan 22 ; 66(1):82-88.	Original Article
122	Takahashi K, Yamada T, Katagiri H	糖尿病代謝・内分泌内科	Inter-Organ Communication Involved in Brown Adipose Tissue Thermogenesis.	Adv Exp Med Biol. 2024 (September); 1461:161-175.	Original Article
123	Imai J	糖尿病代謝・内分泌内科	Possible etiological role of impaired endogenous double strand RNA editing in I2-cells in type 1 diabetes.	J Diabetes Investig. 2024 Sep ; 15(9):1171-1173.	Original Article
124	Sato T, Tsujimoto T, Kobayashi M, et al	糖尿病代謝・内分泌内科	Improvement and Retention of Insulin Secretion in Slowly Progressive Type 1 Diabetes Mellitus by Diet Therapy and Exercise for Five Years: A Case Report.	Intern Med. 2024 Dec 26.	Original Article
125	Ono Y, Tezuka Y, Omata K, et al	糖尿病代謝・内分泌内科	Screening Cutoff Values for the Detection of Aldosterone-Producing Adenoma by LC-MS/MS and a Novel Noncompetitive CLEIA.	J Endocr Soc. 2024 Apr 20 ; 8(6):bvae080. (オンライン)	Original Article
126	Sawahashi M, Moroi R, Kakuta Y, et al	消化器内科	Differences in Clinical Practice and Disease Course Between Elderly-Onset and Long-Standing Elderly Ulcerative Colitis: A Single-Center Study in Japan.	Tohoku J Exp Med. 2024 Dec 20 ; 264(3):109-116.	Original Article

127	Yachi K, Hatta W, Koike T, et al	消化器内科	Gastric Leiomyosarcoma Completely Resected by Endoscopic Submucosal Dissection after a Precise Preoperative Diagnosis.	Intern Med. 2025 Mar 1 ; 64(5):705-709.	Case Report
128	Tsuruoka M, Ninomiya M, Inoue J, et al	消化器内科	Changes in Mutations of Cell-Free DNA and Liver Tumor Tissue in Patients with Advanced Hepatocellular Carcinoma before and after Introduction of Lenvatinib.	Oncology. 2024 (December); 102(12):1072-1083.	Original Article
129	Takikawa T, Kume K, Tanaka Y, et al	消化器内科	Risk Factors and a Prediction Model for Pain Recurrence After Pancreatic Stent Removal in Painful Chronic Pancreatitis.	Pancreas. 2025 Jan 1 ; 54(1):e30-e38.	Original Article
130	Inoue J, Akahane T, Miyazaki Y, et al	消化器内科	Long-read deep sequencing analysis of hepatitis B virus quasispecies in two elderly cases of interspousal transmission.	J Infect Chemother. 2025 Jan ; 31(1):102521.	Case Report
131	Oyama H, Moroi R, Sakuma A, et al	消化器内科	Chronic Poor Sleep is Associated with Increased Disease Activity in Patients with Ulcerative Colitis: Prospective Observational Study in Japan.	J Crohns Colitis. 2025 Jan 11 ; 19(1):jjae116.	Original Article
132	Tanabe M, Saito M, Uno K, et al	消化器内科	A Case of Superficial Esophageal Neuroendocrine Carcinoma with Marked Morphological Changes in a Short Period.	Intern Med. 2024 Nov 1.	Original Article
133	Sato K, Inoue J, Akahane T, et al	消化器内科	Comparison of hepatitis B virus genotype B and C patients in Japan in terms of family history and maternal age at birth.	Hepatol Res. 2025 May ; 55(5):773-779.	Original Article
134	Moroi R, Kakuta Y, Nagai H, et al	消化器内科	Clinical practice and outcome of patients with elderly-onset ulcerative colitis: Insights from a nationwide claims database study in Japan.	JGH Open. 2024 Jun 17 ; 8(6):e13103. (オンライン)	Original Article
135	Naito T, Osaka R, Kakuta Y, et al	消化器内科	Genetically Predicted Higher Levels of Caffeic Acid Are Protective Against Ulcerative Colitis: A Comprehensive Metabolome Analysis.	Inflamm Bowel Dis. 2024 Dec 5 ; 30(12):2440-2448.	Original Article
136	Suzuki S, Saito M, Uno K, et al	消化器内科	The usefulness of gel immersion endoscopy in identifying herald bleeding from an infectious aortoenteric fistula: a case report.	Clin J Gastroenterol. 2024 Oct ; 17(5):871-875.	Case Report

137	Hatta W, Koike T, Asano N, et al	消化器内科	The Impact of Tobacco Smoking and Alcohol Consumption on the Development of Gastric Cancers.	Int J Mol Sci. 2024 Jul 18 ; 25(14):7854. (オンライン)	Original Article
138	Doi K, Inoue J, Ninomiya M, et al	消化器内科	Three consecutive cases of acute liver failure in young women due to acetaminophen overdose: insights into Japanese social issues and transplantation landscape.	Clin J Gastroenterol. 2024 Oct ; 17(5):948–954.	Case Report
139	Sano T, Kikuta K, Takikawa T, et al	消化器内科	Serum IgG4–negative and IgG4–positive type 1 autoimmune pancreatitis present with different clinicopathological features: An analysis of a nationwide survey in Japan.	Pancreatology. 2025 Feb ; 25(1):82–88.	Original Article
140	Kaise Y, Uno K, Ogata Y, et al	消化器内科	A case of esophagogastric submucosal hematoma with hemorrhagic shock.	Clin J Gastroenterol. 2025 Feb ; 18(1):48–52.	Case Report
141	Satoh T, Yaoita N, Higuchi S, et al	循環器内科	Improving Balloon Pulmonary Angioplasty Through Target Endpoint Optimization With Pressure Catheter and A?Angiographic Lung Perfusion.	JACC Cardiovasc Interv. 2024 Oct 28 ; 17(20):2394–2407.	Original Article
142	Nishimiya K, Sharma G, Singh K, et al	循環器内科	Imaging human coronary cholesterol/urate crystals with cross–polarized micro–optical coherence tomography.	Front Cardiovasc Med. 2024 Oct 28 ; 11:1433227. (オンライン)	Original Article
143	Takeuchi K, Suzuki H, Takanami K, et al	循環器内科	Reduced (18)F–FDG uptake in the basal interventricular septum as a predictor of fatal ventricular arrhythmic events in patients with cardiac sarcoidosis.	Int J Cardiol. 2025 Jan 15 ; 419:132686.	Original Article
144	Sato H, Noda T, Ito T, et al	循環器内科	Optimizing Patient Selection for Cardiac Resynchronization Therapy With or Without Defibrillator in a Multicenter Study of Japanese Patients—a Assessment of the MADIT–ICD Benefit Score.	Circ J. 2025 Jan 24 ; 89(2):224–233.	Original Article
145	Yamamoto N, Nakano M, Nochioka K, et al	循環器内科	Ocular blood flow dynamics following sinus rhythm restoration through catheter ablation: laser speckle flowgraphy in patients with persistent atrial fibrillation.	Eur Heart J Imaging Methods Pract. 2024 Aug 8 ; 2(3):qyae071. (オンライン)	Original Article

146	Takahama H, Kitai T, Nakagawa S, et al	循環器内科	Rationale and Design of a Multicenter Trial on Exploratory Analysis of the Effects of Advance Care Planning Guided by the Prediction Program of Heart Failure Prognosis on Quality of Life in Patients With Heart Failure- ACQUAINT-Trial	Circ Rep. 2024 Jun 8 ; 6(7):276-280. (オンライン)	Original Article
147	Onuma S, Takahashi J, Shiroto T, et al	循環器内科	Characteristics and In-Hospital Outcomes of Patients With Myocardial Infarction With Non-Obstructive Coronary Arteries- Insights From the Real-World JAMIR Database.	Circ J. 2025 Feb 25 ; 89(3):382-390.	Original Article
148	Hasebe Y, Noda T, Nakano M, et al	循環器内科	Impact of fat on the left atrial roof identified using intracardiac echocardiography during pulmonary vein isolation procedures.	Heart Rhythm O2. 2024 Nov 9 ; 6(1):3-10. (オンライン)	Original Article
149	Nochioka K, Yasuda S, Shiroto T, et al	循環器内科	The outcomes of electronic personal health records in patients with heart failure or coronary artery disease.	ESC Heart Fail. 2025 Apr ; 12(2):1464-1468.	Original Article
150	Ito T, Noda T, Nochioka K, et al	循環器内科	Clinical impact of atrial fibrillation progression in patients with heart failure with preserved ejection fraction: A report from the CHART-2 Study.	Europace. 2024 Aug 30 ; 26(9):euae218.	Original Article
151	Hao K, Takahashi J, Sato K, et al	循環器内科	Clinical Characteristics and Outcome of Patients With Myocardial Infarction With Nonobstructive Coronary Arteries in Japan: Insights From the Miyagi Acute Myocardial Infarction Registry Study.	J Am Heart Assoc. 2025 Mar 4 ; 14(5):e036802.	Original Article
152	Arai M, Kataoka Y, Tsukamoto Y, et al	循環器内科	Giant cell myocarditis attributable to myositis: therapeutic management under the guidance of serial endomyocardial biopsy-a case report	Eur Heart J Case Rep. 2024 Jul 10 ; 8(7):ytae326. (オンライン)	Case Report
153	Godo S, Takagi H, Komaru K, et al	循環器内科	A case report of refractory multivessel coronary spasm associated with hypereosinophilic syndrome: one cell, one disease?	Eur Heart J Case Rep. 2024 May 15 ; 8(5):ytae247. (オンライン)	Case Report
154	Noda T, Nochioka K, Kaikita K, et al	循環器内科	Antithrombotic therapy for stable coronary artery disease and atrial fibrillation in patients with and without revascularisation: the AFIRE trial.	EuroIntervention. 2024 Apr 1 ; 20(7):e425-e435. (オンライン)	Original Article

155	Suzuki H, Inoue T, Terui Y, et al	循環器内科	Evaluating haemodynamic changes: vericiguat in patients with heart failure with reduced ejection fraction.	ESC Heart Fail. 2024 Aug ; 11(4):2451-2454.	Original Article
156	Shindo T, Eguchi K, Monma Y, et al	循環器内科	Optimal treatment conditions for low-intensity pulsed ultrasound therapy for Alzheimer's disease: applications from mice to	J Med Ultrason (2001). 2024 Jul ; 51(3):419-427.	Original Article
157	Satoh T, Yaoita N, Higuchi S, et al	循環器内科	Impact of Sodium-Glucose Co-Transporter-2 Inhibitors on Exercise-Induced Pulmonary Hypertension.	Pulm Circ. 2024 Dec 15 ; 14(4):e70026. (オンライン)	Original Article
158	Arai M, Nakashima T, Noguchi T, et al	循環器内科	Association Between Cannula Size of Extracorporeal Membrane Oxygenation and Prognosis in Patients With Out-of-Hospital Cardiac Arrest- A Secondary Analysis of the SAVE-J II Study.	Circ J. 2025 Jan 25.	Original Article
159	Arai M, Asaumi Y, Honda S, et al	循環器内科	Association between left ventricular reverse remodelling and the B-type natriuretic peptide-cGMP cascade after anterior acute myocardial infarction.	Open Heart. 2025 Jan 11 ; 12(1):e002927. (オンライン)	Original Article
160	Shimokawa H, Akishita M, Ihara M, et al	循環器内科	Pivotal trial of low-intensity pulsed ultrasound therapy for early Alzheimer's disease: Rationale and design.	J Alzheimers Dis Rep. 2025 Jan 13 ; 9:25424823241312108. (オンライン)	Original Article
161	Nakata T, Kudo D, Kudo Y, et al	循環器内科	Effects of hybrid emergency department on extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients.	Resusc Plus. 2024 Sep 5 ; 20:100764. (オンライン)	Original Article
162	Ono Y, Fujino N, Saito T, et al	呼吸器内科	Characterization of IL-6R-expressing monocytes in the lung of patients with chronic obstructive pulmonary disease.	Respir Investig. 2024 Sep ; 62(5):856-866.	Original Article
163	Yamaya M, Watanabe O, Kitai Y, et al	呼吸器内科	Detection of Human Coronavirus-OC43 in Nasopharyngeal Swab Specimens Via Immunofluorescence Staining Using Human Serum and an Anti-human Antibody.	Jpn J Infect Dis. 2025 Mar 21 ; 78(2):91-98.	Original Article
164	Narita D, Hishinuma E, Ebina-Shibuya R, et al	呼吸器内科	Histological and genetic features and therapeutic responses of lung cancers explored via the global analysis of their metabolome profile.	Lung Cancer. 2025 Feb ; 200:108082.	Original Article

165	Tsukita Y, Umezawa R, Nakagawa T, et al	呼吸器内科	Phase 2 Trial of Combination Radiotherapy and Pembrolizumab Plus Chemotherapy in Patients With Previously Untreated Metastatic NSCLC: NJLGG 1902	JTO Clin Res Rep. 2025 Feb 28 ; 6(5):100817. (オンライン)	Original Article
166	Ono Y, Tode N, Yamamoto Y, et al	呼吸器内科	Hermansky-Pudlak Syndrome with an Improvement in the Respiratory Symptoms after the Administration of Pirfenidone.	Intern Med. 2024 Dec 15 ; 63(24):3353-3358.	Case Report
167	Tsukita Y, Taguri M, Goto Y, et al	呼吸器内科	Multi-institutional study of osimertinib dose-optimization in non-small cell lung cancer patients with EGFR activating mutation aged 70A?years or older ('MONEY' trial).	Jpn J Clin Oncol. 2024 Jun 1 ; 54(6):730-734.	Original Article
168	Yamada M, Takase M, Nakaya K, et al	呼吸器内科	Fractional exhaled nitric oxide distribution and its relevant factors in the general adult population and its healthy subpopulation.	J Allergy Clin Immunol Glob. 2024 Apr 8 ; 3(3):100253. (オンライン)	Original Article
169	Miyauchi E, Nishio M, Ohashi K, et al	呼吸器内科	J-TAIL-2: A Prospective, Observational Study of Atezolizumab Combined With Carboplatin and Etoposide in Patients With Extensive-Stage SCLC in Japan.	JTO Clin Res Rep. 2024 Dec 18 ; 6(3):100783. (オンライン)	Original Article
170	Yoshida Y, Takahashi M, Taniguchi S, et al	腫瘍内科	Tretinoin synergistically enhances the antitumor effect of combined BRAF, MEK, and EGFR inhibition in BRAF(V600E) colorectal cancer.	Cancer Sci. 2024 Nov ; 115(11):3740-3754.	Original Article
171	Yoshida Y, Takahashi M, Komine K, et al	腫瘍内科	Correlation between Efficacy and Cardiovascular Adverse Events in Patients with Advanced Solid Cancer Who Received VEGF Pathway Inhibitors: Hypertension within the First Eight Weeks Is Associated with Favorable Outcomes of Patients Treated with VEGF Path	Intern Med. 2025 Jan 15 ; 64(2):177-185.	Original Article
172	Iwasaki T, Takahashi M, Ouchi K, et al	腫瘍内科	Outcomes of Chemotherapy for Advanced Esophageal Squamous Cell Carcinoma: A Study Using Real-World Data.	Tohoku J Exp Med. 2025 Feb 13.	Original Article
173	Abe T, Morisaki K, Niihori T, et al	遺伝科	Dysregulation of RAS proteostasis by autosomal-dominant LZTR1 mutation induces Noonan syndrome-like phenotypes in mice.	JCI Insight. 2024 Nov 22 ; 9(22):e182382. (オンライン)	Original Article

174	Mikami-Saito Y, Wada Y, Arai-Ichinoi N, et al	小児科	Phenotypic and genetic spectra of galactose mutarotase deficiency: A nationwide survey conducted in Japan.	Genet Med. 2024 Aug ; 26(8):101165.	Original Article
175	Sato D, Kirikae H, Nakano T, et al	小児科	Comprehensive genetic analysis for identification of monogenic disorders and selection of appropriate treatments in pediatric patients with persistent thrombocytopenia.	Pediatr Hematol Oncol. 2024 Nov ; 41(8):541-556.	Original Article
176	Suzuki D, Shima H, Kawashima S, et al	小児科	Trends in endogenous insulin secretion capacity and anti-islet autoantibody titers in two childhood-onset slowly progressive insulin-dependent diabetes mellitus cases.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024 Oct ; 33(4):238-243.	Case Report
177	Saijo N, Yaoita H, Takayama J, et al	小児科	A Prevalent TMEM260 Deletion Causes Conotruncal Heart Defects, Including Truncus Arteriosus.	Am J Med Genet A. 2025 Mar ; 197(3):e63906.	Case Report
178	Kanno J, Nakagawa T, Miura A, et al	小児科	Effects of enzyme replacement therapy in sibling cases of hypophosphatasia of varying severities.	Clin Pediatr Endocrinol. 2025 Apr ; 34(2):137-143.	Case Report
179	Mikami-Saito Y, Maekawa M, Watanabe M, et al	小児科	Carnitine Deficiency Caused by Salcaproic Acid Sodium Contained in Oral Semaglutide in a Patient with Multiple Acyl-CoA Dehydrogenase Deficiency.	Int J Mol Sci. 2025 Mar 25 ; 26(7):2962. (オンライン)	Case Report
180	Kanno J, Miura A, Kawashima S, et al	小児科	A case of 49,XXXYY followed-up from infancy to adulthood with review of literature.	Endocr J. 2024 Jul 12 ; 71(7):721-727.	Case Report
181	Kawashima S, Sogi C, Kamimura M, et al	小児科	Severe growth retardation during carbohydrate restriction in type 1 diabetes mellitus: A case report.	Clin Pediatr Endocrinol. 2024 (July) ; 33(3):181-186.	Case Report
182	Shima H, Miura A, Kawashima S, et al	小児科	Solitary median maxillary central incisor syndrome caused by 22q11.2 microdeletion.	Clin Pediatr Endocrinol. 2025 Jan ; 34(1):54-59.	Case Report
183	Kudo H, Kazama T, Fukuzawa T, et al	小児外科	Utility of the web excision with pre-membranous incision for congenital intestinal atresia-type I and stenosis.	BMC Pediatr. 2024 Jul 15 ; 24(1):454. (オンライン)	Original Article

184	Karumai-Mori H, Hamada H, Iwama N, et al	産科	Impact of maternal smoking and secondhand smoke exposure during singleton pregnancy on placental abruption: analysis of a prospective cohort study (the Japan Environment and Children's Study).	BMJ Open. 2025 Mar 4 ; 15(3):e089499. (オンライン)	Original Article
185	Miyahara S, Ohuchi M, Nomura M, et al	産科	FDX2, an iron-sulfur cluster assembly factor, is essential to prevent cellular senescence, apoptosis or ferroptosis of ovarian cancer cells.	J Biol Chem. 2024 Sep ; 300(9):107678.	Original Article
186	Izumi S, Iwama N, Hamada H, et al	産科	Associations of fasting plasma glucose and glycosylated hemoglobin levels at less than 24 weeks of gestation with hypertensive disorders of pregnancy: the BOSHI study.	Endocr J. 2024 Oct 1 ; 71(10):979-993.	Original Article
187	Kudo R, Iwama N, Hamada H, et al	産科	Maternal birth weight is an indicator of preterm delivery: the Japan environment and children's study.	J Dev Orig Health Dis. 2024 May 22 ; 15:e11. (オンライン)	Original Article
188	Akaishi M, Tarasawa K, Hamada H, et al	産科	Risk Assessment of Critical Obstetric Bleeding With Low-Molecular-Weight Heparin.	Cureus. 2024 May 8 ; 16(5):e59933. (オンライン)	Original Article
189	Tagami K, Iwama N, Hamada H, et al	産科	Advanced maternal age is a risk factor for both early and late gestational diabetes mellitus: The Japan Environment and Children's Study.	J Diabetes Investig. 2025 Apr ; 16(4):735-743.	Original Article
190	Izumi S, Nishimura M, Iwama N, et al	産科	Pregnancy and Postpartum Trends in Self-Measured Blood Pressure and Derived Indices: The BOSHI Study.	J Clin Hypertens (Greenwich). 2025 Jan ; 27(1):e14949.	Original Article
191	Yamazaki A, Tada H, Muroyama Y, et al	総合外科	Surgical and irradiated case of early breast cancer in a patient with Ehlers-Danlos syndrome.	Surg Case Rep. 2024 Aug 23 ; 10(1):195. (オンライン)	Original Article
192	Tada H, Miyashita M, Harada-Shoji N, et al	総合外科	Clinicopathogenomic analysis of PI3K/AKT/PTEN-altered luminal metastatic breast cancer in Japan.	Breast Cancer. 2025 Jan ; 32(1):208-216.	Original Article
193	Motonari T, Yoshino Y, Haruta M, et al	総合外科	Evaluating homologous recombination activity in tissues to predict the risk of hereditary breast and ovarian cancer and olaparib sensitivity.	Sci Rep. 2024 Apr 8 ; 14(1):7519. (オンライン)	Original Article

194	Onoki T, Kanczler J, Rawlings A, et al	整形外科	Modulation of osteoblastogenesis by NRF2: NRF2 activation suppresses osteogenic differentiation and enhances mineralization in human bone marrow-derived mesenchymal stromal cells.	FASEB J. 2024 Sep 15 ; 38(17):e23892.	Original Article
195	Izumiyama T, Mori Y, Kanabuchi R, et al	整形外科	Elucidation of factors influencing spinal ankylosis in patients with axial spondyloarthritis.	Mod Rheumatol. 2025 Feb 21 ; 35(2):366-370.	Original Article
196	Yabe Y, Ishikawa K, Kurosawa D, et al	整形外科	Buckling of the Ligamentum Flavum in Patients with Lumbar Spinal Canal Stenosis.	Spine (Phila Pa 1976). 2024 Sep 1 ; 49(17):E284-E290.	Original Article
197	Mori Y, Mori N	整形外科	Advancing osteoporosis diagnosis and fracture prediction: role of quantitative CT and future research directions.	Arch Orthop Trauma Surg. 2024 Aug ; 144(8):3895-3896.	Original Article
198	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Rheumatoid arthritis increases complication risks in elderly hip fracture patients: A Japanese nationwide medical claims database study.	Mod Rheumatol. 2025 Feb 21 ; 35(2):287-293.	Original Article
199	Tanaka H, Tarasawa K, Mori Y, et al	整形外科	Surgery within Two Days of Admission Reduces Complications and Mortality of Patients with Trochanteric Femur Fractures: A Japanese DPC Study.	Tohoku J Exp Med. 2025 Apr 18 ; 265(4):211-219.	Original Article
200	Koyama T, Mori Y, Utsumi S, et al	整形外科	Total Knee Arthroplasty in Patients With Ankle Osteoarthritis Affects Contralateral Ankle Alignment and Postoperative Outcome of Total Knee Arthroplasty.	Foot Ankle Int. 2024 Dec ; 45(12):1364-1371.	Original Article
201	Yabe Y, Ishikawa K, Kurosawa D, et al	整形外科	Destructive spondyloarthropathy of the lumbar spine in patients on long-term haemodialysis: a computed tomography-based study	Eur Spine J. 2025 Jan ; 34(1):43-49.	Original Article
202	Yabe Y, Hagiwara Y, Sekiguchi T, et al	整形外科	Association Between Sleep Disturbance and Low Back Pain: A 3-year Longitudinal Study After the Great East Japan Earthquake.	Spine (Phila Pa 1976). 2025 Jan 1 ; 50(1):E21.	Original Article
203	Koyama T, Mori Y, Kamimura M, et al	整形外科	TiNbSn alloy plates with low Young's modulus modulates interfragmentary movement and promote osteosynthesis in rat femur.	J Mech Behav Biomed Mater. 2025 Jan ; 161:106820.	Original Article

204	Harada K, Mori Y, Kamimura M, et al	整形外科	Impact of Aging and Knee Osteoarthritis on Lower Limb Alignment and CPAK Classification: Gender Differences in a Japanese Cohort.	J Clin Med. 2024 Oct 19 ; 13(20):6250. (オンライン)	Original Article
205	Chiba M, Mori Y, Kanabuchi R, et al	整形外科	Case Report: SAPHO Syndrome With Refractory Shoulder Pain and Severe Acne.	Int J Rheum Dis. 2024 Dec ; 27(12):e15441.	Letter
206	Mori Y, Mori N	整形外科	Perspectives on MRI sequences and clustering techniques in predicting osteosarcoma treatment response.	Radiol Med. 2025 Mar 21.	Letter
207	Kawakami J, Yamamoto N, Arino A, et al	整形外科	Changes in the Articular Cartilage Thickness in Patients with Symptomatic Rotator Cuff Tears: A Prospective Study with a Mean 5-Year Follow-Up.	J Clin Med. 2024 Sep 6 ; 13(17):5294. (オンライン)	Original Article
208	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Nationwide database study of postoperative sequelae and in-hospital mortality in super-elderly hip fracture patients.	J Bone Miner Metab. 2025 Mar ; 43(2):141-148.	Original Article
209	Kanabuchi R, Hamai R, Mori Y, et al	整形外科	Enhanced osteogenic capacity of octacalcium phosphate involving adsorption of stromal-derived factor-1 in a standardized defect of a rat femur.	J Mater Sci Mater Med. 2025 Feb 28 ; 36(1):23. (オンライン)	Original Article
210	Kanabuchi R, Mori Y, Hatakeyama H, et al	整形外科	Case Report: A Diagnostic Challenge in Adult-Onset Hypophosphatasia With Persistent Polyarthralgia.	Int J Rheum Dis. 2025 Feb ; 28(2):e70136.	Letter
211	Kimura R, Hashimoto K, Takahashi K, et al	整形外科	The dural deviation ratio: a novel indicator for preoperative differentiation of intradural extension in spinal dumbbell schwannomas using Axial T2-weighted MRI.	Spine J. 2025 Feb 22:S1529-9430(25)00097-X.	Original Article
212	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Increased early complication rates following total hip arthroplasty in rheumatoid arthritis patients based on a Japanese nationwide medical claims database study.	Sci Rep. 2025 Mar 17 ; 15(1):9137. (オンライン)	Original Article
213	Mori Y, Mori N, Izumiyama T, et al	整形外科	MRI-Based Predictors of Spinal Ankylosis Progression: ESSR Framework for Axial Spondyloarthritis.	Mod Rheumatol. 2025 Mar 6:roaf015.	Original Article

214	Takahashi K, Latt MM, Tsubakino T, et al	整形外科	A novel, easy-to-use scoring system for the diagnosis of extraforaminal stenosis of lumbosacral transition using X-ray and CT scan.	J Orthop Sci. 2025 Mar 24:S0949-2658(25)00073-9.	Original Article
215	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Surgery on admission and following day reduces hip fracture complications: a Japanese DPC study.	J Bone Miner Metab. 2024 Sep ; 42(5):608-615.	Original Article
216	Hatta T, Mashiko R, Kawakami J, et al	整形外科	Evolution of Stemless Reverse Shoulder Arthroplasty: Current Indications, Outcomes, and Future Prospects.	J Clin Med. 2024 Jun 28 ; 13(13):3813. (オンライン)	Original Article
217	Baba K, Takahashi K, Hashimoto K, et al	整形外科	Harmony between spinopelvic mismatch and sagittal hip alignment contributes to upright standing in females: a cross-sectional study.	J Spine Surg. 2024 Jun 21 ; 10(2):244-254.	Original Article
218	Mori Y, Mori N	整形外科	Selection of the phase of dynamic contrast-enhanced magnetic resonance imaging and use of the voxel-based enhancement maps may facilitate the assessment of clinical disease activity in patients with rheumatoid	Jpn J Radiol. 2025 Jan ; 43(1):138-139.	Letter
219	Mori Y, Mori N	整形外科	Letter to the Editor from Mori and Mori: "Sequential Therapy for the Long-Term Treatment of Postmenopausal Osteoporosis".	J Clin Endocrinol Metab. 2024 Jun 17 ; 109(7):e1557.	Letter
220	Mori Y, Izumiyama T, Okuno H, et al	整形外科	Assessment of clinical and radiological characteristics of Japanese patients with synovitis, acne, pustulosis, hyperostosis, and osteitis syndrome.	Mod Rheumatol. 2024 Jul 6 ; 34(4):806-812.	Original Article
221	Iwatsu J, Yoshida S, Watanuki M, et al	整形外科	Clinical characteristics and prognosis of patients with incidentally discovered chest wall sarcoma compared with those of symptomatic patients.	Jpn J Clin Oncol. 2024 Aug 14 ; 54(8):911-916.	Original Article
222	Kuriyama Y, Tanaka H, Baba K, et al	整形外科	Acetabular coverage exerts minimal influence on femoral head collapse and the necessity for surgical intervention in patients with osteonecrosis of femoral head.	Int Orthop. 2024 Sep ; 48(9):2331-2337.	Original Article

223	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Does total hip arthroplasty in elderly patients with femoral neck fractures reduce complications? A Japanese DPC study.	J Orthop Sci. 2025 May ; 30(3):507-512.	Original Article
224	Mori Y, Hamai R, Kanabuchi R, et al	整形外科	Efficacy of Octacalcium Phosphate/Gelatin (OCP/Gel) Composite Implantation for Miniature Swine Lumbar Interbody Fusion.	Tohoku J Exp Med. 2024 Nov 28.	Original Article
225	Mori Y, Ren H, Mori N, et al	整形外科	Magnetic Resonance Imaging Texture Analysis Based on Intraosseous and Extraosseous Lesions to Predict Prognosis in Patients with Osteosarcoma.	Diagnostics (Basel). 2024 Nov 15 ; 14(22):2562. (オンライン)	Original Article
226	Mori Y, Tarasawa K, Tanaka H, et al	整形外科	Limited impact of weekend admissions on hip fracture outcomes in elderly patients: A study from a Japanese nationwide medical claims database.	Geriatr Gerontol Int. 2025 Jan ; 25(1):75-81.	Original Article
227	Ishidu N, Yamamoto N, Sato H, et al	整形外科	Floating Inferior Glenohumeral Ligament: A Case Report.	Cureus. 2024 Oct 10 ; 16(10):e71189. (オンライン)	Case Report
228	Kusakabe J, Suzuki K, Hosaka M	整形外科	A Rare Case of the Ipsilateral Paraspinal Muscle Abscess Communicating with a Psoas Major Abscess: A Case Report.	J Orthop Case Rep. 2025 Jan ; 15(1):150-154.	Case Report
229	Tanaka H, Tarasawa K, Mori Y, et al	整形外科	Does Osteonecrosis of the Femoral Head Increase Early Complication Rates After Total Hip Arthroplasty? A Japanese Nationwide Medical Claims Database Study.	J Arthroplasty. 2025 Jan 22:S0883-5403(25)00044-0.	Original Article
230	Mahasupachai N, Yamamoto N, Arino A, et al	整形外科	Which muscle is the external rotation compensator after superior capsular reconstruction?	JSES Int. 2024 Sep 27 ; 9(1):123-129. (オンライン)	Original Article
231	Kanabuchi R, Mori Y, Baba K, et al	整形外科	Preoperative Osteoporosis Treatment Reduces Stress Shielding in Total Hip Arthroplasty.	Med Sci (Basel). 2025 Jan 28 ; 13(1):10. (オンライン)	Original Article
232	Takahashi M, Kushida Y, Kuroda Y, et al	心臓血管外科	Structural reconstruction of mouse acute aortic dissection by intravenously administered human Muse cells without immunosuppression.	Commun Med (Lond). 2024 Sep 9 ; 4(1):174. (オンライン)	Original Article
233	Katahira S, Barth M, DApp R, et al	心臓血管外科	Pioglitazone treatment mitigates cardiovascular bioprosthetic degeneration in a chronic kidney disease model.	Front Pharmacol. 2024 Aug 8 ; 15:1412169. (オンライン)	Original Article

234	Yuda K, Katahira S, Masaki N, et al	心臓血管外科	Re-ballooning of sealing frame for intraoperative paravalvular leak during rapid deployment aortic valve replacement: a report of two cases.	Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2025 Mar 10 ; 4(1):13. (オンライン)	Original Article
235	Koyama J, Yamashita S, Kakimoto K, et al	泌尿器科	Comorbidities in Japanese testicular cancer survivors: A multi-institutional, cross-sectional study.	Int J Urol. 2025 Feb ; 32(2):198-202.	Original Article
236	Sato T, Sano T, Adachi H, et al	泌尿器科	Assessment of Clinicopathological Characteristics and Clinical Outcomes of Patients Who Developed Non-Muscle-Invasive Bladder Cancer After Radiotherapy for Prostate Cancer: A Retrospective	Tohoku J Exp Med. 2025 May 21 ; 266(1):37-46.	Original Article
237	Suzuki T, Sato T, Sukhbaatar A, et al	泌尿器科	Ultrasound irradiation in the presence of microbubbles may enhance the antitumor effect of chemotherapeutic agents against bladder cancer.	J Cancer. 2025 Jan 1 ; 16(2):368-381. (オンライン)	Original Article
238	Onishi E, Wagatsuma T, Yabuki S, et al	麻酔科	Surgical Video Projection onto a Mannequin: An Educational Tool for Simulation Practice of Perioperative Anesthetic Management.	Tohoku J Exp Med. 2024 Jun 26 ; 263(2):81-87.	Original Article
239	Takei Y, Yamada M, Saito K, et al	麻酔科	Endothelium-Derived Extracellular Vesicles Expressing Intercellular Adhesion Molecules Reflect Endothelial Permeability and Sepsis Severity.	Anesth Analg. 2024 Aug 1 ; 139(2):385-396.	Original Article
240	Yabuki S, Kaiho Y, Tarasawa K, et al	麻酔科	Exploring the impact of perioperative analgesia on postoperative chronic analgesic prescriptions in patients with lung cancer undergoing minimally invasive thoracic surgery: A retrospective observational study	Eur J Pain. 2025 Feb ; 29(2):e4774.	Original Article
241	Ikari T, Hiratsuka Y, Oishi T, et al	緩和医療科	Preferred and Actual Places of Death Among Patients with Advanced Cancer: A Single-centre Cohort Study in Japan.	Indian J Palliat Care. 2024 Jul-Sep ; 30(3):268-274.	Original Article
242	Hiratsuka Y, Suh SY, Yoon SJ, et al	緩和医療科	Factors related to accurate clinicians' prediction of survival: an international multicenter study in East Asia.	Support Care Cancer. 2024 Jul 6 ; 32(7):490. (オンライン)	Original Article

243	Hiratsuka Y, Suh SY, Yoon SJ, et al	緩和医療科	Validation of Modified Objective Prognostic Score in Patients with Advanced Cancer in Taiwan.	Palliat Med Rep. 2024 Sep 30 ; 5(1):408-416. (オンライン)	Original Article
244	Hiratsuka Y, Nakazawa Y, Miyashita M, et al	緩和医療科	Impact of Diagnosis Nondisclosure on Quality of Dying in Cancer Patients: A Bereavement Study.	J Pain Symptom Manage. 2025 Feb ; 69(2):196-203.	Original Article
245	Yusa Y, Shimizu Y, Hayashi M, et al	形成外科	Effect of hematoma on early degradation behavior of magnesium after implantation.	Biomed Mater. 2024 Aug 27 ; 19(5). (オンライン)	Original Article
246	Kurosawa K, Sato N, Ohkoshi A, et al	形成外科	Multiple Buttresses Reconstruction of Maxilla with Fibular Flap Using Computer-aided Design/Computer-aided Manufacturing after Maxillectomy.	Plast Reconstr Surg Glob Open. 2024 Jun 18 ; 12(6):e5914. (オンライン)	Original Article
247	Kaneko K, Kuroda H, Matsumoto Y, et al	脳神経内科	Different Complement Activation Patterns Following C5 Cleavage in MOGAD and AQP4-IgG+NMOSD.	Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm. 2024 Sep ; 11(5):e200293.	Original Article
248	Namatame C, Abe Y, Miyasaka Y, et al	脳神経内科	Humanized-Aquaporin-4-Expressing Rat Created by Gene-Editing Technology and Its Use to Clarify the Pathology of Neuromyelitis Optica Spectrum Disorder.	Int J Mol Sci. 2024 Jul 26 ; 25(15):8169. (オンライン)	Original Article
249	Akaishi T, Fujimori J, Yokote H, et al	脳神経内科	Continuous diffuse brain atrophy independent of relapse as a hallmark of multiple sclerosis beginning from relapsing-remitting stage.	Clin Neurol Neurosurg. 2024 Jul ; 242:108342.	Original Article
250	Sakamoto N, Izumi R, Suzuki N, et al	脳神経内科	Clinicopathological Features of Mixed Connective Tissue Disease-Related Myositis: A Case Series.	Muscle Nerve. 2025 Apr ; 71(4):583-592.	Original Article
251	Suzuki N, Mori-Yoshimura M, Katsuno M, et al	脳神経内科	Safety and efficacy of aceneuramic acid in GNE myopathy: open-label extension study.	J Neurol Neurosurg Psychiatry. 2024 Oct 16 ; 95(11):1093-1094. (オンライン)	Letter
252	Sugeno N, Kumada S, Kashii H, et al	脳神経内科	Reduced histone H3K4 trimethylation in oral mucosa of patients with DYT-KMT2B.	Parkinsonism Relat Disord. 2024 Jul ; 124:107018.	Original Article
253	Yamazaki N, Misu T, Matsumoto Y, et al	脳神経内科	The real-world impact of biologics for NMOSD: A retrospective single-center study compared with natural course and conventional treatments in Japanese.	Mult Scler Relat Disord. 2024 Dec ; 92:106176.	Original Article

254	Kanno S, Liu J, Kawamura A, et al	脳神経内科	The utility of customised tissue probability maps and templates for patients with idiopathic normal pressure hydrocephalus: a computational anatomy toolbox (CAT12) study.	Fluids Barriers CNS. 2024 Dec 30 ; 21(1):108. (オンライン)	Original Article
255	Kikuchi A	脳神経内科	Finger deformities in Parkinson disease.	CMAJ. 2025 Mar 10 ; 197(9):E245–E246. (オンライン)	Original Article
256	Nishiyama A, Niihori T, Suzuki N, et al	脳神経内科	Updated Genetic Analysis of Japanese Familial ALS Patients Carrying SOD1 Variants Revealed Phenotypic Differences for Common Variants	Neurol Genet. 2024 Oct 31 ; 10(6):e200196. (オンライン)	Original Article
257	Ando D, Rashad S, Begley TJ, et al	脳神経内科	Decoding Codon Bias: The Role of tRNA Modifications in Tissue-Specific Translation.	Int J Mol Sci. 2025 Jan 15 ; 26(2):706. (オンライン)	Original Article
258	Suzuki N, Kanzaki M, Koide M, et al	機能医科学講座(臨床障害学分野)(臨床)	Sporadic inclusion body myositis-derived myotube culture revealed muscle cell-autonomous expression profiles.	PLoS One. 2024 Aug 1 ; 19(8):e0306021. (オンライン)	Original Article
259	Suzuki N, Mori-Yoshimura M, Nishino I, et al	脳神経内科	Ultra-Orphan drug development for GNE Myopathy: A synthetic literature review and meta-analysis.	J Neuromuscul Dis. 2025 Mar ; 12(2):183–194.	Original Article
260	Yoshida S, Hasegawa T, Nakamura T, et al	脳神経内科	Dysregulation of SNX1-retromer axis in pharmacogenetic models of Parkinson's disease.	Cell Death Discov. 2024 Jun 17 ; 10(1):290. (オンライン)	Original Article
261	Sato Y, Li Y, Kato Y, et al	脳神経外科	Type 2 diabetes remodels collateral circulation and promotes leukocyte adhesion following ischemic stroke.	bioRxiv [Preprint]. 2024 Oct 23:2024.10.23.619748. (オンライン)	Original Article
262	Shimoda Y, Kanamori M, Yamashita S, et al	脳神経外科	Residual Pattern of the Hyperintense Area on T2-Weighted Magnetic Resonance Imaging After Initial Treatment Predicts the Pattern and Location of Recurrence in Patients with Newly Diagnosed Glioblastoma	World Neurosurg. 2025 Jan ; 193:517–532.	Original Article
263	Kanamori M, Shibahara I, Shimoda Y, et al	脳神経外科	Efficacy and safety of carmustine wafers, followed by radiation, temozolomide, and bevacizumab therapy, for newly diagnosed glioblastoma with maximal resection.	Int J Clin Oncol. 2025 Jan ; 30(1):51–61.	Original Article

264	Kanamori M, Mugikura S, Iizuka O, et al	脳神経外科	Clinical significance of cerebral microbleeds in patients with germinoma who underwent long-term follow-up.	J Neurooncol. 2024 Oct ; 170(1):173-184.	Original Article
265	Omodaka S, Sugiyama SI, Sakata H, et al	脳神経外科	Aneurysm Wall Enhancement Can Predict Rupture Point in Intracranial Aneurysms With Multiple Blebs.	Neurosurgery. 2025 Mar 1 ; 96(3):593-599.	Original Article
266	Sakaji K, Omodaka S, Kanamori M, et al	脳神経外科	Vestibular paroxysmia caused by a subarcuate artery: illustrative case.	J Neurosurg Case Lessons. 2024 Sep 2 ; 8(10):CASE24239. (オンライン)	Original Article
267	Kato Y, Aburakawa D, Tashiro R, et al	脳神経外科	Intravenous administration of muse cells improves cerebral ischemia outcome via immunomodulation in the spleen.	J Cereb Blood Flow Metab. 2025 Mar ; 45(3):542-557.	Original Article
268	Nagai A, Kobayashi T, Kurosawa K, et al	脳神経外科	A Case of Hanging with Limited Specific Postmortem Brain Imaging.	NMC Case Rep J. 2024 Aug 30 ; 11:249-255. (オンライン)	Case Report
269	Saito R, Kanamori M, Arakawa Y, et al	脳神経外科	A Multicenter Phase II Trial of Nimustine Hydrochloride Administered via Convection-Enhanced Delivery in Children With DIPG.	Cancer Sci. 2025 Mar 27.	Original Article
270	Osawa SI, Suzuki K, Ukishiro K, et al	脳神経外科	Super-selective injection of propofol into the intracranial arteries enables Patient's self-evaluation of expected neurological deficit.	Cortex. 2024 Jul ; 176:209-220.	Original Article
271	Endo T, Takahashi Y, Nishizawa T, et al	脳神経外科	First-in-Human Trial of Photodynamic Therapy for Spinal Cord Malignant Astrocytoma: Study Protocol.	Neurospine. 2024 Dec ; 21(4):1276-1282.	Original Article
272	Shimoda Y, Shibahara I, Kanamori M, et al	脳神経外科	Clinical Effect of Ventricular Entry During Resection of Isocitrate Dehydrogenase-Wildtype Glioblastoma: A Multi-Institutional Analysis.	World Neurosurg. 2025 Mar ; 195:123643.	Original Article
273	Ozaki D, Kimiwada T, Hayashi T, et al	脳神経外科	Effect of early tethered cord release on urodynamic findings and lower urinary tract function in myelomeningocele patients.	J Neurosurg Pediatr. 2024 Nov 1 ; 35(2):137-143. (オンライン)	Original Article
274	Nagai A, Sonobe S, Niizuma K, et al	脳神経外科	Multifactorial Assessment of Complication Risks in Embolization for Ruptured Cerebral Aneurysm.	J Neuroendovasc Ther. 2025 (February); 19(1):2024-0095.	Original Article

275	Niizuma K, Nishimura N, Hasegawa K, et al	脳神経外科	Anti-Inflammatory Thrombolytic JX10 (TMS-007) in Late Presentation of Acute Ischemic Stroke.	Stroke. 2024 Dec ; 55(12):2786-2794.	Original Article
276	Kanno H, Hiramatsu K, Mikami H, et al	脳神経外科	High-throughput fluorescence lifetime imaging flow cytometry.	Nat Commun. 2024 Sep 4 ; 15(1):7376. (オンライン)	Original Article
277	Kikuchi Y, Kurosawa M, Sakata M, et al	精神科	Effects of titration speed, gender, obesity and concomitant medications on the risk and onset time of clozapine-associated fever among Japanese patients with schizophrenia: retrospective review of charts from 21	Br J Psychiatry. 2024 Nov ; 225(5):492-498.	Original Article
278	Kikuchi Y, Komatsu H, Tomita H	精神科	Antipsychotic Monotherapy vs Polytherapy for Pneumonia Risk.	JAMA Psychiatry. 2024 Dec 1 ; 81(12):1277-1278.	Original Article
279	Kikuchi Y	精神科	The Higher Dose-Adjusted Clozapine Concentrations in Non-Smokers With High CRP Levels May Be Associated With the Lower Daily Doses of Clozapine.	Acta Psychiatr Scand. 2025 Mar 30.	Letter
280	Kikuchi Y, Ueno S, Onodera B, et al	精神科	COVID-19 outbreak in a ward led three patients to discontinue clozapine due to neutropenia: Call for urgent considerations regarding clozapine regulation in Japan.	Schizophr Res. 2025 Feb ; 276:194-195.	Letter
281	Kikuchi Y	精神科	Clozapine, relapse and adverse events: 10-year electronic cohort study in Canada: commentary, Kikuchi.	Br J Psychiatry. 2025 Jan ; 226(1):53-54.	Original Article
282	Takahashi Y, Idei H, Komatsu M, et al	精神科	Digital twin brain simulator for real-time consciousness monitoring and virtual intervention using primate electrocorticogram data.	NPJ Digit Med. 2025 Feb 10 ; 8(1):80. (オンライン)	Original Article
283	Kikuchi Y, Otsuka Y, Ito F, et al	精神科	Relationship Between Clozapine-Induced Inflammation and Eosinophilia: A Retrospective Cohort Study.	Schizophr Bull. 2024 Dec 16:sbae213.	Original Article
284	Kikuchi Y	精神科	Need to consider exact trough time: Comment on "Daily dosing frequency as a determinant of clozapine concentration-to-dose ratio: Data from a therapeutic drug monitoring service (2019-2022)"	Clin Chim Acta. 2025 Feb 1 ; 567:120119.	Letter

285	Takahashi-Watanabe M, Fujimura T, Amagai R, et al	皮膚科	Steroid-resistant Vogt-Koyanagi-Harada-like uveitis due to BRAF/MEK inhibitor, successfully treated with adalimumab.	Eur J Dermatol. 2024 Aug 1 ; 34(4):442-444.	Case Report
286	Muto Y, Kambayashi Y, Kato H, et al	皮膚科	Three-Year Analysis of Adjuvant Therapy in Postoperative Melanoma including Acral and Mucosal Subtypes.	Cancers (Basel). 2024 Aug 2 ; 16(15):2755. (オンライン)	Original Article
287	Yamazaki E, Fujimura T, Takahashi-Watanabe M, et al	皮膚科	Decreased interleukin 4 serum levels correlate with plasminogen activator inhibitor-1 inhibitor TM5614 efficacy in patients with malignant melanoma refractory to anti-programmed cell death protein-1 antibodies: post hoc study of the TM5614-MM trial	Br J Dermatol. 2024 Dec 23 ; 192(1):167-169.	Original Article
288	Fujimura T	皮膚科	Significance of PAI-1 on the development of skin cancer: optimal targets for cancer therapies.	Biomed J. 2025 Mar 18:100850.	Original Article
289	Takahashi T, Takahashi T, Ikawa T, et al	皮膚科	Serum levels of AGGF1: Potential association with cutaneous and cardiopulmonary involvements in systemic sclerosis.	J Dermatol. 2024 Aug ; 51(8):1083-1090.	Original Article
290	Ikawa T, Yamazaki E, Amagai R, et al	皮膚科	Impact of Hyaluronic Acid on the Cutaneous T-Cell Lymphoma Microenvironment: A Novel Anti-Tumor Mechanism of Bexarotene.	Cancers (Basel). 2025 Jan 20 ; 17(2):324. (オンライン)	Original Article
291	Segawa Y, Takahashi T, Mikami Y, et al	皮膚科	A case of systemic sclerosis accompanying psoriasis successfully treated with brodalumab.	J Dermatol. 2025 Feb 26.	Letter
292	Amagai R, Fujimura T, Kambayashi Y, et al	皮膚科	Two cases of advanced melanoma with BRAF L597 mutation: Options for systemic treatment.	J Dermatol. 2025 Mar 25.	Original Article
293	Fujimura T, Yoshino K, Kato H, et al	皮膚科	A phase II multicentre study of plasminogen activator inhibitor-1 inhibitor (TM5614) plus nivolumab for treating anti-programmed cell death 1 antibody-refractory malignant melanoma: TM5614-MM trial.	Br J Dermatol. 2024 Oct 17 ; 191(5):691-697.	Original Article
294	Takahashi T, Takahashi T, Ueki M, et al	皮膚科	Case report: Nodular scleroderma successfully treated with tocilizumab.	Int J Rheum Dis. 2024 May ; 27(5):e15200.	Case Report

295	Takahashi-Watanabe M, Fujimura T, Amagai R, et al	皮膚科	Radiation-induced cutaneous squamous cell carcinoma showing a significant response to pembrolizumab: A case report.	J Dermatol. 2024 Nov ; 51(11):1500-1503.	Case Report
296	Muto Y, Fujimura T, Takahashi A, et al	皮膚科	Analysis of surgical margins and prognostic factors in dermatofibrosarcoma protuberans after wide local excision: AA?multicenter study of 116 Japanese patients.	J Dermatol. 2024 Sep ; 51(9):1225-1232.	Original Article
297	Okazaki T, Takahashi T, Asano Y	皮膚科	Pancreatitis, panniculitis, and polyarthritis (PPP) syndrome associated with acute-on-chronic pancreatitis: A case report.	J Dermatol. 2025 Jan ; 52(1):e30-e31.	Letter
298	Kambayashi Y, Fujimura T, Takahashi T, et al	皮膚科	Disseminated bone marrow carcinomatosis of malignant melanoma: a case report and review of the literature.	Eur J Dermatol. 2024 Oct 1 ; 34(5):561-562.	Original Article
299	Ishizuka Y, Takahashi T, Asano Y	皮膚科	Erythematous Plaques on the Dorsum of both Hands and Forearm: A Quiz.	Acta Derm Venereol. 2024 Dec 2 ; 104:adv42229. (オンライン)	Original Article
300	Yamazaki E, Fujimura T, Takahashi-Watanabe M, et al	皮膚科	An Evaluation of Prognostic Factors in Cutaneous Squamous Cell Carcinoma: A Single-Center Study of 237 Japanese Cases.	J Clin Med. 2025 Feb 13 ; 14(4):1243. (オンライン)	Original Article
301	Ozawa M, Katagiri C, Okamura C, et al	皮膚科	Efficacy of corneal squamous cell carcinoma antigen-1 in early infancy in predicting atopic dermatitis and food allergy: A prospective study.	Allergol Int. 2024 Dec 27:S1323-8930(24)00131-X.	Original Article
302	Fuse N, Kimura M, Shimizu A, et al	眼科	Mutations of CYP1B1 and FOXC1 genes for childhood glaucoma in Japanese individuals.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Nov ; 68(6):688-701.	Original Article
303	Yamaguchi C, Kiyota N, Himori N, et al	眼科	Differentiating optic neuropathies using laser speckle flowgraphy: Evaluating blood flow patterns in the optic nerve head and peripapillary choroid.	Acta Ophthalmol. 2025 Feb ; 103(1):e49-e57.	Original Article
304	Wang J, Kunikata H, Yasuda M, et al	眼科	Systemic Oxidative Stress Level as a Pathological and Prognostic Factor in Myopic Choroidal Neovascularization.	Ophthalmol Sci. 2024 May 7 ; 4(6):100550. (オンライン)	Original Article

305	Kanno S, Sato K, Nakazawa T	眼科	Precise Generation of Human Induced Pluripotent Stem Cell-derived Cell Lines Harboring Disease-relevant Single Nucleotide Variants Using a Prime Editing System.	Bio Protoc. 2025 Feb 20 ; 15(4):e5191. (オンライン)	Original Article
306	Takahashi N, Omodaka K, Kikawa T, et al	眼科	Comparative features of superior versus inferior hemisphere microvasculature dropout in open-angle glaucoma.	Jpn J Ophthalmol. 2024 Jul ; 68(4):311-320.	Original Article
307	Yamaguchi C, Kiyota N, Himori N, et al	眼科	Evaluation of blood flow in arteritic anterior ischemic optic neuropathy using laser speckle flowgraphy: A case series.	Am J Ophthalmol Case Rep. 2025 Mar 24 ; 38:102316. (オンライン)	Case Report
308	Sharma P, Takahashi N, Ninomiya T, et al	眼科	A hybrid multi model artificial intelligence approach for glaucoma screening using fundus images.	NPJ Digit Med. 2025 Feb 27 ; 8(1):130. (オンライン)	Original Article
309	Tsuda S, Kunikata H, Ishikawa M, et al	眼科	Detection of Glaucomatous Visual Fields Using a Newly Developed Device with Retinal Projection Technology.	Tohoku J Exp Med. 2025 Feb 27.	Original Article
310	Takizawa H, Kunikata H, Yabana T, et al	眼科	Development of a Low-Cost Scanning Laser Ophthalmoscope Using Semiconductor Laser Technology.	Tohoku J Exp Med. 2025 Mar 6 ; 265(1):39-45.	Original Article
311	Takizawa H, Yasuda M, Hoshi K, et al	眼科	Changes in ocular blood flow in patients with neovascular age-related macular degeneration after intravitreal injection of ranibizumab biosimilar and brolocizumab.	Int Ophthalmol. 2024 Apr 16 ; 44(1):181. (オンライン)	Original Article
312	Sato K, Sasaki Y, Ohno-Oishi M, et al	眼科	New Dihydropyridine Derivative Attenuates NF- κ B Activation via Suppression of Calcium Influx in a Mouse BV-2 Microglial Cell Line.	Tohoku J Exp Med. 2024 Jul 18 ; 263(2):151-160.	Original Article
313	Okabe T, Kunikata H, Yasuda M, et al	眼科	Relationship between oxidative stress level and diabetic retinopathy severity.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2024 Dec ; 262(12):4017-4020.	Letter
314	Himori N, Uchida K, Ninomiya T, et al	眼科	The relationship between equol production status and normal tension glaucoma.	Int Ophthalmol. 2024 Jun 27 ; 44(1):287. (オンライン)	Original Article
315	Abe M, Kunikata H, Aizawa N, et al	眼科	Systemic oxidative stress levels and their associations with the risk of neovascular age-related macular degeneration and treatment response.	Int J Retina Vitreous. 2025 Feb 10 ; 11(1):16. (オンライン)	Original Article

316	Takeda Y, Hanyuda A, Takahashi N, et al	眼科	Relationship between corneal hysteresis and the site of damage to peripapillary retinal nerve fibre layer thickness in open-angle glaucoma.	Sci Rep. 2024 Nov 1 ; 14(1):26329. (オンライン)	Original Article
317	Hanyuda A, Raita Y, Ninomiya T, et al	眼科	Metabolomic Profiling of Open-Angle Glaucoma Etiologic Endotypes: Tohoku Multi-Omics Glaucoma Study.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2024 Nov 4 ; 65(13):44.	Original Article
318	Suzuki J, Hemmi T, Ida T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Supersulfide formation in the sinus mucosa of chronic rhinosinusitis.	Laryngoscope Investig Otolaryngol. 2024 Jul 27 ; 9(4):e1261. (オンライン)	Original Article
319	Ishikawa K, Suzuki H, Ohishi T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Anti-CD44 Variant 10 Monoclonal Antibody Exerts Antitumor Activity in Mouse Xenograft Models of Oral Squamous Cell Carcinomas.	Int J Mol Sci. 2024 Aug 24 ; 25(17):9190. (オンライン)	Original Article
320	Kawase T, Obuchi C, Suzuki J, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Masking Effects Caused by Contralateral Distractors in Participants With Versus Without Listening Difficulties.	Ear Hear. 2025 Mar-Apr 01 ; 46(2):393-400.	Original Article
321	Nakao-Kato M, Takahashi A, Magara J	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Characterization of Beverage Viscosity Based on the International Dysphagia Diet Standardisation Initiative and Its Correspondence to the Japanese Dysphagia Diet 2021.	Nutrients. 2025 Mar 17 ; 17(6):1051. (オンライン)	Original Article
322	Hisaoka T, Suzuki J, Ikeda R, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Effect of acute ethanol intoxication on swallowing function in mice.	Auris Nasus Larynx. 2025 Apr ; 52(2):101-106.	Original Article
323	Hashimoto H, Okazaki T, Honkura Y, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Nrf2 Deficiency Exacerbates the Decline in Swallowing and Respiratory Muscle Mass and Function in Mice with Aspiration Pneumonia.	Int J Mol Sci. 2024 Nov 4 ; 25(21):11829. (オンライン)	Original Article
324	Hisaoka T, Suzuki J, Ikeda R, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Association between the Hospital Anxiety and Depression Scale and Swallowing Function in Dysphagic Patients in Japan.	Auris Nasus Larynx. 2025 Jun ; 52(3):222-228.	Original Article
325	Ishii R, Ohkoshi A, Katori Y	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Treatment of elderly patients with head and neck cancer in an aging society: Focus on geriatric assessment and surgical treatment.	Auris Nasus Larynx. 2024 Aug ; 51(4):647-658.	Original Article

326	Yoshida T, Yagi N, Ogawa T, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Breathing-Swallowing discoordination after definitive chemoradiotherapy for head and neck cancers is associated with aspiration pneumonia.	PLoS One. 2024 Jul 11 ; 19(7):e0305560. (オンライン)	Original Article
327	Hirano- Kawamoto A, Honkura Y, Murakami G, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Development and growth of fasciae in and around the esophageal hiatus: a histological study using human fetuses.	Surg Radiol Anat. 2024 Dec 2 ; 47(1):16. (オンライン)	Original Article
328	Takai S, Morimoto T, Kanno A, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Rising-frequency chirp stimuli effectively enhance the amplitude and shorten theA?latency of 40-hz auditory steady-state response.	Int J Audiol. 2024 Dec 10:1-8.	Original Article
329	Ohkoshi A, Ishii R, Higashi K, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Predictors of recurrence and survival after salivary gland cancer surgery: A multicenter, retrospective study in northern Japan.	Oral Oncol. 2025 Jan ; 160:107131.	Original Article
330	Takahashi H, Suzuki J, Ikeda R, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Time-course changes in videofluoroscopic findings during developmental and aging stages in mice.	Neuroreport. 2025 Mar 5 ; 36(4):211- 216.	Original Article
331	Ohkoshi A, Ishii R, Higashi K, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Sensorineural hearing loss after concurrent chemoradiotherapy with high-dose cisplatin in head and neck cancer patients: Roles of nutrition and trace elements.	Auris Nasus Larynx. 2025 Apr ; 52(2):141-145.	Original Article
332	Sawada A, Suzuki J, Suzuki Y, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Risk factors of pneumonia after thoracic aortic surgery.	Auris Nasus Larynx. 2025 Apr ; 52(2):167-173.	Original Article
333	Kitaya S, Takei K, Honda Y, et al	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Enhanced Effect of Patient Room Disinfection Against Carbapenem-Resistant Enterobacter cloacae and Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus Using UV-C Irradiation in Conjunction with UV-C Containment Unit	Antibiotics (Basel). 2024 Nov 22 ; 13(12):1115. (オンラ イン)	Original Article
334	Suzuki N, Miyagi M, Furusawa Y, et al	リハビリテーション科	Gait Acquisition with a Quadrilateral Socket after Ultra-short Transfemoral Amputation because of Staphylococcal Toxic Shock Syndrome	Prog Rehabil Med. 2024 Nov 16 ; 9:20240036. (オンラ イン)	Case Report
335	Miyagi M, Sekiya H, Ebihara S	リハビリテーション科	Effect of osteosarcopenia on feeding status in hospitalized patients with suspected dysphagia.	PLoS One. 2024 Dec 19 ; 19(12):e0315091. (オンライン)	Original Article

336	Honda K, Sekiguchi Y, Owaki D, et al	リハビリテーション科	Effects of ankle-foot orthosis with dorsiflexion resistance on the quasi-joint stiffness of the ankle joint and spatial asymmetry during gait in patients with hemiparesis.	Clin Biomech (Bristol). 2024 May ; 115:106263.	Original Article
337	Okazaki T, Takahashi R, Matsui T, et al	リハビリテーション科	Impacts of High-Intensity One-Year Respiratory Muscle Exercise on Respiratory Muscle Force and Dyspnea at Various Body Trunk Angles in a Tetraplegic Patient.	Tohoku J Exp Med. 2025 Mar 13.	Original Article
338	Ogawa M, Fujikawa M, Tasaki K, et al	てんかん科	Individual and relational factors related to disclosure of epilepsy in the workplace.	Epilepsy Behav. 2024 Nov ; 160:110079.	Original Article
339	Ukishiro K, Osawa SI, Iwasaki M, et al	てんかん科	Complete Corpus Callosotomy Brings Worthwhile Seizure Reduction in Both Pediatric and Adult Patients.	Neurosurgery. 2025 Feb 1 ; 96(2):410-415.	Original Article
340	Konomatsu K, Kakisaka Y, Jin K, et al	てんかん科	Genetic generalized epilepsy with catecholaminergic polymorphic ventricular tachycardia complicated by ryanodine receptor 2 variant: A case report	Seizure. 2024 Apr ; 117:284-287.	Case Report
341	Ukishiro K, Osawa SI, Kakisaka Y, et al	てんかん科	Remission of startle epilepsy provoked by acoustic stimuli following complete callosotomy: A case study.	Epileptic Disord. 2024 Aug ; 26(4):510-513.	Case Report
342	Iseki C, Nakamichi K, Ishizawa K, et al	高次脳機能障害科	A Case of Progressive Multifocal Leukoencephalopathy Caused by Epcoritamab.	Cureus. 2024 Oct 16 ; 16(10):e71655. (オンライン)	Case Report
343	Kawakami N, Okada Y, Morihara K, et al	高次脳機能障害科	Long-lasting pure topographical disorientation due to heading disorientation following left retrosplenial infarction: A report of two cases.	Brain Cogn. 2024 Nov ; 181:106211.	Case Report
344	Iseki C, Ishii K, Pozzi NG, et al	高次脳機能障害科	Instrumental assessment of INPH: structural and functional neuroimaging.	J Neurosurg Sci. 2025 Feb ; 69(1):64-78.	Original Article
345	Katsuse K, Kakinuma K, Kawakami N, et al	高次脳機能障害科	Distinct cerebral perfusion patterns and linguistic profiles in Alzheimer's disease-related primary progressive aphasia.	Neurol Sci. 2025 Mar 24.	Original Article
346	Katsuse K, Kubota A, Kakinuma K, et al	高次脳機能障害科	Case of Pure Agraphia in Kana and Romaji Without Sensorimotor Deficits After a Small Infarct of the Posterior Limb of the Internal Capsule.	Neurology. 2025 Apr 8 ; 104(7):e210254.	Case Report

347	Kakinuma K	高次脳機能障害科	Commentary: Dementia, hypertension, and medication.	J Clin Neurosci. 2024 Aug ; 126:26-27.	Letter
348	Ota S, Kakinuma K, Narita W, et al	高次脳機能障害科	A decade with anomic primary progressive aphasia.	eNeurologicalSci. 2024 Jun 6 ; 35:100508. (オンライン)	Case Report
349	Kakinuma K, Osawa SI, Kikuchi H, et al	高次脳機能障害科	Recurring utterances induced by local anesthetic administration to the left frontal lobe.	Cortex. 2025 Feb ; 183:15-20.	Case Report
350	Katsuse K, Kakinuma K, Kawakami N, et al	高次脳機能障害科	Oral applause sign in progressive supranuclear palsy.	Cortex. 2025 Feb ; 183:391-397.	Case Report
351	Daidouji Y, Suzuki S, Wang X, et al	歯周病科	Periodontal inflammation potentially inhibits hepatic cytochrome P450 expression and disrupts the omega-3 epoxidation pathway in a murine model.	J Dent Sci. 2025 Jan ; 20(1):444-451.	Original Article
352	Hino R, Chiba Y, Maruya Y, et al	小児歯科	Case Report: Dental treatment under general anesthesia and dental management of a child with congenital ichthyosis.	Front Dent Med. 2024 Oct 17 ; 5:1481658. (オンライン)	Case Report
353	Maruya Y, Hino R, Tadano M, et al	小児歯科	Orthodontic management of severe inversely impacted maxillary central incisors: a case series.	Front Oral Health. 2024 Oct 16 ; 5:1474190. (オンライン)	Original Article
354	Otake S, Saito K, Chiba Y, et al	小児歯科	S100a6 knockdown promotes the differentiation of dental epithelial cells toward the epidermal lineage instead of the odontogenic lineage.	FASEB J. 2024 Apr 15 ; 38(7):e23608.	Original Article
355	Otake T, Washio J, Ezoe K, et al	歯科顎口腔外科	The Effect of Environmental Factors on the Nitrate and Nitrite Metabolism of Oral Actinomyces and Schaalia Species.	Mol Oral Microbiol. 2025 Apr ; 40(2):104-115.	Original Article
356	Ogura H, Numazaki K, Oyanagi T, et al	歯科顎口腔外科	Three-Dimensional Evaluation of Treatment Effects and Post-Treatment Stability of Maxillary Molar Intrusion Using Temporary Anchorage Devices in Open Bite Malocclusion.	J Clin Med. 2024 May 7 ; 13(10):2753. (オンライン)	Original Article
357	Yasuno K, Ito A, Yoshida M, et al	歯科顎口腔外科	Influence of feeding a soft diet on proteoglycan expression in rat temporomandibular joint discs.	J Oral Biosci. 2024 Sep ; 66(3):539-545.	Original Article
358	Miura M, Kitaura H, Ohori F, et al	歯科顎口腔外科	Role of CXCL10 released from osteocytes in response to TNF- α stimulation on osteoclasts.	Sci Rep. 2025 Jan 24 ; 15(1):3040. (オンライン)	Original Article

359	Kojima I, Nogami S, Hitachi S, et al	顎口腔画像診断科	Temporomandibular joint ankylosis suspected to be associated with ankylosing spondylitis based on cervical computed tomography images: A pictorial essay.	Imaging Sci Dent. 2024 Jun ; 54(2):201-206.	Case Report
360	Nogami S, Kajita T, Yanagisawa Y, et al	歯科顎口腔外科	Effects of antigen-induced arthritis and compressive mechanical stress on condylar head of mandible.	J Oral Biosci. 2025 Mar 19:100654.	Original Article
361	Sugai Y, Hamai R, Shiwaku Y, et al	歯科顎口腔外科	Effect of Octacalcium Phosphate on Osteogenic Differentiation of Induced Pluripotent Stem Cells in a 3D Hybrid Spheroid Culture.	Biomimetics (Basel). 2025 Mar 26 ; 10(4):205. (オンライン)	Original Article
362	Ezoe Y, Nogami S, Otake Y, et al	歯科顎口腔外科	Clinical course of jaw function recovery following surgical treatment in patients with temporomandibular joint ankylosis- correlation with mouth opening rehabilitation.	BMC Oral Health. 2025 Mar 22 ; 25(1):423. (オンライン)	Original Article
363	Tsuboi Y, Hamai R, Okuyama K, et al	歯科顎口腔外科	Adsorption of Serum Fetuin onto Octacalcium Phosphate and Its Relation to Osteogenic Property.	Int J Mol Sci. 2025 Feb 6 ; 26(3):1391. (オンライン)	Original Article
364	Nogami S, Ezoe Y, Takeda Y, et al	歯科顎口腔外科	Clinical course of masticatory function recovery following endoscopic-assisted open reduction and internal fixation in patients with unilateral mandibular condyle fracture.	J Craniomaxillofac Surg. 2025 Mar ; 53(3):245-249.	Original Article
365	Aihara T, Yazaki M, Okamoto D, et al	歯科顎口腔外科	Changes in three-dimensional nasal morphology according to the direction of maxillary movement during Le Fort I osteotomy.	J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2024 Nov ; 98:10-17.	Original Article
366	Suzuki H, Nogami S, Otake Y, et al	歯科顎口腔外科	Surgery-early approach combined with condylectomy for correction of severe facial asymmetry with mandibular condylar hyperplasia: a case report.	J Korean Assoc Oral Maxillofac Surg. 2024 Aug 31 ; 50(4):227-234.	Case Report
367	Imoto K, Hoshi K, Odashima K, et al	歯科顎口腔外科	Static and dynamic guided bone regeneration using a shape-memory polyethylene terephthalate membrane: An experimental study in rabbit mandible.	Clin Implant Dent Relat Res. 2024 Aug ; 26(4):734-741.	Original Article
368	Hoshi K, Imoto K, Yanagisawa Y, et al	歯科顎口腔外科	Periosteal expansion osteogenesis using a tubular dynamic frame device: An experimental study in rats.	J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2024 Sep ; 112(9):e35471.	Original Article

369	Kouketsu A, Doi C, Tanaka H, et al	歯科顎口腔外科	Detection of oral cancer and oral potentially malignant disorders using artificial intelligence-based image analysis.	Head Neck. 2024 Sep ; 46(9):2253-2260.	Original Article
370	Kajita T, Kikuchi K, Morishima H, et al	歯科顎口腔外科	Reduction of aerosol and droplet dispersions using intraoral and extraoral vacuums for dental treatments with face-up, diagonal and upright positions.	BMC Oral Health. 2024 Nov 17 ; 24(1):1397. (オンライン)	Original Article
371	Hoshijima H, Miyazaki T, Mitsui Y, et al	歯科麻酔疼痛管理科	Machine learning-based identification of the risk factors for postoperative nausea and vomiting in adults.	PLoS One. 2024 Aug 15 ; 19(8):e0308755. (オンライン)	Original Article
372	Sasaki H, Mizuta K	歯科麻酔疼痛管理科	Diurnal variation in asthma symptoms: Exploring the role of melatonin.	J Oral Biosci. 2024 Sep ; 66(3):519-524.	Original Article
373	Abe M, Nouchi R, Ogawa T, et al	咬合回復科	Activities of the dorsolateral and medial prefrontal cortices during oral function training with cognitive training elements: a NIRS study.	BMC Oral Health. 2024 Oct 19 ; 24(1):1250. (オンライン)	Original Article
374	Yoda N, Abe M, Yamaguchi H, et al	咬合回復科	Clinical use of duplicate complete dentures: A narrative review.	Jpn Dent Sci Rev. 2024 Dec ; 60:190-197.	Original Article
375	Tenkumo T, Koide R, Ogawa T, et al	咬合回復科	A triple growth factor strategy for optimizing bone augmentation in mice.	J Biomed Mater Res B Appl Biomater. 2024 Jul ; 112(7):e35447.	Original Article
376	Shigemitsu R, Ogawa T, Sato E, et al	咬合回復科	Kinematic classification of mandibular movements in patients with temporomandibular disorders based on PCA.	Comput Biol Med. 2025 Jan ; 184:109441.	Original Article
377	Kondo T, Thaweesapthak S, Ambo S, et al	咬合修復科	Fabrication of Hard Tissue Constructs from Induced Pluripotent Stem Cells for Exploring Mechanisms of Hereditary Tooth/Skeletal Dysplasia.	Int J Mol Sci. 2025 Jan 18 ; 26(2):804. (オンライン)	Original Article
378	Kondo T, Kakinuma H, Ambo S, et al	咬合修復科	Influence of dual-cure resin-cement curing modes on gingival cytotoxicity and inflammatory responses.	J Dent Sci. 2025 Jan ; 20(1):586-595.	Original Article
379	Fushimi K, Watanabe J, Yamada M, et al	咬合修復科	Effects of flushing of dental waterlines in portable dental units on water quality management.	J Dent Sci. 2024 Dec ; 19(Suppl 1):S61-S69.	Original Article

380	Ito Y, Tanaka Y, Daidoji A, et al	口腔機能回復科	Relationship between texture perception and oral function: A preliminary study in young, healthy adults.	J Oral Rehabil. 2024 Jul ; 51(7):1229–1235.	Original Article
381	Seki D, Komiyama T, Ohi T, et al	口腔機能回復科	Effects of dental prostheses and occlusal force on adverse health outcomes in community-dwelling older adults lacking functional dentition: The Longitudinal Study of the Tsurugaya Project	J Nutr Health Aging. 2025 Mar 22 ; 29(6):100534.	Original Article
382	Komiyama T, Gallagher JE, Hattori Y	口腔機能回復科	Relationship between tooth loss and progression of frailty: Findings from the English longitudinal study of aging.	Arch Gerontol Geriatr. 2024 Dec ; 127:105572.	Original Article
383	Komiyama T, Ohi T, Miyoshi Y, et al	口腔機能回復科	Number of teeth and functional disability in community-dwelling older adults.	Gerodontology. 2025 Mar ; 42(1):86–92.	Original Article
384	Inoue C, Miki Y, Saito-Koyama R, et al	病理部	Dipeptidyl peptidase 4-positive cancer-associated fibroblasts enhance lung adenocarcinoma growth.	Pathol Res Pract. 2024 Aug ; 260:155418.	Original Article
385	Taguchi R, Yamaguchi-Tanaka M, Takagi K, et al	病理部	Clinicopathological Significance and Prognostic Role of High Mobility Group Box 1 (HMGB1), Toll-Like Receptor (TLR) 2 and TLR4 in Breast Cancer.	Acta Histochem Cytochem. 2024 Apr 25 ; 57(2):75–83.	Original Article
386	Miyauchi T, Narita S, Saiki Y, et al	病理部	Association between NLRP3 Inflammasome and Tumor-Node-Metastasis Staging in Prostate Cancer: Immunohistochemical Studies of Prostate Needle Biopsy and Radical Prostatectomy Specimens.	Tohoku J Exp Med. 2025 Feb 7 ; 264(4):203–213.	Original Article
387	Yamazaki Y, Tezuka Y, Ono Y, et al	病理部	Updates on WHO 5th edition classification, molecular characteristics and tumor microenvironment of adrenocortical carcinomas.	Endocr J. 2025 Mar 3 ; 72(3):243–257.	Original Article
388	Takei K, Ogawa M, Sakata R, et al	総合感染症科	Molecular Epidemiology of Carbapenem-Resistant Klebsiella aerogenes in Japan.	Int J Mol Sci. 2024 Apr 19 ; 25(8):4494. (オンライン)	Original Article
389	Seike I, Oshima K, Baba H, et al	総合感染症科	Undiagnosed Perihepatic Abscess Revealed at Autopsy of a Patient With COVID-19 Undergoing Prolonged Extracorporeal Membrane Oxygenation (ECMO) Therapy.	Cureus. 2024 Apr 15 ; 16(4):e58338. (オンライン)	Case Report

390	Kitaya S, Nakano M, Katori Y, et al	総合感染症科	QTc Interval Prolongation as an Adverse Event of Azole Antifungal Drugs: Case Report and Literature Review.	Microorganisms. 2024 Aug 8 ; 12(8):1619. (オンライン)	Original Article
391	Kitaya S, Kanamori H, Ishii R, et al	総合感染症科	Clinical characteristics and outcomes of persistent bacteremia in patients with head and neck cancer in a tertiary care hospital.	Front Med (Lausanne). 2024 Jun 19 ; 11:1406983. (オンライン)	Original Article
392	Baba H, Kanamori H, Nakayama A, et al	総合感染症科	A cluster of Candida parapsilosis displaying fluconazole-trailing in a neonatal intensive care unit successfully contained by multiple infection-control	Antimicrob Steward Healthc Epidemiol. 2024 May 16 ; 4(1):e86. (オンライン)	Original Article
393	Tsuchitani Y, Ozawa Y, Taniyama Y, et al	総合外科	Risk Factors and Treatment of Chylothorax After Minimally Invasive Esophagectomy for Esophageal Cancer.	Cureus. 2024 Jul 28 ; 16(7):e65606. (オンライン)	Original Article
394	Ishida M, Fujii T, Kishiwada M, et al	総合外科	Japanese classification of pancreatic carcinoma by the Japan Pancreas Society: Eighth edition.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2024 Nov ; 31(11):755-768.	Original Article
395	Matsumura M, Sasaki K, Tokodai K, et al	総合外科	Practical Coagulation Management in Liver Transplantation Through Point-of-Care Analysis Using the TEG 6s Global Hemostasis System in Japan.	Tohoku J Exp Med. 2025 Mar 12 ; 265(2):59-67.	Original Article
396	Iseki M, Mizuma M, Shimura M, et al	総合外科	Preoperative Chemotherapy With Gemcitabine for Pancreatic Cancer Causes Zinc Deficiency.	Pancreas. 2025 Feb 1 ; 54(2):e75-e81.	Original Article
397	Ariake K, Mizuma M, Unno M, et al	総合外科	Optimal treatment strategy for patients with pancreatic cancer having positive peritoneal cytology: A nationwide multicenter retrospective cohort study supervised by the Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Jan ; 32(1):69-81.	Original Article
398	Soeta T, Sugisawa N, Yamamura A, et al	肝・胆・膵外科	MRTX1719, an MTA-cooperative PRMT5 Inhibitor, Induces Cell Cycle Arrest and Synergizes With Oxaliplatin and Gemcitabine for Enhanced Anticancer Effects.	Anticancer Res. 2024 Dec ; 44(12):5231-5240.	Original Article
399	Shimura M, Matsuo J, Pang S, et al	総合外科	IQGAP3 signalling mediates intratumoral functional heterogeneity to enhance malignant growth.	Gut. 2025 Feb 6 ; 74(3):364-386. (オンライン)	Original Article

400	Kokumai T, Aoki S, Nakagawa K, et al	総合外科	High preoperative Glasgow prognostic score increases a risk of hospital mortality in elderly patients with perihilar cholangiocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2025 Apr ; 32(4):298–310.	Original Article
401	Asamitsu S, Ozawa Y, Okamoto H, et al	総合外科	Supersulfide metabolome of exhaled breath condensate applied as diagnostic biomarkers for esophageal cancer.	Cancer Sci. 2025 Apr ; 116(4):1023–1033.	Original Article
402	Tabata T, Saito R, Taniguchi T, et al	総合外科	Anterior Mediastinal Lymph Node Metastasis of Intrahepatic Cholangiocarcinoma: A Case Report and Literature Review.	Surg Case Rep. 2025 (January) ; 11(1):24–0025.	Case Report
403	Matsumura M, Sasaki K, Tokodai K, et al	総合外科	The TEG 6s Global Hemostasis System is Useful for Coagulation Management in Simultaneous Pancreas and Kidney Transplantation: The First Two Cases.	Transplant Proc. 2024 Nov ; 56(9):2021–2026.	Case Report
404	Karasawa H, Murakami K, Miura K, et al	総合外科	Wnt2 Expression in Cancer–Associated Fibroblasts Precedes Lymph Node Metastasis in Orthotopic Transplantation Mouse Model of Colorectal Cancer.	Tohoku J Exp Med. 2025 Mar 13.	Original Article
405	Mizuma M, Endo H, Yamamoto H, et al	総合外科	Updated risk prediction model for pancreaticoduodenectomy using data from the National Clinical Database in Japan.	Ann Gastroenterol Surg. 2024 Nov 11 ; 9(3):559–568. (オンライン)	Original Article
406	Serizawa F, Nakano Y, Hashimoto M, et al	総合外科	Distal Bypass Improves Skin Perfusion Pressure at the Whole Foot Regardless of Angiosomes in Patients with Chronic Limb–Threatening Ischemia.	Ann Vasc Dis. 2024 Jun 25 ; 17(2):150–156.	Original Article
407	Kashiwagi R, Ishida M, Onodera K, et al	総合外科	Laparoscopic excision of accessory spleen for recurrent autoimmune hemolytic anemia after splenectomy: a case report.	Surg Case Rep. 2024 May 3 ; 10(1):110. (オンライン)	Original Article
408	Hirano N, Iseki M, Nakagawa K, et al	外科病態学講座(消化器外科学分野)(臨床)	A case report of perihilar cholangiocarcinoma in a patient with situsA?inversus totalis.	Clin J Gastroenterol. 2024 Jun ; 17(3):567–574.	Case Report
409	Takahashi J, Suzuki T, Sato M, et al	総合外科	Differential squamous cell fates elicited by NRF2 gain of function versus KEAP1 loss of function.	Cell Rep. 2024 Apr 23 ; 43(4):114104.	Original Article

410	Sato Y, Kobayashi M, Ohira M, et al	総合外科	Downregulation of ABCC3 activates MAPK signaling through accumulation of deoxycholic acid in colorectal cancer cells.	Cancer Sci. 2024 Jun ; 115(6):1778–1790.	Original Article
411	Ishida H, Fukutomi T, Taniyama Y, et al	総合外科	Serum C–reactive protein and procalcitonin levels in patients with pneumonia and anastomotic leakage in the postoperative period after esophagectomy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Nov ; 72(11):746–751.	Original Article
412	Taniyama Y, Okamoto H, Sato C, et al	総合外科	Prevention and Management of Recurrent Laryngeal Nerve Palsy in Minimally Invasive Esophagectomy: Current Status and Future Perspectives.	J Clin Med. 2024 Dec 13 ; 13(24):7611. (オンライン)	Original Article
413	Li J, Cheng L, Lei C	総合外科	The impact of alcohol consumption, smoking, coffee, and tea intake on cutaneous melanoma: a causal relationship analysis.	Arch Dermatol Res. 2025 Mar 17 ; 317(1):579. (オンライン)	Letter
414	Oshikiri H, Taguchi K, Hirose W, et al	総合外科	Anticancer Effect of C19–Position Substituted Geldanamycin Derivatives Targeting NRF2–NQO1–activated Esophageal Squamous Cell Carcinoma.	Mol Cell Biol. 2025 ; 45(2):79–97. (Published online: 24 Dec 2024)	Original Article
415	Noguchi A, Numata Y, Sugawara T, et al	総合外科	Deep learning predicts the 1–year prognosis of pancreatic cancer patients using positive peritoneal washing cytology.	Sci Rep. 2024 Aug 2 ; 14(1):17059. (オンライン)	Original Article
416	Sasaki– Higashimoto I, Fujishima F, Ishida H, et al	総合外科	Histopathological study of the localization/distribution of Fusobacterium nucleatum in esophageal cancer.	Pathol Int. 2025 Feb ; 75(2):82–91.	Original Article
417	Mori Y, Mori N	整形外科	Advances in titanium alloys and orthopedic implants: new titanium alloys and future research directions	BIO–DES MANUF.2024 SEP:7(6):2	Letter
418	Oikawa K, Murakami M, Ochi S	麻酔科	Use of personal health records during and after a disaster including a nuclear accident: A scoping review	INT J DISAST RISK RE.2024 SEP:111:17	Review
419	Usuzaki T, Takahashi K, Inamori R, et al	放射線診断科	Grading diffuse glioma based on 2021 WHO grade using self–attention–base deep learning architecture: variable Vision Transformer (vViT)	BIOMED SIGNAL PROCES.2024 MAY:91:8	Original Article

420	Kitami M, Saito M, Aoki H	放射線診断科	Diffusion-weighted Imaging as a "Gate-keeper" Sequence in the Evaluation of Clin-ically Diagnosed "Infantile Hemangioma"	RADIOGRAPHICS.2024 APR:44(4):1	Letter
421	Matsui K, Kamakura S, Kouketsu A, et al	歯科顎口腔外科	Investigation of periodontal tissue regeneration using octacalcium phosphate and collagen composite	J ORAL MAX SURG MED.2025 JAN:37(1):8	Original Article
422	Chiba M, Hirofumi H, Higuchi K, et al	歯科顎口腔外科	Reestablishing disc-condyle-mandibular fossa alignment and condylar repair following self-care for the temporomandibular joint closed lock with osteoarthritis: A case report	J ORAL MAX SURG MED.2024 NOV:36(6):5	Original Article
423	Suzuki H, Nogami S, Hoshi K, et al	歯科顎口腔外科	Influence of COVID-19 pandemic on mandible fractures - Multicentric study	J ORAL MAX SURG MED.2024 SEP:36(5):6	Original Article
424	Kouketsu A, Morishima H, Higuchi K, et al	歯科顎口腔外科	Reconstruction using reconstruction plates with the condylar head and a titanium mesh tray with particulate cancellous bone and marrow for hemimandible defect	J ORAL MAX SURG MED.2024 JUL:36(4):5	Original Article
425	Kuroda K, Kouketsu A, Saito H, et al	歯科顎口腔外科	Immunohistochemical assessment of stem cell-related Sox2 and Klf4 in ameloblastomas	J ORAL MAX SURG MED.2025 JAN:37(1):6	Original Article
426	Ito M, Kojima I, Iikubo M, et al	放射線部	Effects of Different Fields of View and Rotation Angles on Radiation Doses to Highly Radiosensitive Organs in Children Using Dental Cone Beam Computed Tomography	APPL SCI-BASEL.2024 OCT:14(19):13	Original Article
427	Inaba Y, Jingu K, Fujisawa M, et al	放射線部	Evaluation of Radiation Doses Received by Physicians during Permanent ¹⁹⁸ Au Grain Implant Brachytherapy for Oral Cancer	APPL SCI-BASEL.2024 JUL:14(14):15	Original Article
428	Muroyama Y, Niikuni R, Udagawa T, et al	病理部	Adult teratoma manifested as a lateral neck mass	OTOLARYNG CASE REP.2024 JUN:31:3	Original Article
429	Baba, K. Takahashi, K. Hashimoto, K. Onoki, T. Aki, T. Fujita, R. Ishikawa, K. Aizawa, T.	整形外科	Harmony between spinopelvic mismatch and sagittal hip alignment contributes to upright standing in females: a cross-sectional study	Journal of Spine Surgery 2024 Jun 21;10(2):244-254	Original Article

430	Katayama, S. Nakano, T. Suzuki, T. Irie, M. Niizuma, H. Kikuchi, A. Sasahara, Y.	小児科	Efficacy of rituximab for the treatment and prevention of autoimmunity in patients with Wiskott–Aldrich syndrome and X-linked thrombocytopenia	Clinical Immunology Communications Volume 5, June 2024, Pages 34–40	Original Article
431	Nakata, T. Kudo, D. Kudo, Y. Tanikawa, A. Katsuta, K. Ohbe, H. Kobayashi, M. Suda, A. Yasuda, S.	整形外科	Effects of hybrid emergency department on extracorporeal cardiopulmonary resuscitation in out-of-hospital cardiac arrest patients	Resuscitation Plus Volume 20, December 2024, 100764	Original Article
432	Fujino, N. Yamada, M. Saito, T. Konno, S. Sugiura, H.	呼吸器内科	Human Lung Cell Separation Strategies for Translational Research	American Journal of Respiratory Cell and Molecular Biology 2024 Nov;71(5):621–622	Original Article
433	Maruya, Y. Hino, R. Tadano, M. Hoshikawa, S. Otake, S. Chiba, Y. Saito, K.	小児歯科	Orthodontic management of severe inversely impacted maxillary central incisors: a case series	Frontiers in Oral Health 2024 Oct 16:5:1474190	Original Article
434	Satoh, T. Yaoita, N. Higuchi, S. Nochioka, K. Yamamoto, S. Sato, H. Tatebe, S. Yamada, K. Yamada, Y. Komaru, K. Chiba, N. Sarashina, Y. Mori, R. Nakada, M. Hayashi, H. Suzuki, H. Takahama, H. Ota, H. Yasuda, S.	循環器内科	Impact of Sodium–Glucose Co–Transporter–2 Inhibitors on Exercise–Induced Pulmonary Hypertension	Pulmonary Circulation 2024 Dec 15;14(4):e70026.	Original Article
435	Nishiyama, A. Niihori, T. Suzuki, N. Izumi, R. Akiyama, T. Kato, M. Funayama, R. Nakayama, K. Warita, H. Aoki, Y. Aoki, Y.	脳神経内科	Updated Genetic Analysis of Japanese Familial ALS Patients Carrying SOD1 Variants Revealed Phenotypic Differences for Common Variants	Neurology: Genetics December 2024 issue 10 (6) e200196	Original Article
436	Moroi, R. Kakuta, Y. Nagai, H. Shimoyama, Y. Naito, T. Shiga, H. Kinouchi, Y.	消化器内科	Clinical practice and outcome of patients with elderly-onset ulcerative colitis: Insights from a nationwide claims database study in Japan	JGH Open Volume8, Issue6, June 2024 e13103	Original Article

437	Moroi, R. Tarasawa, K. Nagai, H. Shimoyama, Y. Naito, T. Shiga, H. Hamada, S. Kakuta, Y. Fushimi, K. Fujimori, K. Kinouchi, Y.	消化器内科	Clinical Practice and Safety of Endoscopic Balloon Dilation for Crohn's Disease? Related Strictures: A Nationwide Claim Database Analysis in Japan	Gastroenterology Research and Practice First published: 14 November 2024	Original Article
438	Tsuchiya, S. Tsuchiya, M. Momma, H. Igarashi, K. Nagatomi, R. Saito, M. Arima, T. Yaegashi, N.	顎口腔機能治療部	Risk of self-harm ideation in mothers of children with orofacial cleft defects: the Japan environment and children's study	Frontiers in Global Women's Health 17 September 2024	Original Article
439	Muroyama, Y. Niihuni, R. Udagawa, T. Hagiwara, Y. Tanaka, M. Sato, M. Sato, M. Fujishima, F. Ishida, T. Suzuki, T.	個別化医療センター	Adult teratoma manifested as a lateral neck mass	Otolaryngology Case Reports Volume 31, June 2024, 100605	Original Article
440	Muroyama, Y. Miura, C. Imai, Y. Suzuki, T.	個別化医療センター	Ossification of neurofibroma in neurofibromatosis type 1, a case report of a rare presentation	International Journal of Surgery Case Reports 2024 Sep;122:110151	Original Article
441	Muroyama, Y. Yanagaki, M. Ebata, A. Yamazaki, Y. Ishida, T. Suzuki, T.	個別化医療センター	Anemia and giant breast mass	JACEP Open 2024 Sep 26;5(5):e13298	Original Article
442	Baba, H. Kanamori, H. Nakayama, A. Sato, T. Katsumi, M. Chida, T. Ikeda, S. Seki, R. Arai, T. Kamei, K.	総合感染症科	A cluster of Candida parapsilosis displaying fluconazole-trailing in a neonatal intensive care unit successfully contained by multiple infection-control interventions	Antimicrobial Stewardship and Healthcare Epidemiology 2024 May 16;4(1):e86.	Original Article
443	Ando, D. Yamagishi, K. Sutou, Y.	先進血管内治療開発寄附研究部門	Ternary Mg-Sc-based TRIP alloys: Design strategy based on Sc-equivalent	Journal of Materials Research and Technology Volume 32, September-October 2024, Pages 2578-2583	Original Article
444	Kamada, H. Oguro, S. Fukushi, T. Tannai, H. Ota, H. Takase, K.	放射線診断科	Prophylactic splenic artery embolization using n-butyl-2-cyanoacrylate and coils prior to endoscopic necrosectomy in a patient with necrotizing pancreatitis: A case report	Radiology Case Reports Volume 19, Issue 8, August 2024, Pages 3483-3487	Original Article
445	Godo, S. Takagi, H. Komaru, K. Takahashi, J. Yasuda, S.	循環器内科	A case report of refractory multivessel coronary spasm associated with hypereosinophilic syndrome: one cell, one disease?	European Heart Journal - Case Reports 2024 May 15;8(5):ytae247	Original Article

446	Hino, R. Chiba, Y. Maruya, Y. Tadano, M. Otake, S. Hoshikawa, S. Sasahara, Y.	小児歯科	Case Report: Dental treatment under general anesthesia and dental management of a child with congenital ichthyosis	Frontiers in Dental Medicine 17 October 2024	Original Article
447	Koarai, A. Yamada, M. Ichikawa, T. Fujino, N. Sugiura, H.	内科病態学講座(呼吸器内科学分野)(臨床)	Treatment with systemic corticosteroid versus placebo for exacerbations of COPD: A systematic review and meta-analysis: Meta-analysis of systemic corticosteroid treatment for COPD exacerbations	Respiratory Investigation 2024 May;62(3):503-511	Original Article
448	Kishida, K. Jingu, K. Ito, K. Umezawa, R. Yamamoto, T. Takahashi, N. Suzuki, Y. Omata, S. Harada, H. Seki, Y. Chiba, N.	放射線治療科	Impact of dose distribution by a 3D planning system for brachytherapy with 198Au grains for head and neck cancer	Head and Neck 2024 Dec;46(12):3022-3029.	Original Article
449	Amagai, R. Fujimura, T. Hashimoto, A. Yoshida, S. Asano, Y.	皮膚科	CIC-DUX4 Rearranged Sarcoma Presenting in the Skin: Case Report	Case Reports in Oncology 2024 Jun 20;17(1):681-685	Original Article
450	Michihisa Umetsu, Masayuki Hirokawa, Eri Fukaya, Eiichi Teshima, Hitoshi Kusagawa, Toshiya Nishibe, Makoto Mo, Tomohiro	卒後研修センター	Safety Assessment of Cyanoacrylate Closure for Treatment of Varicose Veins in a Large-Scale National Survey in Japan.	Journal of vascular surgery. Venous and lymphatic disorders 102160-102160 2025 Mar;13(2)	Original Article
451	Mori Y., Tarasawa K., Tanaka H., Fushimi K., Fujimori K. et al	整形外科	Nationwide database study of postoperative sequelae and in-hospital mortality in super-elderly hip fracture patients	J Bone Miner Metab 2025 Mar;43(2):141-148	Original Article
452	Mizobe R, Tarasawa K, Fushimi K, Fujimori K	広報室	Relationship between Hospital Volume and Short-term Postoperative Outcomes in Thoracoscopic Esophageal Cancer Surgery: A Study of Mortality and Postoperative Complications Using a Nationwide Database in Japan	Tohoku J Exp Med (Advance online publication: 2024/11/07)	Original Article

計452件

(注)

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	豊原 敬文, 渡辺 駿, 阿部 高明	腎臓・高血圧内科	腸内細菌に着目した慢性腎臓病の動脈硬化に対する新規治療法の開発	臨床薬理の進歩; 2024.06:71-78	Original Article
2	濱田 晋, 佐々木 滉, 松本 諒太郎 他	消化器内科	膵炎の遺伝的背景	胆膵の病態生理; 2024.06:40:75-79	Review
3	小笠原 光矢, 金 笑奕, 小池 智幸 他	消化器内科	大学病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術の年次推移と合併症の変化	在宅医療と内視鏡治療; 2024.09:27:21-29	Original Article
4	小野 理恵, 高山 真, 中瀬 泰然 他	漢方内科	Long COVIDのbrain fog診療 質問票作成とスコアリングによる実態把握と他科との連携	日本プライマリ・ケア連合学会誌; 2024.09:47:120-123	Original Article
5	小野 理恵, 高山 真, 齊藤 奈津美 他	漢方内科	易疲労感を有するCOVID-19罹患後患者に柴胡桂枝湯を使用した症例の集積報告	日本プライマリ・ケア連合学会誌; 2024.06:47:49-55	Original Article
6	村上 康司	呼吸器内科	肺サルコイドーシス治療のフロンライン	日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会雑誌; 2024.10:44:20-25	Review
7	石田 晶玄, 伊関 雅裕, 林 秀一郎 他	総合外科	膵頭十二指腸切除術後の経管栄養の意義についての検討	外科と代謝・栄養; 2024.12:58:210-215	Original Article
8	井本 博文, 田中 直樹, 土屋 堯裕 他	総合外科	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後に食道裂孔ヘルニアによる縦隔内胃管嵌入を呈し腹腔鏡下修復術を施行した1例	日本内視鏡外科学会雑誌; 2024.05:29:199-204	Original Article
9	高橋 悟朗, 齋木 佳克	心臓血管外科	【新たな時代の大動脈基部置換術】大動脈基部置換術における右冠状動脈再建	胸部外科; 2024.07:77:511-519	Original Article
10	高橋 康平, 橋本 功, 八幡 健一郎 他	整形外科	胸椎後縦靭帯骨化症に対する後方進入前方除圧術後の麻痺増悪に関する検討	Journal of Spine Research; 2024.05:15:753-760	Original Article
11	馬場 一慈, 田中 秀達, 金淵 龍一 他	整形外科	術前後の側方傾斜が人工股関節全置換術後の脚長差の自覚に与える影響	Hip Joint; 2024.08:50:391-393	Original Article

12	石津 敦玄,菅谷 岳広,小暮 敦史 他	整形外科	非定型大腿骨転子下骨折に対し外反骨切りを併用し髓内釘固定を行った1例	東北整形災害外科学会雑誌 ; 2024.06:67:95-98	Original Article
13	田中 秀達,馬場 一慈,鈴木 貴之 他	整形外科	FAIの手術治療と保存治療の臨床および画像所見の相違に関する検討	Hip Joint ; 2024.08:50:337-341	Original Article
14	佐々木 一真,山本 宣幸,有野 敦司 他	整形外科	肩関節痛患者に合併する神経障害性疼痛の頻度 PainDETECTを用いた調査	肩関節 ; 2024.10:48:261-265	Original Article
15	上田 和典,小野寺 賢,村井 翔 他	呼吸器外科	PD-L1高発現の局所進行肺多形癌に対するPembrolizumab併用化学療法後に手術を行い,無再発長期生存が得られた1切除例	日本呼吸器外科学会雑誌 ; 2024.11:38:591-596	Original Article
16	上田 和典,星史彦,高橋 洵太 他	呼吸器外科	ドセタキシルおよびラムシルマブ併用療法が有効であったCA19-9産生肺癌の1例	肺癌 ; 2024.10:64:884-889	Original Article
17	高橋 和博,外山 裕章,江島 豊 他	麻酔科	気管チューブによるベンチュリー効果が、ペンデルフト現象に与える影響 secondary publication(abridged translation)	呼吸療法 ; 2024.05:41:107-115	Original Article
18	杉野 繁一,三澤 計治	麻酔科	術後悪心・嘔吐を研究する その歴史と現在地	臨床麻酔 ; 2025.01:49:11-19	Review
19	及川 孔,大西 詠子,矢吹 志津葉 他	麻酔科	腋窩アプローチによる腕神経叢ブロック後に末梢神経障害を呈したCREST症候群合併患者の1症例	日本ペインクリニック学会誌 ; 2024.06:31:106-109	Original Article
20	鬼怒川 博孝,田邊 康次郎,菅原 万紀子 他	婦人科	帝王切開術後に筋層内筋腫が赤色変性をきたし、筋腫分娩となり緊急手術を要した1例	仙台医療センター医学雑誌 ; 2025.02:15:5-10	Original Article
21	熊谷 奈津美,富田 芙弥,星合 哲郎 他	婦人科	血管型Ehlers-Danlos症候群合併妊娠の周産期管理 症例報告と文献的レビュー	周産期医学 ; 2024.11:54:1562-1565	Original Article
22	菊地 紗耶	精神科	【GHP領域の研究苦労話と学会への期待】【多様なGHP領域の研究における苦労話とtips】周産期メンタルヘルス領域における研究苦労話	総合病院精神医学 ; 2024.04:36:106-108	Others
23	佐久間 篤,五十嵐 江美,内海 裕介 他	精神科	CPMSイエロー基準による頻回の血液検査が続き効果的だったクロザピンの中止を希望した治療抵抗性統合失調症の1例	総合病院精神医学 ; 2024.07:36:241-247	Original Article
24	青木 正志	精神科	遠位型ミオパチーに対するアセノイラミン酸	日本薬理学雑誌 ; 2025.01:160:48-52	Review

25	安藤 亮,工藤 博典,櫻井 毅 他	小児外科	【小児領域におけるGLP-2アナログ製剤(テデュグルチド)の応用】各疾患に対する使用経験 GLP-2アナログ製剤の長期投与経験	小児外科 ; 2024.04:56:403-407	Original Article
26	安藤 亮,大久保 龍二,和田 基	小児外科	【門脈血行異常に対する治療up to date】腹腔鏡下シャント閉鎖術を施行した先天性門脈体循環シャントの1例	小児外科 ; 2024.05:56:502-505	Original Article
27	入間田 萌花,山崎 研志	皮膚科	【困ってしまう顔の皮疹】統計酒さ340例における背景・増悪因子の検討	皮膚病診療 ; 2024.05:46:398-403	Original Article
28	金城 賢吾,高橋 拓矢,芳賀 貴裕	皮膚科	【Sjogren症候群の最近の知見】結節性紅斑様皮疹を契機に診断できた若年成人のSjogren症候群	皮膚病診療 ; 2024.09:46:802-805	Original Article
29	高橋 直樹,中澤 徹	眼科	緑内障診療におけるOCT angiographyの現状	眼科 ; 2024.12:66:1611-1617	Review
30	檜森 紀子,遠藤 雅俊,松原 雄介 他	眼科	目磨き文化の醸成として緑内障啓発活動の試み	あたらしい眼科 ; 2024.07:41:837-842	Original Article
31	新田 文彦,國方 彦志,佐々木 葉菜 他	眼科	後発白内障治療後の黄斑円孔網膜剥離に残留水晶体嚢移植と硝子体手術を行った1例	臨床眼科 ; 2024.04:78:479-484	Original Article
32	久岡 巧麻,平野 愛,太田 淳 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	症例をどうみるか 輪状軟骨の破壊を伴った炎症性偽腫瘍の1例	JOHNS ; 2025.01:41:127-130	Original Article
33	二宮 千裕,鈴木 淳,逸見 朋隆 他	耳鼻咽喉・頭頸部外科	当科における嗅覚障害患者42例の検討	耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ; 2024.08:96:757-762	Original Article
34	依田 信裕,佐藤 奈央子,互野 亮 他	咬合回復科	腭骨皮弁による下顎骨再建後の骨リモデリング 臨床データとComputer-Aided Engineeringによる生体力学的解析	顎顔面補綴 ; 2024.06:47:6-13	Original Article
35	高井 良樹	病理部	【神経疾患におけるアフェシスの位置づけ】視神経脊髄炎関連疾患におけるアフェシス	日本アフェシス学会雑誌 ; 2024.05:43:81-87	Review
36	関 修,細川 真梨,石岡 夏子 他	輸血・細胞治療部	末梢血幹細胞採取におけるHematopoietic Progenitor Cells(HPC)測定の有用性の検討	日本検査血液学会雑誌 ; 2024.07:25:234-241	Original Article
37	谷河 篤,石川 ちさと,千田 真一 他	高度救命救急センター	Immediate Cardiac Life Supportコースにおけるスキルステーションとしての“チームダイナミクス”の導入と検証	日本救急医学会関東地方会雑誌 ; 2024.12:45:160-164	Original Article

38	有田 龍太郎, 菊地 章子,小 野 理恵 他	総合地域医療教育支援部	炎症性腸疾患の治療において, 漢方エキス製剤より煎剤で寛解 維持が可能となった2例	日本東洋医学雑誌; 2025.01:76:28-34	Original Article
39	有田 龍太郎, 神谷 哲治,金 子 聡一郎 他	総合地域医療教育支援部	漢方医学の卒前教育に活用で きる気血津液体質チェックアン ケートの開発と妥当性の検討	日本東洋医学雑誌; 2024.04:75:152-167	Original Article
40	久米井 亨仁, 加地 仁,泉田 明男 他	総合歯科診療部	咀嚼時の力を測る新システムの 開発に関する研究 テクス チャーの異なる食品に対する咀 嚼力の比較検討	日本総合歯科学会 雑誌; 2024.10:16:5- 12	Original Article
41	互野 亮,白石 成,千葉 智弘 他	顎顔面口腔再建治療部	東北大学病院嚥下治療セン ター・歯科における筋萎縮性側 索硬化症患者に対する介入の 実態 舌接触補助床の適用につ いて	顎顔面補綴; 2024.06:47:14-20	Original Article
42	高木 愛理,高 山 真	臨床試験データセンター	COVID-19急性期治療に対する 漢方薬と経口抗ウイルス薬治療 の臨床研究論文レビュー	日本東洋医学雑誌; 2024.04:75:168-175	Original Article
43	佐藤 智哉	歯科インプラントセンター	下顎片側遊離端欠損に対してイ ンプラント補綴治療を行った1症 例	日本口腔インプラ ント学会誌; 2024.09:37:E207- E208	Original Article
44	依田 信裕,小 山 重人	歯科インプラントセンター	【インプラントの咬合を再考す る】インプラント治療における力 の制御を再考する	日本口腔インプラ ント学会誌; 2024.09:37:221-228	Review
45	水口 敦史,菊 地 正史,成田 佳奈 他	薬剤部	簡易懸濁法を用いて在宅でオン セルチニブを経管投与した非小 細胞肺癌の一例	医薬品相互作用研 究; 2024.06:48:18- 23	Original Article
46	千国 楓,遠藤 良仁	看護部	新人看護師における看護記録 作成能力の獲得過程に関する 要因分析 5年目看護師の振り返りから	日本医療情報学会 看護学術大会論文 集; 2024.08:25 回:207-210	Original Article
47	大久保 礼由, 菅原 新吾,鈴 木 千恵 他	診療技術部	フローサイトメトリー検査実践講 座2023 MALTリンパ腫の経過 中にT細胞リンパ腫を発症し診 断に苦慮した1症例	日本臨床検査医学 会誌; 2024.09:72:761-767	Original Article
48	西川 純子, 佐々木 克幸, 武田 卓也 他	診療技術部	免疫血清検査における試薬間 差の検討 腫瘍マーカー10項目 と甲状腺関連7項目の相関	医療検査と自動化; 2024.11:49:523-538	Original Article
49	川畑 朋桂,上 山 祥子,小野 寺 崇	診療技術部	股関節X線撮影における銅フィ ルタ付加の有用性と線量低減の 可能性	日本放射線技術学 会雑誌; 2024.10:80:1017- 1025	Original Article
50	竹内 雅史	診療技術部	「心疾患患者に対する理学療法 のアップデート」(第1回) 急性期 心不全患者の重症化予防として の理学療法	理学療法学; 2025.02:52:51-61	Review

51	知花 信,柳原宏幸,小黒 草太 他	放射線診断科	エキスパートによるIVR症例集 BRTO困難症例に対してCARTO 変法を用いて良好な塞栓効果を得られた一例	Rad Fan ; 2024.10:22:58-60	Original Article
52	菅野 武,只野恭教,前嶋 隆平 他	消化器内科	ストレス潰瘍 2024 ストレスと胃・十二指腸潰瘍 災害時精神的ストレスによる潰瘍発生と、特発性潰瘍に含まれるストレスの影響について	潰瘍 ; 2024.09:51:24-30	Review
53	松本 諒太郎,菊田 和宏,滝川 哲也 他	消化器内科	慢性膵炎における骨格筋量と膣画像所見に関する検討	消化と吸収 ; 2024.07:46:123-129	Original Article
54	尾形 洋平,八田 和久,小池智幸 他	消化器内科	高リスク患者における,blue light imaging,linked color imagingによる食道扁平上皮癌スクリーニング 多施設共同ランダム化比較試験	Gastroenterological Endoscopy ; 2024.12:66:2694-2705	Original Article
55	菊田 和宏,松本 諒太郎,滝川 哲也 他	消化器内科	慢性膵炎における生活習慣改善の意向と生活習慣の実態	胆膵の病態生理 ; 2024.06:40:57-59	Original Article
56	菊田 和宏,松本 諒太郎,滝川 哲也 他	消化器内科	慢性膵炎患者における食習慣の検討	消化と吸収 ; 2024.07:46:165-170	Original Article
57	立花 眞仁	産科	ミトコンドリア遺伝病の伝搬防止へ向けた配偶子系列遺伝子治療 MST法の開発からヒトへの応用	日大医学雑誌 ; 2024.09:83:85-90	Review
58	佐藤 麻美子,田上 恵太,田上 佑輔 他	緩和医療科	継続的な緩和ケアアウトリーチによる訪問看護師の緩和ケアの困難感・自信・意欲の変化に関する縦断調査	Palliative Care Research ; 2024.:19:279-284	Original Article
59	神 一敬,植松明和,内山 真他	てんかん科	臨床神経生理研修カリキュラムが定める到達目標グレードの妥当性の検討 アンケート調査およびカリキュラム確定に至る過程	臨床神経生理学 ; 2024.04:52:95-111	Original Article
60	柿沼 一雄,大沢 伸一郎,菊地 花 他	リハビリテーション部	超選択的Wadaテストで言語優位半球と言語性記憶力の側方性不一致が示された側頭葉てんかんの1例	神経心理学 ; 2024.09:40:231-241	Original Article
61	福永 智広,吉澤 光弘,茂見翔平 他	矯正歯科	下顎右側第二,第三大臼歯の近心移動を行った上顎両側側切歯先天性欠如を伴う上顎前突症例の機能的改善	Clinical and Investigative Orthodontics (Japanese Edition) ; 2024.09:83:63-72	Original Article
62	小田島 健二,野上 晋之介,大竹 義雄 他	歯科顎口腔外科	当科における顎関節滑膜軟骨腫症の臨床画像診断学および病理組織学的検討	日本顎関節学会雑誌 ; 2024.04:36:27-34	Original Article
63	柳沢 佑太,野上 晋之介,岩間 亮介 他	歯科顎口腔外科	陳旧性両側顎関節脱臼に両側下顎枝垂直骨切り術を行った1例	日本口腔外科学会雑誌 ; 2024.09:70:379-384	Original Article

64	原田 章生	咬合修復科	Tooth wearを伴う欠損歯列に対し固定性補綴装置で審美・咬合を回復した症例	日本補綴歯科学会誌 ; 2024.04:16:275-278	Original Article
65	Watanabe K, Ohnuma S, Unno M	総合外科	[Short bowel syndrome in adults].	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. 2025 ; 122(3):169-177.	Original Article
66	Sasahara Y	小児科	[Current Status and Perspective of Medical Setting for Pediatric Cancers in Japan].	Gan To Kagaku Ryoho. 2024 May ; 51(5):485-490.	Original Article
67	Nakagawa, K. Sato, H. Iseki, M. Aoki, S. Kusaka, A. Douchi, D. Miura, T. Ishida, M. Mizuma, M. Unno, M.	外科病態学講座(消化器外科学分野)(臨床)	II. Precision Medicine in Cholangiocarcinoma	Gan to kagaku ryoho. Cancer & chemotherapy	Others
68	柿沼一雄, 大沢伸一郎, 菊地花, 太田祥子, 勝瀬一登, 土屋真理夫, 浮城一司, 神一敬, 遠藤英徳, 中	リハビリテーション部	超選択的Wadaテストで言語優位半球と言語性記憶力の側方性不一致が示された側頭葉てんかんの1例	神経心理学, 40, 231-241	Original Article

計68件

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 主に倫理委員会の体制や申請の要件、倫理委員会審査まで流れ、申請手続き、様式一覧、その他留意すべき事項など。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 東北大学利益相反マネジメントポリシーに基づき、役職員が産学官連携活動その他の社会貢献活動を行う上での利益相反を適正に管理するために必要な事項を定めることにより、本学の社会貢献の推進を図ることを目的とする。 利益相反マネジメント推進体制、利益相反マネジメントの実施方法など。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年8回
・ 研修の主な内容	

臨床研究の倫理・手続と医師の働き方改革、ICH-GCPが変わる！ GCP renovationのポイントと考
え方、プログラム医療機器審査のポイント、改めて基本から考える研究倫理、事例を踏まえた臨
床研究実施の留意点2024、医療研究開発における『社会共創』について、再生医療等安全性確
保法に基づく臨床研究と法改正について、臨床研究の品質マネジメント

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院の研修では、各領域の多数の専門医・指導医の指導の下、豊富な高度医療設備を用いて、将来の専門医・指導医資格の取得のため、日々高度な医療の習得に努めています。最先端医療や稀少症例、難治症例を経験するだけでなく、連携病院と協力し各領域の多様な症例を経験することにより、全人的な診療能力を持つ専門医を養成しております。また、併行して大学院で学位を取得することも可能であり、医師・歯科医師のみならず教育者、研究者を養成し社会に貢献しております。

新専門医制度による専門医研修において、19の基本領域全ての専門研修プログラムを整備しております。さらに、臨床研修から基本領域の専門研修、サブスペシャリティ領域での専門研修、大学院進学等、シームレスな医師養成を行っております。また、当院の専門研修プログラムでは、当院のみならず多くの連携病院と協力し、各人の希望やニーズを考慮し各人毎に最適なプログラムでの研修を行えるよう整備しています。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	191.0 人
-------------	---------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
阿部 倫明	内科(総合診療科)	准教授	31年	
安田 聡	循環器内科	教授	38年	
馬場 啓聡	総合感染症科	助教	16年	
田中 哲洋	腎臓・高血圧内科	教授	30年	
張替 秀郎	血液内科	教授	39年	
藤井 博司	リウマチ・膠原病内科	教授	29年	
片桐 秀樹	糖尿病代謝・内分泌内科	教授	38年	
角田 洋一	消化器内科	講師	25年	
中瀬 泰然	加齢・老年病科	准教授(特命教授)	31年	
高山 真	漢方内科	准教授	28年	
金澤 素	心療内科	准教授(特命教授)	34年	
杉浦 久敏	呼吸器内科	教授	33年	
川上 尚人	腫瘍内科	教授	19年	
海野 倫明	総合外科(肝胆膵・移植グループ)	教授	39年	
大沼 忍	総合外科(下部消化管グループ)	准教授(特命教授)	31年	
亀井 尚	総合外科(上部消化管・血管グループ)	教授	34年	
宮下 穰	総合外科(乳腺・内分泌グループ)	教授	22年	

和田 基	総合外科（小児外科グループ）	教授	31年	
齋木 佳克	心臓血管外科	教授	35年	
相澤 俊峰	整形外科	教授	36年	
今井 啓道	形成外科	教授	32年	
岡田 克典	呼吸器外科	教授	38年	
山内 正憲	麻酔科	教授	34年	
齋藤 昌利	婦人科/産科	教授	26年	
伊藤 明宏	泌尿器科	教授	35年	
青木 正志	脳神経内科	教授	35年	
金森 政之	脳神経外科	准教授	30年	
富田 博秋	精神科	教授	36年	
菊池 敦生	小児科・小児腫瘍科	教授	23年	
浅野 善英	皮膚科	教授	27年	
中澤 徹	眼科	教授	30年	
香取 幸夫	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	38年	
海老原 覚	リハビリテーション科	教授	35年	
高瀬 圭	放射線科	教授	36年	
古川 宗	救急科	助手	26年	
鈴木 貴	病理部	教授	35年	
山田 聡	歯科（歯周病科）	教授	31年	
山内 健介	歯科顎口腔外科	教授	26年	
齋藤 幹	小児歯科	教授	24年	
金高 弘恭	矯正歯科	教授	32年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容：看護実践を担う看護職員に対して、ジェネラリストとしての看護実践能力向上とキャリア開発のために「東北大学病院看護部看護実践能力開発システム（TNADS）」を導入している。TNADSの柱としてクリニカルラダーがあり、看護実践、看護管理、教育・研究、人間形成の4領域と4段階の熟達レベルで教育プログラムを組み集合・オンラインで実施している。このTNADSを中心に研修を実施しているが、その他スキルアップを目的とする研修や看護補助者を対象とした研修を実施している。
- ・がん診療連携拠点病院としてがん看護教育にも取り組んでおり、院内外の受講生を対象にELNEC-Jの研修を2日間の日程で開催した。院内より17名の受講生が参加した。
- ・研修の期間：令和6年4月～令和7年3月・実施回数：65回
- ・研修の参加人数：のべ 4167名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・研修の主な内容：質の高い看護を提供するために、看護管理者が人材の育成に関わりながら組織運営に関する資質を高める支援についての研修を、集合で実施している。
- ・研修の期間：令和6年4月～令和7年3月・実施回数：3回
- ・研修の参加人数：のべ 315名

② 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容：「東北大学病院看護部看護実践能力開発システム（TNADS）」のリーダー看護師育成研修プログラムの参加を、県内の医療機関に募っている。
- ・がん診療連携拠点病院としてがん看護教育にも取り組んでおり、院内外の受講生を対象にELNEC-Jの研修を2日間の日程で開催した。院外より19名の受講生が参加した
- ・特定行為研修の受け入れを行っている。

・研修の期間：令和6年4月～令和7年3月・実施回数：29回

・研修の参加人数：のべ 162名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 張替 秀郎
管理担当者氏名	総務課長 池崎 貴寿、医事課長 山田 こずえ

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	医療情報管理課、
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究推進室
		高度の医療の研修の実績	総務課
		閲覧実績	医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部
第一規則	医療に係る安全管理のための指針の整備状況 医療に係る安全管理のための委	地域医療連携課	年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。
		地域医療連携課	

		員会の開催状況		
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	地域医療連携課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	地域医療連携課	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	地域医療連携課	年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	地域医療連携課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	地域医療連携課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	地域医療連携課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理室	電子ファイルで保管（医薬品安全管理室内規及び医薬品安全管理手順書）
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理室	都度、電子ファイルで保管。
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理室	毎月整理し、電子ファイルと紙媒体で保管。
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理室	年度毎に整理し、電子ファイルで保存している。
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器安全管理室	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに整理し、紙媒体にてファイル保存している。 ・安全使用のため不具合情報・安全情報等について、R5年度より全ての情報を徴収するため業者へ協力依頼をした。
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況		
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況			
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況			

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	地域医療連携課	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	地域医療連携課	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理室	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	地域医療連携課	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	地域医療連携課	
		医療安全管理部門の設置状況	地域医療連携課	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	地域医療連携課	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理室	会議資料等を電子ファイルで保管。
			地域医療連携課	年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。
		監査委員会の設置状況	地域医療連携課	年度毎に整理し、紙媒体にてファイル保存している。
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	地域医療連携課	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	地域医療連携課	管理者が有する権限に関する状況、管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況、開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況がわかる資料は、いずれも紙・電子媒体で管理している。
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	地域医療連携課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	地域医療連携課	
		職員研修の実施状況	地域医療連携課	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	地域医療連携課	
管理者が有する権限に関する状況	総務課			
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	総務課			
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課			

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 張替 秀郎
閲覧担当者氏名	総務課長 池崎 貴寿、医事課長 山田 こずえ
閲覧の求めに応じる場所	・会議室
閲覧の手続の概要 閲覧については、諸記録ごとの管理部署が担当窓口となり、請求手続きに応じている。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延 0 件
閲覧者別	医師	延 0 件
	歯科医師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 『東北大学病院の医療に関する安全管理指針』</p> <p>(1) 患者に対する十分なインフォームド・コンセント及びその同意に基づく医療従事者との良好な信頼関係のもとに、患者本位の全人的な医療及び安全な医療を提供する。</p> <p>(2) 医療における基本の徹底及びその質の向上を図るとともに、すべての医療従事者の意識改革及び啓発を図るため、教育・研修及び講演会等を定期的に開催する。</p> <p>(3) 医療従事者自らが、医療行為の基本的事項を日々点検・確認し、事故又はインシデント事例が発生した場合は直ちに所属責任者に報告するとともに、患者及び関係者に説明の上適切に対処し、速やかに事故内容等の検討及び再発の防止対策を講ずる。</p> <p>上記3つの事項を遂行するため、次に掲げる組織及び体制を整備する。</p> <p>① 医療安全管理責任者 本院に、病院長を補佐し、医療安全推進委員会、医療安全推進室、医薬品安全管理室、医療機器安全管理室及び医療放射線安全管理室を統括する者として医療安全管理責任者を置き、副病院長（医療安全担当）をもって充てる。</p> <p>② 医療安全推進委員会 本院における医療の安全管理体制の確保、研修等の企画・実施、及び、次のイからホのインシデントについて、医療安全推進室からの報告を受け、改善策の検討と実施状況の確認を行う。 イ 分類別、職種別、レベル別の月間分析結果 ロ 分類別（薬剤、チューブ、転倒転落等）の年間分析結果 ハ レベル3 b以上の事案についての詳細とその改善状況 ニ 警鐘的事例に関すること ホ その他、重大事例に関すること</p> <p>③ 医療安全推進室 医療に関する安全管理指針に基づき、本院における医療事故の防止及び医療の質と安全性を一層向上させるため、その遂行に必要な組織全体のシステムを構築する。</p> <p>④ 専門部会・ワーキンググループ 専門の事項や特定の分野に関する事案に対応するため、医療安全推進室に専門部会・ワーキンググループを置くことができる。</p> <p>⑤ リスクマネジャー会議 医療安全推進室の下部組織として、各診療科、看護部、各中央診療施設等及び事務部等の中核となる実務担当等で構成し、医療事故等の未然防止について具体的な安全対策を推進し、事故又はインシデントレポートの検証及び再発防止策の策定等を行う。</p> <p>⑥ 医薬品安全管理室 本院における医薬品の安全管理体制の確保を図るため、手順の作成、情報の収集及び研修等を行う。</p> <p>⑦ 医療機器安全管理室 本院における医療機器の安全管理体制の確保を図るため、手順の作成、情報の収集及び研修等を行う。</p> <p>⑧ 医療放射線安全管理室 本院における医療放射線の安全管理体制の確保を図るため、手順の作成、情報の収集及び研修等を行う。</p> <p>⑨ インシデント対応委員会 本院において重大なインシデントが発生した場合に、直ちに当該インシデントの事実関係を確認し、適切かつ必要な対応策を検討する。</p>	

また、患者・家族への対応について病院としての判断・見解を検討し、初期対応を決定する。

- ⑩ 医療事故調査委員会
医療安全推進委員会及び医療安全推進室とは別組織とし、医療事故の報告を受けた病院長が必要と認めるときは、当該関係者を招集して医療事故の調査等を行う。
- ⑪ 特別医療事故調査委員会
病院長は、医療法第6条の10第1項に定める医療事故が発生したときは、当該関係者を招集して医療法第6条の11第1項に規定する医療事故調査等を行う。
- ⑫ 高難度新規医療技術
高難度新規医療技術等を用いた医療を提供する場合は、関係学会から示される「高難度新規医療技術の導入にあたっての基本的考え方」やガイドライン等を参考に実施する。

② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無 (・ 無)
- ・ 開催状況：年 12 回
- ・ 活動の主な内容：
医療安全推進委員会
以下の内容についての審議及び報告を行う。
 - ・ 医療に関する安全管理指針に関すること。
 - ・ 医療の安全管理体制の確保に関すること。
 - ・ 医療事故等の防止対策の検討及び推進に関すること。
 - ・ 医療の安全管理のための教育及び研修に関すること。
 - ・ 発生した医療事故及び医事紛争への対応方法及び情報収集の方針に関すること。
 - ・ 医薬品、医療機器及び医療放射線の安全管理に関すること。
 - ・ 重大な問題その他医療安全推進委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。
 - ・ 上記の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに院内に勤務する者への周知に関すること。
 - ・ 上記に関する改善方策の実施状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。
 - ・ 入院患者が死亡した場合は、当該死亡の事実及び死亡前の状況、入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときは、当該事象の発生の事実及び発生前の状況について、報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
 - ・ 上記に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための院内に勤務する者への研修及び指導に関すること。
 - ・ その他医療の安全管理等に関すること。

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 2 2 回

- ・ 研修の内容 (すべて)：
 - ・ 医療安全に係る情報提供
 - ・ 医療安全に関する意識の向上のための情報提供
 - ・ 医療安全に関する基本的知識の確認
 - ・ 医療事故事例の紹介

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施

状況

- ・医療機関内における事故報告等の整備 (・無)
- ・その他の改善のための方策の主な内容：
 - 事故又はインシデント事例が発生した場合は直ちに院内インシデント報告制度に基づき医療安全管理部門へ報告する。
 - 事故又はインシデント事例の報告を受けた安全管理部門は院内マニュアルに従い事例についての情報を収集、分析を行い、問題点を把握し改善策を検討する。
 - 重大事例の発生時には院内マニュアルに従い速やかに管理者へ報告を行い、必要に応じて事故調査委員会を設置、原因の分析を行うと共に効果的な再発防止策を検討する。
 - 毎月の医療安全推進委員会において、月次インシデントの集計報告及び3b以上の事例の報告を行っており、院内のインシデントの発生状況の把握に努めている。また、院内のインシデントから警鐘的な事例を毎月1例取り上げて、事案の分析や再発防止策の検討等を医療安全推進委員会で行っている。
 - 毎年度1回、全病棟及び外来棟に対し医療安全巡視を行い、医療安全に係る業務について適切に行われているかの確認及び指導を行っている。また、全体巡視に加えて、GRMが月数回、病棟を巡視しており、院内における医療が適正に実施されているかを適宜確認している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指針の主な内容： ・院内感染対策に関する基本的考え方 ・感染対策のための委員会 ・感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 ・感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ・院内における感染症発生時の対応に関する基本方針 ・患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ・その他の感染対策の推進のために必要な指針 <p>『東北大学病院における感染対策の指針』 医療関連感染に対する、医療従事者の標準予防策並びに手指衛生を始めとする基本的な感染対策の確実な実施を行うための指針である。具体的には以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染対策のための委員会 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染対策に関する委員会として病院長を含む感染対策委員会を設置する。感染対策委員会は、医療関連感染の発生防止、並びに発生時の対応等、院内感染対策に関する必要な事項を審議・決定する。 2) 感染対策委員会の下部組織として感染対策実務委員会を置く。感染対策実務委員会は、院内の問題点を把握し、感染防止対策の実務を行い、各委員は委員会での決定事項を所属部署に周知する。 3) 当院の感染対策全般について総合的な管理を行うため、感染管理室を置き、感染対策活動の総責任者として院内感染管理者を置く。 4) 感染管理室の業務を職種横断的に遂行するための組織として、各職種からなるICT (Infection Control Team) を置き、感染に関する課題の抽出・解決、感染対策活動の周知徹底、各部署での教育等を行う。 5) 抗菌薬の適正使用を推進するための組織として、AST (Antimicrobial Stewardship Team) を置き、感染症を発症した患者が適切な抗菌薬治療を受けているかどうかを多職種からなる専門家チームで評価、管理し、必要に応じて主治医に助言するなどの支援を行う。 2. 感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染管理室並びにICTが中心となり、全職員を対象に具体的な研修の立案・実践を行う。 2) 感染対策に関する必要な知識・技能を維持向上できるように、年2回以上の講習会を実施する。 3) ICTによる職場巡視、各部門の感染対策担当者による日々の活動を通じて、継続的な教育・啓発を実施する。 3. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染管理室並びにICTは感染対策の実施のため、院内感染防止対策の立案、及び具体的な遵守事項を定めるマニュアルを作成する。 2) 感染管理室は、微生物検査情報などをもとに院内における感染症発生動向について把握し、手指衛生の遵守、地域における病原体の伝播、抗菌薬使用状況なども踏まえた抗菌薬の適正使用について、ICT及びASTとともに機動的な感染対策を立案・実施する。 3) 感染管理室は職員のワクチン接種など職業感染対策を積極的に推進するとともに、針刺し切創・体液曝露事例が発生した場合においては、情報の収集並びに感染防止に関する対応を行う。 4) 感染対策委員会並びに感染対策実務委員会は、感染管理室、ICT及びASTの活動について報告を受けるとともに、報告事項を当院の最重要事項として対応する。 4. 院内における感染症発生時の対応に関する基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1) 感染症の伝播並びに集団感染事例が発生もしくは疑われる際には、第一に患者及び職員の生命及び健康と安全を最優先に考え行動する。 2) 患者並びに家族への連絡・説明は速やかに、主治医もしくは当該科の上席医師が率直に事実を話すとともに、事実のみを客観的かつ正確に記録する。また患者並びに家族への説明内容などについて詳細に診療録等に記録する。 3) 当該部署は状況について感染管理室へ報告する。感染管理室はICTとともに情報の収集並びに当面の対策について立案・実施し、病院長に報告する。 4) 死亡又は重大な障害が発生した場合、又はその疑いがある場合には事務部長は病院長の指示を仰ぎ、速やかに所轄警察署・保健所・東北厚生局に届出をし、報告を行う。 	

<p>5) 集団感染事例が発生した場合は、速やかに事故原因の究明、今後の対応策等を検討する。調査は感染対策委員会の構成員に加え、関係部署を加えて構成する。必要に応じて、保健所や東北厚生局など外部の専門家を加え、客観的な判断を加えることに努める。又、公表の必要性と方法を協議し、病院長が決定する。</p> <p>5. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 本指針は患者及びその家族等から閲覧の求めがあった場合はこれに応じるものとする。</p> <p>6. その他の感染対策の推進のために必要な指針 感染対策マニュアルなど、その他の感染対策の推進のために必要な指針は、別途定める。</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策のための委員会の管理及び運営に関する規程の整備を行うこと。 ・重要な検討内容について、院内感染発生時及び発生が疑われる際の患者への対応状況を含め管理者へ報告すること。 ・院内感染が発生した場合は、速やかに発生の原因を分析し、改善策の立案及び実施並びに従業者への周知を図ること。 ・院内感染対策委員会で立案された改善策の実施状況を必要に応じて調査し、見直しを行うこと。 ・医療関連感染の発生防止、並びに発生時の対応等、院内感染対策に関する必要な事項を審議決定すること。 ・感染管理室、ICT及びASTの活動について報告を受けるとともに、報告事項を当院の最重要事項として対応すること。 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
<p>・研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内感染対策のための基本的考え方及び具体的方策についての研修会 (新規採用者対象オリエンテーション) ・院内感染管理に則した研修(感染対策に関するインターネット研修) 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・病院における発生状況の報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： <p>「院内感染対策のための指針」に則した院内感染対策マニュアルの整備及び見直し、更には毎月の感染対策委員会において、サーベイランス対象菌種検出症例数の月次報告を行っており、院内の感染症の発生状況の把握に努めている。</p> <p>また、医師・看護師・薬剤師、臨床検査技師の4職種が、毎週、週1回、全病棟30部署のラウンドを実施または、外来・中央診療部門もラウンドすることによって、感染症防止対応が適切に行われているかの確認及び指導を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 31 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品の有効性・安全性に関する情報、使用方法に関する研修 ・ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書についての研修 ・ 医薬品による副作用等が発生した場合の対応に関する研修 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順書の作成 (有・無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内で用いる医薬品の採用及び購入に関する業務 ・ 医薬品の管理に関する業務 ・ 患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する業務 ・ 患者に対する与薬 ・ 未承認等医薬品の使用に関すること 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)： <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡観察時の鑑別に用いる3%検査用ルゴール液20mLなどの院内製剤を含め、診療科から申請/届出のあった未承認等医薬品 (全346件, 令和6年度対象品目) や、薬剤師が把握した未承認等医薬品の情報を管理している。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 疑義照会事例、副作用報告事例、インシデント事例、医薬品添付文書改訂に伴う注意事項等の医薬品情報を収集し、院内の医薬品の使用状況や注意事項を周知 ・ 医薬品安全管理室の指示のもと、薬剤師が病棟 (月1回) 及び外来診療科 (2~3ヶ月に1回) の巡視を実施 ・ 医薬品安全管理室巡視を毎年実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無											
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年83回											
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○新規導入機器は購入依頼時に研修対象者をリスト作成し、機器使用前の研修を実施 ○特定機能病院における定期研修について、年2回以上定期的に研修を実施 ○医療機器の有効性・安全性に関する事項 ○医療機器の使用法に関する事項 ○医療機器の保守点検に関する事項 ○医療機器の不具合等が生じた場合の対応に関する事項 ○医療機器の使用に関しての法令遵守に関する事項 ○その他新規採用者及び中途採用者・復職者を対象とする研修を実施 												
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>機器</th> <th>保守点検の主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>人工心肺装置及び補助循環装置</td></tr> <tr><td>人工呼吸器</td></tr> <tr><td>血液浄化装置</td></tr> <tr><td>除細動装置</td></tr> <tr><td>閉鎖式保育器</td></tr> <tr><td>CTエックス線装置</td></tr> <tr><td>診療用高エネルギー放射線発生装置</td></tr> <tr><td>診療用放射線照射装置</td></tr> <tr><td>磁気共鳴画像診断装置</td></tr> </tbody> </table>	機器	保守点検の主な内容	人工心肺装置及び補助循環装置	人工呼吸器	血液浄化装置	除細動装置	閉鎖式保育器	CTエックス線装置	診療用高エネルギー放射線発生装置	診療用放射線照射装置	磁気共鳴画像診断装置	<p>始業点検・終業点検・日常点検・定期点検 外部委託定期点検</p>
機器	保守点検の主な内容											
人工心肺装置及び補助循環装置												
人工呼吸器												
血液浄化装置												
除細動装置												
閉鎖式保育器												
CTエックス線装置												
診療用高エネルギー放射線発生装置												
診療用放射線照射装置												
磁気共鳴画像診断装置												
上記保守点検について												
<ul style="list-style-type: none"> ① 実施状況、使用状況、修理状況、購入年度の把握及び記録 ② 保守点検実施状況の評価及び医療安全の観点からの保守点検の見直し 												
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況												
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例(あれば)： <ul style="list-style-type: none"> ○婦人科における術後癒着防止を目的とした子宮内避妊器具の適用外使用：1件 ○リハビリテーション科(肢体不自由リハビリテーション科)における上下肢麻痺を治療するためのパスリーダーの適応外使用：29件 ○保存修復科(歯内療法科)における歯根端切除術の逆根管充填剤としてMTAセメントを適用外使用する：32件 ○食道癌手術における再建臓器挙上時の周囲臓器保護のための人体開口部用超音波ブローベカバーの適用外使用：54件 ○呼吸器外科における胸腔鏡手術のためのNK綿棒の適用外使用：293件 ○形成外科における高度な上顎低形成を呈する患者のための国内未承認医療機器 The Leipzig retension plate setの未承認使用：3件 ○Chimney/periscope法を用いた腹部大動脈ステントクラフト治療における腎動脈・上腸間膜動脈へのVIABAHNステントグラフトの使用：2件 ○腕頭動脈・腋窩動脈・総頸動脈・大腿動脈損傷に対する緊急止血処置としてのVIABAHN使用：1件 ○形成外科における内視鏡下口蓋形成手術のためのステンレス製内視鏡アタッチメント(未承認機器)の使用：8件 ○形成外科における内視鏡下口蓋形成手術のための内視鏡の適応外使用：8件 												

○歯科顎口腔外科における、抜歯などの歯槽外科手術、顎変形症手術、口腔がん手術、顎骨嚢胞手術、骨折手術、顎骨再建手術の骨切削のために用いる医療機器：エラン4の適応外使用：882件

○歯周病科における歯周組織再生治療のためのサイトランス グラニューールの適用外使用：1件

○産科における分娩後胎盤残治療のための胎盤鉗子の未承認等医療機器使用：1件

・ その他の改善のための方策の主な内容：

○未承認等医療機器を使用した診療に関する届出、治験・臨床研究に関しては倫理委員会の情報から使用状況の情報収集。

○添付文書等の管理

○医療機器に係る安全性情報の収集と病院管理者への報告

○毎月第一木曜日の「医療機器点検の日」実施による医療機器の点検及び院内の意識啓発

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（<input checked="" type="checkbox"/>医師・<input type="checkbox"/>歯科医師）</p> <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者として医療安全担当副院長が、医療安全管理部門（医療安全推進室）、医療安全管理委員会（医療安全推進委員会）、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者及び医療放射線安全管理責任者を統括している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> （ 1名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>手順書に基づき医薬品情報を収集し、緊急度に応じた周知を実施している。また、必要に応じて院内の医薬品の使用状況について調査し、改善が必要とされる事項については、医療安全推進委員会等を通じて周知している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理室が未承認等医薬品に関する担当部門として規定されており、診療科から申請された未承認等医薬品の使用条件等について審議している。未承認等医薬品のうち、未承認新規医薬品及び院内製剤については、未承認新規医薬品評価委員会を開催し、使用の条件等に関する意見を聴取している。また、臨床試験薬については特殊薬品として薬剤部で管理しており、未承認等の医薬品について把握している。これらの情報及び処方状況を管理するシステムを構築し定期的に処方状況等について確認している。</p> <p>・担当者の指名の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無）</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 副薬剤部長 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ <input checked="" type="checkbox"/>有・無 ）</p> <p>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な</p>	

内容：

- ・ 文章による同意が必要な医療行為
- ・ 説明者
- ・ 複数の診療科が関わる場合（合同手術・依頼によって行われる検査・処置等）
- ・ 説明と同意の方法
- ・ 説明・同意書の運用
- ・ 説明の内容
- ・ 説明時の同席者
- ・ 説明の相手方
- ・ 同意の確認
- ・ 説明と同意に関する診療記録への記録
- ・ 緊急に医療行為が必要な患者の場合
- ・ 同じ治療を繰り返す場合の説明と同意のあり方 等

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

診療記録等に必要な事項の記載があるか、また記載内容に齟齬がないか等の点検のため、チェックシートを使用し、入院診療計画書、医師経過記録、インフォームド・コンセント、手術（侵襲的処置含む）記録、病名整理、退院時要約等の評価を行っている。なお、点検結果は、記載の質向上がなされるよう各診療科へフィードバックし、適切な記載方法について指導している。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

- ・ 所属職員：専従（4）名、専任（1）名、兼任（2）名
- うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（2）名
- うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
- うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・ 活動の主な内容：

◎医療安全推進室

- （1） 医療安全推進委員会に係る事務に関すること。
- （2） 医療事故、インシデント及び死亡事例の収集及び分析に関すること。
- （3） 医療の安全管理に係る教育・研修事業の企画及び運営に関すること。
- （4） 医療安全管理マニュアルに関すること。
- （5） 医療安全巡視の実施及び実施状況の把握・分析に関すること。
- （6） 医療安全確保のための業務改善計画書の作成、実施状況の確認及び評価結果の記録に関すること。
- （7） 患者等からの相談件数、相談内容、相談後の取扱いに係る医療安全管理者の活動実績の記録に関すること。
- （8） 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施及び記録に関すること。

- (9) 事故その他の医療安全推進室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく院内に勤務する者への必要な指導に関すること。
- (10) 医療に係る安全管理に係る連絡調整に関すること。
- (11) 医療の質の向上及び医療に係る安全の確保のための対策の推進に関すること。
- (12) 医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び院内に勤務する者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認に関すること（病理・画像レポート未読率、転倒転落発生率、リストバンド装着状況及び医療安全に関する全職員対象の多肢選択試験等）。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（3件）、及び許可件数（3件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 - ・ 高難度新規医療技術担当部門の設置について
 - ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の申請・確認・報告について
 - ・ 体制に変更があった場合の確認について
 - ・ 高難度新規医療技術評価委員会について
 - ・ 報告及び通知について
 - ・ 実施状況等の確認について
 - ・ センター長及び病院長への報告について
 - ・ 病院長からの停止命令について
 - ・ 審査資料等の保管について
 - ・ 秘密の保持について
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ 有 ・ 無 ）

・活動の主な内容：

- ・未承認新規医薬品を用いた医療の提供の申請・確認・報告について
- ・未承認新規医薬品を用いた医療の提供の廃止等について
- ・未承認新規医薬品評価委員会について
- ・報告及び通知について
- ・使用状況等の確認について
- ・センター長及び病院長への報告について
- ・審査資料等の保管について

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 574 件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 97 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全推進委員会で上記に関して以下の事項を所掌している（東北大学病院医療安全推進委員会内規第 2 条）

- (1) 重大な問題その他医療安全推進委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。
- (2) 前号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに院内に勤務する者への周知に関すること。
- (3) 前号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。
- (4) 入院患者が死亡した場合は、当該死亡の事実及び死亡前の状況、入院患者が死亡した場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときは、当該事象の発生の事実及び発生前の状況について、報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。
- (5) 前号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための院内に勤務する者への研修及び指導に関すること。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（（病院名：新潟大学医歯学総合病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（（病院名：大阪大学医学部附属病院）・無）

・技術的助言の実施状況

○新潟大学医歯学総合病院へ

・医療安全・有害事象の検討

【講評】

・インシデント報告数は昨年度 5897 件で病床数あたり約 7.1 件、医師・歯科医師報告数は 542 件であり全体の 8.2%と十分な収集が行われている。その他オカレンス報告の収集もしている。

・医療安全管理責任者が専従医師 GRM であり、レベル 3b 以上の事例については全例週に 1 回行

われている検討会で検討している。過失の有無等の判断が難しい場合は医療安全管理委員会で検討するなど適切なプロセスで行われている。

- ・院内死亡例は全例医療安全管理部門に必要な内容が報告されている。
- ・事例検討では重大事例に関し、医療安全管理部門が各部署と連携を取り適切に対応していることを確認した。

【技術的助言】

日本医療機能評価機構への義務報告が2週間以内にされていないものがあるが、2週間以内に報告されたものは後日の訂正が可能であるため、できる限り2週間以内に報告されるとなお良い。

- ・医薬品・未承認新規医薬品等

【講評】

- ・医薬品・未承認新規医薬品の管理を医師が主導する体制を構築しており、病院全体で医薬品及び医療機器に関する未承認・禁忌使用・適応外使用について適切に管理している。
- ・原則院内製剤を使用しない等の方針のもと院内製剤を積極的に削減している。
- ・重篤な副作用については、インシデントとして報告され、薬剤師 GRM が確認する体制としている。
- ・院外処方に関する疑義照会について薬剤疑義照会WGを開催し、院外での禁忌・適応外使用の把握に努めている。

【技術的助言】

重篤な副作用をPMDAに報告する体制が整っているが、件数が少ないことから積極的に報告することを期待する。なお、令和3年12月6日薬生安発1206第1号で報告対象の定義が見直されているため、参考にさせていただきたい。

- ・高難度新規医療技術

【講評】

- ・担当部門は医師・歯科医師・看護師・薬剤師の4職種8人で構成されている。評価委員会は医師・歯科医師・薬剤師・事務職員で構成されており、多くは担当部門と同一で効率的な運営を行っている。
- ・審査体制は稀少疾患に対する治療などで次の実施まで相当の時間が予想される物は症例ごと、比較的多い疾患に対するものなどはプロトコル毎とするなど合理的な対応をしている。
- ・高難度に該当するかどうかわからないものに関しても広く申請を受け付け審査している。
- ・インフォームド・コンセントは評価委員会内で議論され、必要な項目が説明されている。事前に書類確認や保険請求等を検討するプレビューチームの運用を検討している。
- ・実施から定期的なモニタリング、有害事象発生時の報告などは手順に則り適切に行われている。

【技術的助言】

- ・評価委員会の委員に看護師が入っていないが、実際には毎回必ず陪席しているとのことなので、看護師も正式に委員とされると良い。
- ・現在定期報告に関しては診療科からの報告によっているが、「担当部門による自発的なモニタリング」に関しても、当日の議論等も参考にして行われると良いと思われる。

- ・外部監査

【講評】

年に2回、毎年9月および3月頃に適切に開催されている。監査委員会で指摘された事項については、改善が図られ、次回の委員会で報告している。中途採用職員に対する就業前オリエンテーションや、ハラスメントを受けた職員に対するサポート体制についても、監査委員からの指摘に基づき適切に改善している点が評価される。

【技術的助言】

現在の外部監査委員の選定については、規定に基づき適切に行われているが、今後の実地監査を検討する際には、看護職を選定することで現場視点からの意見を得られる可能性があるため、検討していただきたい。

○大阪大学医学部附属病院から

- ・医療安全・有害事象の検討

【講評】

インシデントのうち影響度レベルの高いものについて、医療安全部門は関係部署からの電話連絡にて適時に把握していた。週1回のインシデント審議部会で必要な診療科・部署・多職種でディスカッションを行ったうえで、組織的な検討を要するものは、病院長・副病院長等を含むインシデント対応委員会で審議されることとなっていた（年3-4回）。当該委員会では、過誤の有無および医療事故調査制度の報告対象か否かが判断され、該当するものは外部委員を含む委員会（医療事故調査委員会、特別医療事故調査委員会）で議論されていた。

インシデント対応委員会で議論された具体的な2事例について、事例把握からプロセス検証、対策の検討の過程を聴取した。有効な対策が講じられており、対策はニュースやリスクマネージャー会議等で周知され、実施状況もモニタリングされていた。

医科・歯科双方が相互に密に連携し、一連の委員会等でのディスカッションから学習し、相互の医療安全向上に繋げていた。

インシデント報告に上がらない院内死亡・死産症例についても、適切に診療科から医療安全部門に報告され、電子カルテでの経過確認と必要な事例の検討がなされていること、副病院長・病院長への報告がなされていることを確認した。

特筆すべき院内医療安全教育として、全職員を対象としたKAIZEN勉強会の開催が挙げられる。多職種間の相互理解や、新たな改善策の提案や共有が生まれるものと期待される。

【技術的助言】

なし

- ・医薬品・未承認新規医薬品等

【講評】

・医薬品安全管理室が中心的な役割を担い、毎月の定例会議において、未承認新規医薬品や適応外・禁忌の使用実態の把握と、その審査承認状況が一元的に管理され、医薬品安全管理室会議で共有されていた。

・薬剤師が日常業務で把握した副作用情報も年間200例程度あり、内容を精査したうえで（医師から直接報告されたものも含め）50件程度もPMDAに報告されていた。

・病棟薬剤師が積極的に未承認新規医薬品等の実態把握と診療科への申請を促しており、情報収集と申請と審査のサイクルが確立されていた。全体として東北大学病院において医薬品安全管理の文化の醸成が進んでいると感じられた。

【技術的助言】

未承認新規医薬品等に関連する業務が多岐であり、労務負担が大きいことから、システム化の導入等、業務の効率化を図るための取り組みが望まれる。

- ・高難度新規医療技術

【講評】

審査部の業務を手術部運営委員会が兼ねており、評価委員会にて申請書類を確認された後、適切に高難度新規医療技術について審査がされていることを確認した。

院内で実施される高難度新規医療技術の申請漏れや報告漏れを防止するために、手術部にて高難度新規医療技術が予定された際に手術前に報告依頼を行っていること、また、医療安全推進室において手術予定を確認し、高難度新規医療技術の有無を事前に確認できる体制になっていることを確認した。複数回のチェックポイントを設定し、申請漏れが発生するリスクを減らす取り組みはすばらしいと感じた。

モニタリングについて、医療技術実施時、退院時、指定された期間まで行う体制が整えられていることは評価出来る。

また、高難度新規医療技術に関わる当該診療科での実施件数を説明文書に記載されている点や、高難度新規医療技術について手術部運営委員会の場や年2回リスクマネージャーへの周知をされている点

について、本院でも参考にさせていただきたい。

【技術的助言】

新規医療技術の実施を予定する診療科では、当該技術の実施を見越して事前に高難度新規医療技術の申請を行い、審査に2~3か月をかける運用を取っておられるとのことであった。しかし、場合によっては迅速な審査が求められるケースも想定されることから、申請から承認までの期間を短縮できる審査フローの整備についても、今後検討が必要ではないかと感じた。

・外部監査

【講評】

外部監査委員会の開催状況等について、自己チェックシート、委員会資料などにより確認を行いました。委員選定の要件、開催回数、委員によるヒアリング内容などを伺い、医療法施行規則及び東北大学医療安全監査委員会規程で規定されている要件を満たし適切に実施されていることを確認した。

また、外部監査委員会委員からの意見（指摘事項）に対しても、きめ細やかな対応をされており、改善に向けた取り組みが適切に進められていることを併せて確認した。

今後も外部委員の意見等を参考にし、継続的に医療にかかる安全管理を推進されることを期待する。

【技術的助言】

なし

⑩ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

地域医療連携センター内に、相談に応じる窓口を設置しており、相談担当者が対応している。必要に応じて、相談担当者からセンター長や医療安全管理者等に相談の上、適切に対処している。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

令和6年12月13日に専門医更新のための医療安全講習会（医療安全部門から見た誤嚥・窒息）、令和7年1月27日に医療倫理に関する講演会（本人の意思確認が困難なときにどうするか）を実施。

令和6年度は、その他は概ねe-learningを用いた研修を実施した。特定研修と題して特定機能病院の医療安全管理に関する事項等をメインにした研修を実施。監査委員会からの指摘に関しての内容や内部通報窓口に関する内容も入れている。

また、特定のテーマを定め、最新の知識を学習するブラッシュアップ研修を実施しており、職員のスキル向上に努めている。（急性腎不全、末期腎不全患者の治療における倫理を考える）

なお、平成29年度からは医薬品安全研修が開催されており、現在ではe-learningを活用して研修を実施している。

その他多職種参加のグループワーク形式の研修を年に3回実施している。

実施後の学習効果の測定は、毎年実施しているグラジオラス通信トリビア編によって検証している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

日本医療機能評価機構主催の2024年度特定機能病院管理者研修を以下のとおり受講

管理者：令和7年1月17日

医療安全管理責任者：令和7年2月14日 医薬品安全管理責任者：令和6年12月9日

医療機器安全管理責任者：令和7年1月17日

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・第三者による評価の受審状況

公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価（主たる機能種別「一般病院3」）の本審査を2020年11月に受審した。その後、2021年4月に補充的審査の受審を経て、同年6月4日付けで「条件付認定（6ヶ月）」という結果になった。条件付認定の場合、同機構から提示された改善要望事項に関して確認審査を受審する必要があるため、2022年5月25日に確認審査を受審し、同年7月8日付けで「条件付解除」となり、正式な「認定」となった。

当院は「高難度新規医療技術の実施後確認」「注射薬投与時の機械認証」「病理診断結果報告書の未読確認」について改善要望事項を示されており、これらに関して改善対策を講じ、継続的な実施を行い、一定の水準に達していると評価された。

・評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

日本医療機能評価機構のウェブサイトにて「一般病院3」の審査結果が公表されている。

・評価を踏まえ講じた措置

（高難度新規医療技術の実施後確認）

高難度新規医療技術に関する同意書の様式を改訂し、自院における実績や術者の経験、新規医療技術であるが故のリスクを記載するようにした。報告間隔を1年毎から半年毎に変更し、さらに診療科からの報告だけでなく、担当部署も直接診療録等を確認するようにした。

（注射薬投与時の機械認証）

注射剤の準備及び投与時のフローの見直しとダブルチェック手順について現状分析と目標設定の検討を行い、注射実施時の業務フロー及び注射剤の確認手順を見直した。注射オーダーのある施用単位抽出注射剤は、薬剤調整時の確認を簡略化し、誤薬防止に観点から投与直前には携帯情報端末を用いた機械認証を必須とする業務フローとした。この業務フローの変更について、看護師長会および看護部委員会（QM委員会）を通じて各部署への周知と徹底を図った。その後、部署ラウンドによるヒアリングと現場確認、各看護職員の認証実施率を経時的にモニタリングし遵守状況を可視化した。注射認証実施率の低い部署については、個別にヒアリングを行うとともに、各看護職員への指導を行い、誤薬防止策の徹底を図っている。

(病理診断結果報告書の未読確認)

病理所見の未読に関しては誰がどのレポートを確認していないかを明示したリストを作成し各診療科宛にリマインドを実施している。

上述の通り、改善要望事項についてはすでに改善されており、現在も継続的な取り組みを行っている。2025年5月に「病院機能評価（一般病院3）」の更新審査を受審した。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基準の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> 一 医療安全確保のために必要な資質及び能力 医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢や指導力等を有すること。 二 東北大学病院(以下「本院」という。)の管理運営上必要な資質及び能力 本院又は本院以外の病院での組織管理経験など、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有すること。 三 本院の理念等を実現するために必要な資質・能力 本院が掲げる基本理念と将来構想の実現を目指す強い意思とこれらを継続的かつ確実に推進する強力なリーダーシップを有すること。 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無) ・ 公表の方法 東北大学の病院長候補者選考会議のホームページを設置し、当ページ内で基準を公表している。 (参照 : https://www.bureau.tohoku.ac.jp/byouinchousenkou/index.html)

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無) ・ 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・合議体の主要な審議内容 病院の業務、運営、組織、将来計画等に関する事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 合議体（病院運営評議会）構成員への議事要旨の配付、構成員が属する部署内での情報共有 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） ・公表の方法 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>無） 	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
張替 秀郎	○	医師	病院長
江草 宏		歯科医師	総括副病院長
香取 幸夫		医師	副病院長
亀井 尚		医師	副病院長
正宗 淳		医師	副病院長
齋藤 正寛		歯科医師	副病院長
杉浦 剛		歯科医師	副病院長
浦山 美輪		看護師	副病院長
岡田 克典		医師	病院長特別補佐
石井 正		医師	病院長特別補佐
久志本 成樹		医師	病院長特別補佐
神宮 啓一		医師	病院長特別補佐
石田 孝宣		医師	病院長特別補佐
中里 信和		医師	病院長特別補佐
藤森 研司		医師	病院長特別補佐
田畑 雅央		医師	病院長特別補佐
大田 英揮		医師	病院長特別補佐
海野 倫明		医師	病院長特別補佐
高野 忠夫		医師	病院長特別補佐
中川 敦寛		医師	病院長特別補佐
青木 正志		医師	病院長特別補佐

中澤 徹		医師	病院長特別補佐
平野 雅春		医師	病院長特別補佐
青柳 哲史		医師	病院長特別補佐
飯久保 正弘		歯科医師	病院長特別補佐
山田 聡		歯科医師	病院長特別補佐
溝部 鈴		事務職員	病院長特別補佐
安田 聡		医師	循環器内科長
田中 哲洋		医師	腎臓・高血圧内科長
福原 規子		医師	血液内科長
藤井 博司		医師	リウマチ膠原病内科長
片桐 秀樹		医師	糖尿病代謝・内分泌内科長
中瀬 泰然		医師	加齢・老年病科長
金澤 素		医師	心療内科長
杉浦 久敏		医師	呼吸器内科長
川上 尚人		医師	腫瘍内科長
大沼 忍		医師	総合外科（下部消化管グループ）長
和田 基		医師	総合外科（小児外科グループ）長
齋木 佳克		医師	心臓血管外科長
相澤 俊峰		医師	整形外科長
今井 啓道		医師	形成外科長
山内 正憲		医師	麻酔科長
井上 彰		医師	緩和医療科長
島田 宗昭		医師	婦人科長
齋藤 昌利		医師	産科長
伊藤 明宏		医師	泌尿器科長
遠藤 英徳		医師	脳神経外科長
富田 博秋		医師	精神科長
菊池 敦生		医師	小児科長
青木 洋子		医師	遺伝科長
笹原 洋二		医師	小児腫瘍科長
浅野 善英		医師	皮膚科長
海老原 覚		医師	リハビリテーション科長
鈴木 匡子		医師	高次脳機能障害科長
高瀬 圭		医師	放射線診断科長
齋藤 幹		歯科医師	小児歯科長
五十嵐 薫		歯科医師	矯正歯科長
山内 健介		歯科医師	歯科顎口腔外科（形態機能グループ）長
水田 健太郎		歯科医師	歯科麻酔疼痛管理科長
依田 信裕		歯科医師	咬合回復科長
服部 佳功		歯科医師	口腔機能回復科長
江島 豊		医師	材料部長
鈴木 貴		医師	病理部長
宮崎 真理子		医師	血液浄化療法部長

小川 徹		歯科医師	総合歯科診療部長
小山 重人		歯科医師	顎顔面口腔再建治療部長
眞野 成康		薬剤師	薬剤部長
齋 政博		事務職員	診療技術部長
富田 有一		事務職員	事務部長
黒澤 一		医師	安全衛生管理室長
池田 浩治		医師	臨床研究推進センター長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

<p>管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 一部有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 病院長の予算権限については「東北大学会計規程」で定められており、当該規程はwebsite上で閲覧可能となっている。 病院長の人事権限については「東北大学病院の総括副院長及び副院長に関する申合せ」、「東北大学病院病院長特別補佐に関する内規」、「東北大学病院専門別診療科等に関する内規」で定められているが、これらは院内のみ閲覧可能となっており、公表はされていない。 ・ 規程の主な内容 「東北大学会計規程」においては、部局の長を予算責任者として定め、予算の執行計画に関する事務を行わせることを定めている。 「東北大学病院の総括副院長及び副院長に関する申合せ」では、病院長が総括副院長及び副院長候補者を指名し、総長に推薦するものであることを定めている。「東北大学病院病院長特別補佐に関する内規」では、病院長特別補佐は病院長が任命することを定めている。 「東北大学病院専門別診療科等に関する内規」では、科長、副科長、医局長、病棟医長及び外来医長は、病院長が任命することを定めている。 ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割 本院では、歯科部門の責任者として総括副院長を1名置き、医科部門の副院長3名、歯科部門の副院長を2名置いている。また、現在、病院長特別補佐を20名置き、それぞれ別紙の役割を担っている。 ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況 国立大学病院長会議にて、国立大学病院の医事系、経営系事務職員等を対象として研修会が随時開催されている。また、次世代の病院運営を担う層に対して「病院長塾」や「次世代リーダー養成塾」も実施されている。

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 監査委員会の開催状況：年 2回 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・ 以下に掲げる事項について病院長に対し報告を求め、必要に応じて実地監査を行うこと。 <ul style="list-style-type: none"> イ 医療安全管理に係る体制 ロ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況 ハ 医療安全推進室の業務の状況 ニ 医療に係る安全管理のための委員会の業務の状況 ホ その他医療安全管理に関して必要な事項 ・ 必要に応じ、総長又は病院長に対し、医療安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を述べること。 ・ その結果を公表すること。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（<input checked="" type="checkbox"/>有・無） ・ 公表の方法：東北大学及び東北大学病院のホームページへの掲載。 	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
武田 和憲	社会保険診療 報酬支払基金 宮城支部	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
阿部 玲子	東北公済病院 看護部		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
佐藤 裕一	弁護士法人 杜協同法律 事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	1
原 忠篤	東北医科薬科 大学病院		医療を受ける者 その他医療従事者以外の者	有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

国立大学法人東北大学監事監査規程（公表）において、本学の監事監査の目的として「関係法令等に基づく適正な執行状況等について監査する」と定められている。この監査事項の詳細は、国立大学法人東北大学監事監査実施細則（非公表）に定められており、第3条第1項第9号に「病院管理者の業務の法令適合状況」が明記されている。

また、東北大学監事による監査が行われ、当該監査報告書に基づき改善すべき事項がある場合には、総長（病院開設者）は速やかに改善の措置を講ずることとしており、それにより取組の有効性の検証、適時に見直しを行える体制を構築している。

・ 専門部署の設置の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の整備の有無（ 有 ・ 無 ）

・ 内部規程の公表の有無（ 一部有 ・ 無 ）

・ 公表の方法

国立大学法人東北大学監事監査規程は国立大学法人東北大学規程集

(https://www1.g-reiki.net/tohoku.ac/reiki_honbun/u101RG00000453.html)にてweb公開されている。

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 平成15年度から本院には外部有識者で構成される「東北大学病院運営諮問会議」が設置され病院長の諮問に応じてその運営、将来計画等に関する重要事項を審議し、病院長に助言、勧告を行ってきた。 この会議体に平成30年9月から予算執行状況その他の本院の管理運営に関する重要事項について監督する機能も付与した。 ・ 会議体の実施状況（年2回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（<input checked="" type="checkbox"/>・無）（年2回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（有・<input checked="" type="checkbox"/>） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：東北大学病院運営諮問会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
安藤 健二郎	一般社団法人仙台市医師会	○	無
江面 正幸	独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター		無
原田 善教	学校法人東北学院		無
一力 雅彦	株式会社河北新報社		無
樋口 康二郎	東北電力株式会社		無
小林 英文	株式会社七十七銀行		無
伊藤 直之	伊藤・根本・渡邊法律事務所		有
郷内 淳子	有限会社ティー・ジイー		無
山田 理恵	東北電子産業株式会社		無
小椋 並樹	日本放送協会（NHK） 仙台放送局		無
白根 武史	トヨタ自動車東日本株式会社		無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="checkbox"/> ・ 無)・ 周知の方法 <p>窓口が設置された平成 28 年度に全病院職員に対してリーフレットを配布した。また、毎年 4 月当初に開催されるオリエンテーションにおいて全新規入職者を対象にリーフレットを配布し、医療安全に関するオリエンテーション内でも周知している。</p>